

佐賀大学
高等教育開発センター

自己点検・評価報告書

平成19年 9 月

目 次

1	高等教育開発センターの目的及び概要	3 頁
2	実施体制	6 頁
3	教員及び教育支援者	9 頁
4	学生支援等	13 頁
5	施設・設備	15 頁
6	教育の質の向上及び改善のためのシステム	17 頁
7	管理運営	20 頁
8	部門別活動	27 頁
 【資料編】		
1	規程集	29 頁
2	アンケート	42 頁
3	別添資料	47 頁

1. 高等教育開発センターの目的と概要

1.1 高等教育開発センターの目的

(1) 観点ごとの分析

1-1 センターの目的

(観点に係る状況)

佐賀大学高等教育開発センター（以下「センター」という）は、佐賀大学（以下「本学」という）の教育について調査・研究するとともに、その成果を教育活動に適用し、本学の目的と使命を達成することを目的としている。また、センターの目的は、佐賀大学高等教育開発センター規則中に定め、センターのホームページ (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/center/kotokyoiku.pdf>参照) に記載することによって明示している。

(分析結果とその根拠理由)

センターの目的を、ホームページに記載することによって明示していることから、センターとして目的を明確に定め、周知していると評価できる。

1.2 高等教育開発センターの概要

(観点に係る状況)

平成 18 年度からセンターは、より機能的な部門編成のための組織再編を行い、企画開発部門、修学支援部門、教育支援部門を設置し、以下の業務を担当した。

企画開発部門：

- (1) 教養教育等の大学教育に関する調査研究及び成果の公表に関すること。
- (2) 教育資源に関する調査研究及び利用形態の開発に関すること。
- (3) 参加型、創造型及び地域文化資源利用型等の教育システムの支援と改善に関すること。
- (4) その他大学教育に関する企画開発に必要な事項

修学支援部門：

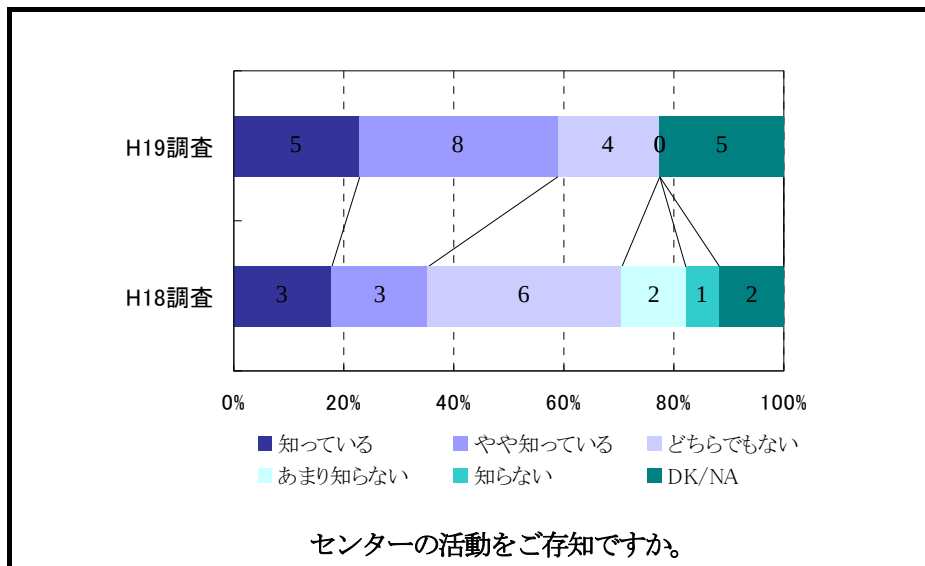
- (1) 学生の修学を支援するシステムの調査研究に関すること。
- (2) 学生の修学改善に関すること。
- (3) 学生の修学指導方法の開発に関すること。
- (4) その他大学教育に関する修学支援に必要な事項

教育支援部門：

- (1) ファカルティ・ディベロップメント (FD) に関する研修会等の全学的な実施及びその成果を利用した教育支援に関すること。
- (2) 授業評価及び教育方法についての調査、分析による教育方法の改善に関すること。
- (3) 教育評価法の開発と適用に関すること。
- (4) その他大学教育に関する教育支援に必要な事項

各部門の業務はセンター規則（資料編：規程集【p30】参照）をホームページに記載することによって周知した。また、大学教育委員会及びセンター運営委員会の委員を対象として Web アンケート（資料編：アンケート【p42】参照）を実施し、センターの活動が認識されているかどうかについて調査を行っている（資料A 参照）。

資料A



（出典 佐賀大学高等教育開発センター 自己点検評価アンケート）

（分析結果とその根拠理由）

前年度に引き続き、センターの活動をホームページ及び大学教育年報（<http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/Publications.html>参照）を刊行し、配布することにより周知した。また、今年度からセンターの活動記録をホームページから閲覧可能にしている。資料Aを参照する限り、センターの活動を「知っている」「やや知っている」とする回答の割合が増えていることから、センターの活動に対する認識は高まってきたといえる。

1.3 中期計画等実施状況

（観点に係る状況）

高等教育開発センターが主担当（注：111-01-5180-06は副担当）になっている年度計画の進捗状況に示されている通り、今年度は大学教育委員会と連携した活動を行い、大学教育の改善に資する活動に広く取り組んだ。（資料A 参照）。

資料 A

年度計画 番号	平成 18 年度計画	進捗状況
001-01-5180-06	①高等教育開発センターの役割を見直し、多岐にわたる教育プログラムの開発と高等教育のあり方や教育システム等の改善について積極的に提言を行っていく、より機能的な部門編成を行う。	1) センターの各部門を「企画開発」、「修学支援」、「教育支援」に再編すると共に、各部門長が大学教育委員会およびその下位組織である専門委員会に委員として参加する体制を整え、連携を強化した。 2) 併任教員（文化教育学部、理工学部、医学部から各 1 名）、客員研究員（1 名）を配置した。協力教員に関する内規を制定した。 3) ・GP シーズ開拓を目的として、募集要項および審査要項を作成し、学内から 22 件の応募を得た。その内 11 件を採択し、計 6,000 千円を配分した。 ・さらに、現在までの実績から、今後 GP 申請の可能性のある GP 等事業計画 6 件を選定し、うち 4 件に、計 4,000 千円を配分した。 ・センター長他 1 名が、GP シーズ情報提供のため GP 推進委員会委員となり、同委員会との連携を強化した。 ・GP 合同フォーラムに参加し、GP シーズの選定に資する情報を収集し GP 推進委員会へ提供した。 ・アジアハリウッド構想について WG を設置し、本学としての取組みについて検討した結果、「デジタル表現教育 WG」を設置し、デジタル表現教育の将来構想について大学教育委員会企画評価専門委員会へ提言し教養教育運営機構など関連部局と調整を行っている。
038-01-5180-06	①全学及び各学部等の教育担当委員会において、授業形態や学習指導法等の教育改善を行うシステムの点検と FD を実施し、改善を推進する。	1) ・大学教育委員会 FD 専門委員会と連携して、学生による授業評価の利活用を促進する全学 FD 体制の素案を作成した。・オンラインシラバス用の説明文を作成し、大学教育委員会教務専門委員会へ提案した。・また、学生による授業評価アンケートを多目的に利用できるように改訂すると共に、目的に応じて質問項目を選択できるようにするため用途別の指定項目リストを作成して大学教育委員会へ提出した。・さらに、地域創成教育プログラムの履修を体系化することを目的として、履修科目数および成績評価が一定の条件を満たした学生に認定証を発行するための素案を作成し、地域創成教育プログラム推進委員会に提出した。
062-01-5180-06	①高等教育開発センターにおいて、創造的教材、学習指導法に関する調査・研究を行い、全学的 FD により各授業科目担当教員のスキルアップを図る。	1) 学生の履修動態を調査・分析するためのアンケート票を作成し、大学教育委員会と連携して実施した学生対象アンケートに反映させた。学習指導法に関するインタビュー調査を開始し、経済学部を除く 7 名（2 名の 3 月実施予定者を含む）の教員を対象に実施し原稿を取りまとめている。インタビューについては、その結果を教員に周知するための Web ページを作成した（※インタビュー調査は次年度以降も継続して実施する予定である）。 ・また、授業改善をテーマとして、平成 18 年度第 1 回 FD・SD フォーラムを開催し、満足度調査を実施したところ、好評を得た。
065-01-5180-06	①高等教育開発センターと大学教育委員会が連携して、全学的な FD 活動に関する企画・立案を行い、全学的な実施を推進する。また、各学部においては、定期的に FD 活動を実施し、充実させる。	1) ・大学教育委員会と連携し、学生（3 年生・卒業予定者）及び教員を対象にアンケート調査を実施し、報告書を作成した。 ・また、文部科学省の GP に申請する前段階で学生の意見を聴取し、プログラムの改善に反映させるため、大学教育委員会との共催による FD・SD フォーラム「GP シーズ報告講演会」を開催しアンケート調査を実施した。 ・大学教育委員会と連携し、学生及び教員用の GPA 解説書の作成を開始した。
111-01-5180-06	①学外研究センターや「地域創成型学生参画教育モデル事業」を核にした学外サテライトは、学内とのインターネット・テレビ会議システム等による連携を強化し、研究推進に活用する。	2) 学外サテライトを含めた学外関係者との連携状況の点検・評価を通して、地域創成教育プログラムの事業推進に活かすための調査票案を地域創成教育プログラム推進委員会に提出し、対象者に配布・回収した。

（出典 平成 18 年度年度計画の進捗状況報告）

（分析結果とその根拠理由）

業務の内容が多岐にわたっていることも考慮すれば、センターは概ね精力的に活動し、中期目標および中期計画の達成に寄与していると評価できる。

2. 実施体制

(1) 観点ごとの分析

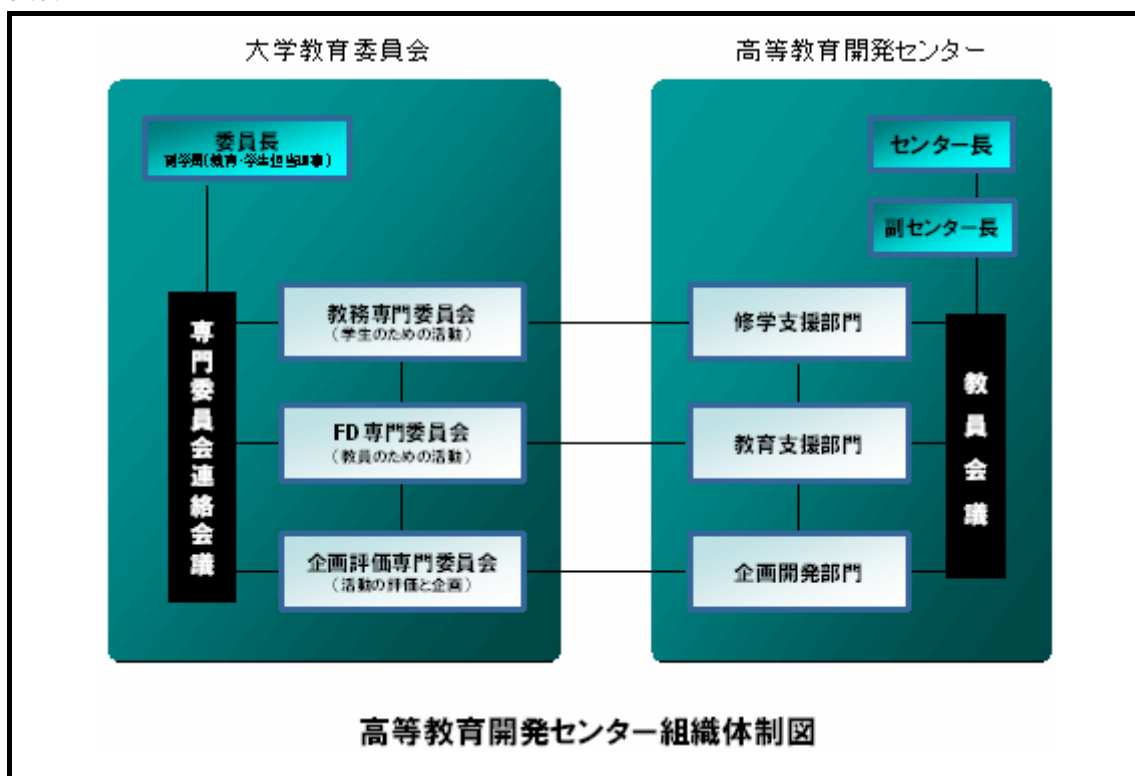
2-1-⑦ センターの構成が教育研究の目的を達成する上で適切か。

(観点に係る状況)

平成 18 年度から、センターの 3 部門長が大学教育委員会の教務専門委員会、FD 専門委員会、企画評価専門委員会に委員として参加する体制を構築し、部門活動と大学教育委員会の専門委員会の活動が一体となるよう、連携の強化を図った(資料 A 及び B 参照)。さらに、副センター長が企画評価専門委員長に就任し、教務専門委員長をセンター併任教員として委嘱したことにより(任期：平成 18 年 6 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)、大学教育委員会の専門委員会の委員長を、センター教員が務める組織体制が整った。専任講師 2 名については、オブザーバーとして大学教育委員会および専門委員会に参加している。

なお、教養教育運営機構協議会には修学支援部門長が委員として参加することになった(資料 C 参照)。

資料 A



(出典 佐賀大学高等教育開発センターホームページから)

資料B

平成18年度 佐賀大学大学教育委員会委員名簿

平成18年5月

学部等	職 名	氏 名	学内電話	任期	メールアドレス	専門委員会
	副学長	小 島 孝 之	8102	職 指 定	kojimat@cc.saga-u.ac.jp	
文化教育	学部長	撫 尾 知 信	8210	職 指 定	utsuot@cc.saga-u.ac.jp	
	教 授	大 隅 秀 晃	8323	H18.4.1～	ohsumi@cc.saga-u.ac.jp	教務
	助教授	山 下 宗 利	8230	H17.4.1～	yama@cc.saga-u.ac.jp	FD
	助教授	久 野 建 夫	8278	H18.4.1～	kuno@cc.saga-u.ac.jp	企画・評価
経済	学部長	納 富 一 郎	8410	職 指 定	noutomi@cc.saga-u.ac.jp	
	助教授	安 田 伸 一	8436	H17.4.1～	yasudas@cc.saga-u.ac.jp	教務
	助教授	井 上 亜 紀	8456	H18.4.1～	inouea@cc.saga-u.ac.jp	企画・評価
	助教授	品 川 優	8434	H18.4.1～	sinagawa@cc.saga-u.ac.jp	FD
医	学部長	木 本 雅 夫	2255	職 指 定	kimoto@med.saga-u.ac.jp	
	教 授	増 子 貞 彦	2221	H16.4.1～	masuko@med.saga-u.ac.jp	教務
	教 授	井 上 範 江	2532	H16.4.1～	inouen@med.saga-u.ac.jp	企画・評価
	教 授	藤 本 一 眞	2351	H16.4.1～	fujimoto@med.saga-u.ac.jp	FD
理工	学部長	中 島 晃	8510	職 指 定	ngakubucho@cc.saga-u.ac.jp	
	教 授	大 石 祐 司	8668	H17.4.1～	oishiy@cc.saga-u.ac.jp	教務
	教 授	船 久 保 公 一	8535	H18.4.1～	funakubo@cc.saga-u.ac.jp	FD
	教 授	宮 良 明 男	8623	H18.4.1～	miyara@me.saga-u.ac.jp	企画・評価
農	学部長	田 代 洋 丞	8710	職 指 定	tashiroy@cc.saga-u.ac.jp	
	教 授	加 藤 富 民 雄	8779	H18.4.1～	katof@cc.saga-u.ac.jp	FD
	助教授	長 裕 幸	8757	H17.4.1～	choh@cc.saga-u.ac.jp	教務
	助教授	辻 一 成	8731	H18.4.1～	tsujikjp@cc.saga-u.ac.jp	企画・評価
教養教育	機構長	江 崎 利 昭	8301	職 指 定	ezakit@cc.saga-u.ac.jp	
	教 授	山 下 壽 文	8427	H18.4.1～	yatoshi@cc.saga-u.ac.jp	教務
	教 授	遠 藤 隆	8844	H16.4.1～	endo@cc.saga-u.ac.jp	企画・評価
	助教授	奥 村 浩	8568	H18.4.1～	oku@is.saga-u.ac.jp	FD
高等教育	センター長	野 瀬 昭 博	8988	職 指 定	nosea@cc.saga-u.ac.jp	
	教 授	吉 中 幸 平	8291	H18.4.1～	yoshinak@cc.saga-u.ac.jp	教務
	教 授	角 和 博	8374	H18.4.1～	sumik@cc.saga-u.ac.jp	企画・評価
	助教授	川 野 良 信	8314	H18.4.1～	kawanoy@cc.saga-u.ac.jp	FD
保健管理	センター所長	佐 藤 武	8180	オブザーバー	satot@cc.saga-u.ac.jp	
高等教育	講 師	村 山 詩 帆	8987	オブザーバー	murayas@cc.saga-u.ac.jp	FD
高等教育	講 師	梶 間 みどり	8989	オブザーバー	kajimam@cc.saga-u.ac.jp	
学務部	学務部長	中 道 公 壽	8160		nakamick@cc.saga-u.ac.jp	
	教務課長	宮 川 洋	8161		miyagawa@cc.saga-u.ac.jp	
	教務課課長補佐	奥 村 直 美	8162		okumuran@cc.saga-u.ac.jp	
	総務係長	佐 藤 和 男	3160		satokazu@cc.saga-u.ac.jp	
	教育支援係長	江 崎 浩	8163		esakihi@cc.saga-u.ac.jp	
	教育支援係	牛 嶋 良 太	8164		usjimar@cc.saga-u.ac.jp	
医学部	学生サービス課長	東 家 廣 典	3103		touya@cc.saga-u.ac.jp	
	学生サービス課長補佐	田 崎 法 人	3126		tasakin@med.saga-u.ac.jp	
	教務系係長	中 島 豊 彦	3127		nakamato@cc.saga-u.ac.jp	

* 両キャンパス間の架電には、4桁の数字の前に6を附してください。

(出典 平成18年度大学教育委員会名簿の該当箇所)

資料 C

平成 18 年度教養教育運営機構委員名簿				
◎教養教育運営機構長 江崎 利昭（9部会所属）内線 8810、8301 ◎教養教育運営機構副機構長 山下 壽文（10部会所属）内線 8427 ◎教養教育運営機構副機構長 奥村 浩（1部会所属）内線 8568 ◎教養教育運営機構副機構長 遠藤 隆（5部会所属）内線 8844				
部 会	部 会 長	部 会 幹 事		
1 文化と芸術	田中 右紀 講師 文 8345	井上 敏幸（教） 教授 文 8244	奥村 浩（広） 助教授 理工 8568	佐長 健司（F） 教授 文 8241
2 思想と歴史	近藤 則之 教授 文 8224	田村 榮子（教） 教授 文 8273	丹羽 和彦（広） 教授 理工 8570	永島 広紀（F） 助教授 文 8253
3 現代社会の構造	福島 宏 教授 経 8464	富崎 卓朗（教） 助教授 経 8444	小川 哲彦（広） 助教授 経 8449	都築 治彦（F） 助教授 経 8445
4 人間環境と健康	柳田 晃良 教授 農 8782	久野 建夫（教） 助教授 文 8278	芳野 正昭（広） 助教授 文 8286	村久保 雅孝（F） 助教授 医 2508
5 数理と自然	鈴木 史郎 教授 理工 8536	鈴木 信彦（教） 教授 農 8792	花本 猛士（広） 助教授 理工 8704	上原 健（F） 教授 理工 8507
6 科学技術と生産	荒牧 軍治 教授 理工 8688	深井 澄夫（教） 助教授 理工 8663	池上 康之（広） 助教授 海 8649	大島 一里（F） 教授 農 8730
7 地域と文明	岩尾 雄四郎 教授 理工 8687	村山 詩帆（教） 講師 高 8987	齋藤 ひさ子（広） 教授 医 2550	近藤 榮造（F） 教授 農 8748
8 外国語	古賀 豊 助教授 文 8296	熊本 千明（教） 教授 文 8294	柿原 正幸（広） 助教授 医 2183	中村 朱美（F） 助教授 留 8984
9 健康・スポーツ	福本 敏雄 教授 文 8356	池上 寿伸（教） 助教授 文 8355	檜垣 靖樹（広） 助教授 医 2282	坂元 康成（F） 助教授 文 8360
10 情報処理	内田 進 教授 農 8763	山下 壽文（教） 教授 経 8427	山下 宗利（広） 助教授 文 8230	大串浩一郎（F） 助教授 理工 8686
高等教育開発センター	古中 幸平（教） 教授 高 8291			

文：文化教育学部 経：経済学部 医：医学部 理工：理工学部 農：農学部
 海：海洋エネルギー研究センター 留：留学生センター 高：高等教育開発センター
 ※（教）：教務委員（広）：広報委員（F）：FD委員

（出典 平成 18 年度教養教育運営機構委員名簿の該当箇所）

（分析結果とその根拠理由）

センターの広範囲に及ぶ業務内容に比べ、構成員の数が少なく、教育研究上の専門的知識・技能をセンターの活動に直接活用しにくい部分があるのは否めない。ただし、大学教育委員会との連携体制が確実に強化され、部門活動に関係のある実績を有する教員を併任教員として委嘱したことにより、センターの構成が抱える短所の少なからぬ部分は補完できているといえる。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

大学教育委員会の 3 つの専門委員会すべてとの連携を実現し、情報の交換効率の改善を図っている点は評価できる。

（改善を要する点）

大学教育委員会との連携は中期計画に定められている事項であるが、現在の連携体制の強さは、センターの教員が大学教育委員会の 3 つの専門委員会の委員長を務めている点にかかっている。現在の連携体制の強さを支える構成を、今後も維持していくことが大きな課題となっている。

3. 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

3-1-⑥ 大学の目的に応じて、教員組織の活動を活性化するための適切な処置

(観点に係る状況)

平成 18 年度は、文化教育学部から 2 年任期の専任教員 2 名を選出し、3 部門のうち 2 部門に部門長として配置した。また、前年度から引き続き学長裁量の全学運用仮定定員枠により専任講師 2 名を、企画開発部門、教育支援部門に 1 名ずつ配置した。

なお、平成 18 年度は、男性 6 名、女性 1 名（専任講師）でスタートしたが、4 月以降の 2 名の併任教員受入れと、6 月 30 日付の女性 1 名（専任講師）の退職により、最終的には男性 8 名（女性 0 名）の配置 (http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/staff_H18.html参照) となり、平均年齢は約 48 歳となっている（資料 A 参照）。外国人教員については、前年度に引き続き、配置していない。

資料 A

センター長	・	58 歳
副センター長	・	50 歳
企画開発部門・教授（部門長）	・	51 歳
〃	・	助教授
修学支援部門・教授（部門長）	・	58 歳
〃	・	教授
教育支援部門・助教授（部門長）	・	44 歳
〃	・	講師

(分析結果とその根拠理由)

学部から配置換えられた専任教員が出身学部の組織・運営に係る業務を部分的に免れているのみである点は、前年度から変わっていない。既存の委員会体制に比べ、業務の遂行に伴われる負担がやや小さいという程度である。また、学内からの任期付き専任教員については、6 名から 3 名に減少したものの、併任教員を 3 名配置したことにより、最終的にはセンター長（併任）1 名、副センター長（併任）1 名、専任教員 3 名、併任教員 3 名となり、センターの活動が停滞するのを防ぐことができている。

女性教員および外国人教員は配置していないが、今年度については女性教員や外国人教員に適した業務が特になかったこともあり、業務の遂行に支障は生じていない。

3-2-① 教員の採用基準や資格基準等が明確かつ適切に定められ、適切に運用されているか。

(観点に係る状況)

センター長は学長指名により選考され、副センター長については佐賀大学高等教育開発センター副センター長選考規程に基づき選考される (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/center/kotokyoikufuku.pdf>参照)。また、佐賀大学高等教育開発センター教員選考規程に基づき、センター運営委員会の議を経て、2 年任期の専任教員を選考し、文化教育学部から 2 名を採用した (http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/staff_H18.html参照)。また、平成 16 年 4 月 1 日採用の学長裁量の全学運用仮定定員枠の専任講師 2 名の選考に際しては、公募書類に研究活動の他、教育的活動、社会における活動、管理・運営に関する活動を記載させるようにした（資料 A 参照）。

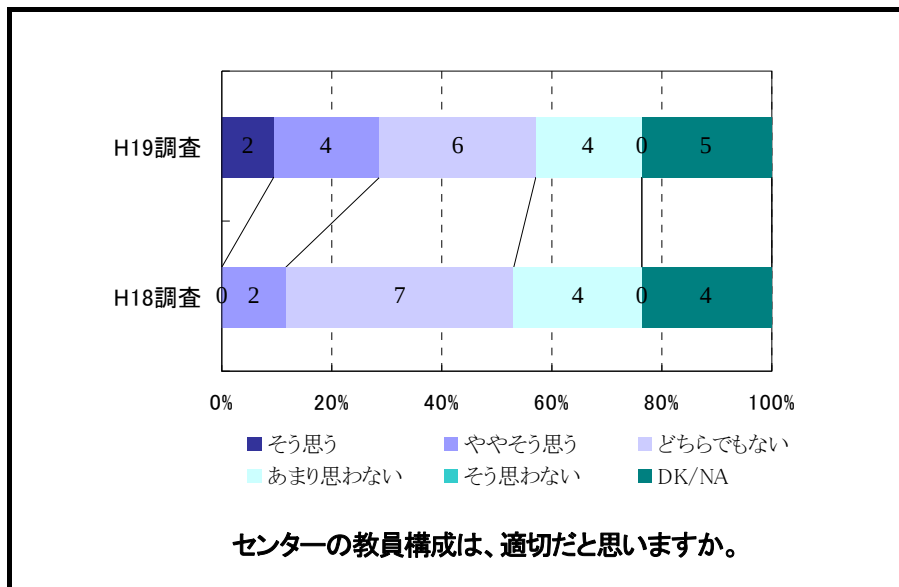
資料 A

		佐大教職 第1005号 平成15年12月10日
関係機関の長 殿	佐賀大学高等教育開発センター長 新 富 康 央 (公印省略)	
教員の公募について (依頼)		
謹啓 時下ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。 さて、このたび本学高等教育開発センターでは、下記の要領で教員を公募することになりました。 つきましては、貴機関関係各位に御周知方よろしくお願い申し上げます。		
記		
1. 所 属	佐賀大学高等教育開発センター	
2. 専門分野	高等教育分野	
3. 担当部門及び人員	教養教育部門及び教育支援・教育評価部門 各1名	
4. 採用職名	助教授又は講師	
5. 主たる業務	・教養教育部門 (1) 教養教育に関する調査研究及び成果の公表 (2) 教養教育科目の企画及び立案 (3) 教養教育実施システム改善案の策定 (4) その他教養教育の改善に関する諸業務 (5) 教養教育科目の講義担当 ・教育支援・教育評価部門 (1) 教育方法の調査及び分析 (2) ファカルティ・ディベロップメント (FD) の実施及びその成果を利用した教育支援 (3) 国内外の教育システムの調査研究と成果の利用 (4) 教育評価法の開発と適用 (5) その他大学教育に関する教育支援・教育評価に関する諸業務 (6) 教養教育科目の講義担当	
6. 応募資格	(1) 博士若しくは修士の学位を有する者又は専門分野において優れた業績若しくは能力を有すると認められる者 (2) 大学改革に意欲を有する者 (3) 原則として45歳以下の者が望ましい	
7. 提出書類	(1) 履歴書 (写真貼付、学歴は高等学校卒業以上を記入) (2) 最終学校の卒業証明書又は修了証明書 (3) 健康診断書 (国公立の病院又は保健所発行のもの。) (4) 研究業績一覧表 1) 著書 2) 学術論文 3) 参考論文 4) 学会講演・口頭発表 (5) 教育等業績 1) 加入学会、学会役員 2) 教育的活動 3) 社会における活動 4) 管理・運営に関する活動 (委員会活動を含む。) (6) 上記一覧表に記載された業績のうち主要なもの20点以内 (別刷、コピー可) (7) 研究業績の概要 (1,000字程度) (8) 着任後の研究計画等に関して記述をしたもの (2,000字程度) なお、応募書類は返却しませんので、予め御了承ください。	
8. 応募期限	平成16年1月30日 (金) [必着]	
9. 採用予定日	平成16年4月1日 (木) 以降	
10. 応募書類の提出先	〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学高等教育開発センター長 宛 (封筒の表に「高等教育開発センター〇〇部門教員応募書類」と朱書きし、書留郵便にて郵送してください。)	
11. 問い合わせ先	佐賀大学学務部教務課 (担当: 塩塚) 電 話 0952-28-8402 F A X 0952-28-8170 Email shotsuk@cc.saga-u.ac.jp	
12. その他	(1) 結果は本人に通知します。 (2) 書類選考の後、最終選考対象者に対して面接等を実施する予定です。(その際の旅費は、自己負担とします。)	

(出典 センター専任講師公募書類)

なお、大学教育委員会及びセンター運営委員会の委員を対象として実施した Web アンケートにより、センターの教員構成が適切かどうかについて尋ねている（資料 B 及び資料編：アンケート【p43】参照）。

資料 B



（出典 佐賀大学高等教育開発センター 自己点検評価アンケート）

（分析結果とその根拠理由）

平成 18 年度は、前年度と同じ数の専任教員を確保できなかったが、併任教員 3 名を文化教育学部、医学部、理工学部から各 1 名を委嘱することができた。センター長は農学部からの併任であるため、4 学部の教員から構成されるセンターとなった。また、資料 B ではセンターの教員構成を適切と考える割合が増えている。これらの点を考え合わせると、センターの教員採用は概ね適切な基準によって実施されたと判断できる。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

年齢の構成が特定の年齢層に偏っていないこと、併任教員を学部の偏りが殆どない形で配置できている点は評価できる。

（改善を要する点）

センターの教員を既存の学部から任期付きの専任教員として選考する場合、選考された専任教員が担当していた学部の授業を、学部の他の教員が代行しにくい事情から、学部から選考された専任教員は出身学部の授業担当を免れないなどの問題は、解決できていない。また、併任教員の配置についても、選考された教員および選考された教員の出身学部に過大な負担を強いる点は同じである。この問題は容易に改善できるものではないが、活動を活性化しつつ、少しでも負担を軽減するため、センターの特定の業務のみに従事する教員である協力教員を配置できるよう規則を整備した（<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/center/kotokyoiku.pdf>参照）。

（3）基準 3 の自己評価の概要

文化教育学部から 2 年任期の専任教員 2 名を選考し、学長裁量の全学運用仮定定員枠による専任講師 2 名とあわせて、それぞれ各

部門に1名以上の専任教員を配置した。性別構成については、女性教員（専任講師）の退職により偏りが大きくなったものの、年齢構成は特定の年齢層に偏らない教員を配置している。さらに、規則を整備して併任教員を配置したことにより、4学部の教員から構成されるセンターとなった。こうした措置により、全学的な活動を推進する体制の確立に向けて大きく前進した。

ただし、センターの教員を既存の学部から任期付きの専任教員として、もしくは併任教員として配置するにあたり、出身学部または併任する学部の業務を免れない。このため、業務の負担をめぐる問題が発生しやすく、活動の活性化には相当な無理がかかる状況となっている。

4. 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

4-1-② 学習相談、助言(例えば、オフィスアワーの設定等が考えられる。)が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

専任教員4名(うち1名は:平成18年6月30日付け退職)はオフィスアワーを設定し(資料A参照)、随時もしくは定期的に大学院生等からの相談に応じ、修士論文の作成、研究活動上の助言および助力を行った(資料B参照)。

資料A

専任教員①	専任教員②	専任教員③	専任教員④
前期:毎週月曜日4校時 後期:毎週木曜日3,4校時	前期:毎週水曜日3校時 後期:毎週火曜日3校時	随時	随時(メールによる事前連絡は必要)

(出典 大学教育委員会推奨様式1.3他)

資料B

専任教員①	専任教員②	専任教員③	専任教員④
電子メールによる相談(5回)	データなし	電子メールによる相談(4回)	データなし

(出典 大学教育委員会推奨様式1.3)

(分析結果とその根拠理由)

センターの専任教員中2名は、教育学研究科に所属していることから、オフィスアワーを設定し、担当する授業科目の受講生等からの相談を受け付け、助言および助力を行っている。

4-1-③ 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。

(観点に係る状況)

大学教育委員会との連携により、学部3年次生、大学院修士課程・博士前期課程2年次生及び博士後期課程2年次生を対象に「学生対象アンケート」を実施し、学習支援に関する活動、取り組み等について、学生の満足度を調査した。調査の結果については、報告書にまとめて大学教育委員会に報告するとともに、Web上に掲載して学内の教職員に周知した(資料編:別添資料4-1-③参照)。

(分析結果とその根拠理由)

学生の学習支援に関するニーズを、学修相談からコンピューターの利用環境を含む学習環境などの観点から多角的に調査していることから、学生のニーズの充足状況を把握する役割を果たしたものと判断できる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

センター教員はオフィスアワーを設定して学生支援に寄与するとともに、学生のニーズの充足状況から学生のニーズを把握するための全学的な調査に取り組んでいる。

(改善を要する点)

センターの3部門を改組し、修学支援部門を設置したが、直接学生の修学を支援する取り組みについては実施できていない。平成19年度に全学的な学生支援の一環として、修学支援部門を中心に学生のためのハンドブックを作成することを予定している。

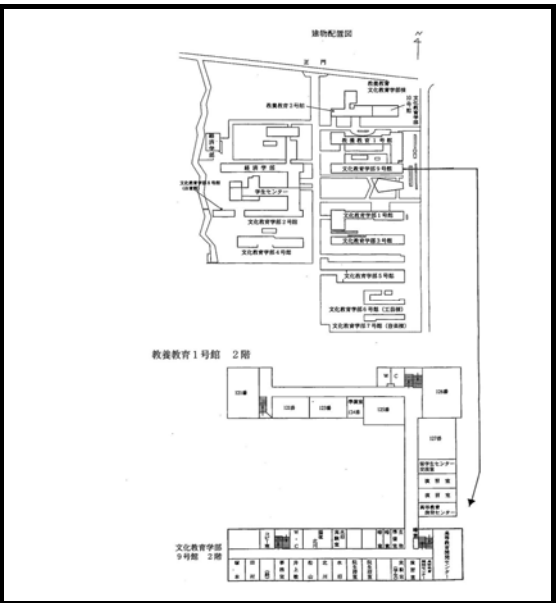
5. 施設・設備

5-1-① 組織の運営にふさわしい施設・設備等が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

専任教員4名のうち、2名(うち1名は:平成18年6月30日付け退職)について、採用時(平成16年4月1日)に専用の研究室を整備した(資料A参照)。また、調査研究に必要なビデオカメラ類、データの解析に必要な統計パッケージ類の他、プレゼンテーション用のプロジェクター、スクリーンを備えている(資料B参照)。プロジェクターなどの機器については、センターの教員のみならず、貸出しの要望にも可能な限り応じており、全学委員会のWG等による会議にも使用している。

資料A



(出典 高等教育開発センター配置図)

資料B

高等教育開発センター保有設備リスト		
品名	型名	金額
1 統計ソフト	BaseSystem12DJ	98,000
2 統計ソフト	RegressionModels	58,000
3 共分散構造分析ソフト	Amos5.0	98,000
4 デジタルカメラ	DSC-P10	47,565
5 デジタルカメラ	DSC-V3	70,000
6 デジタルカメラレコーダー	DCR-HC40	90,720
7 スキャナー(Scan Snap)	f-4110EOX3	50,190
8 OHP用スクリーン(スタンド式)	ライオンFS-180M	38,220
9 モバイルスクリーン	KP-60	52,500
10 OHP用白板	BB-R734W3PS	55,650
11 パーソナルコンピューター(ソニー)	PCG-X550CP	249,800
12 パーソナルコンピューター(ソニー)	VGN-T90PSY1	227,800
13 EXCELアンケート太閤Ver. 4. 0	アカデミック	110,565
14 液晶プロジェクター(エプソン)	EMP-74XGA200	236,145
15 液晶プロジェクター(ソニー)	VPL-CX20	158,000
16 大判プリンタ セットモデル(エプソン)	PX-75SCFP	235,000
合計		1,876,155

(出典 高等教育開発センター保有設備リスト)

(分析結果とその根拠理由)

センターは、センター長室、会議スペース、事務スペースに区分されているが、それぞれ十分な広さが確保されており、また隣室に学長採用の全学運用仮定定員で新規に採用した専任教員の研究室を配置し相互連絡が取りやすい。なお小規模なセンターではあるが、調査研究に必要な設備等が十分に備えられ、かつ有効に活用されていると判断できる。

5-1-③ 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、周知されているか。

(観点に係る状況)

施設・設備の運用方針については、特に規定していない。ただし、現状ではセンターの施設・設備の運用にあたり、支障は生じていない。

(分析結果とその根拠理由)

センターの施設・設備は、教育に係る調査・研究のための機器が中心となっているため、利用希望はさほど大きくないと考えられる。したがって、積極的に全学的な運用を推進するのは、少なくとも現段階では適当とはいえない。施設・設備の運用に関する規程はないものの、弾力的な運用で対応しているのは妥当と判断する。

5-2-① 図書、学術雑誌その他必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

センターは、学外から寄贈された高等教育関係の報告書、文献等を閲覧できる形で保管するとともに、リスト化したものをホームページに掲載し、要請があれば貸出しを行っている (http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/library_H19.htm参照)。

(分析結果とその根拠理由)

学外から寄贈された高等教育関係の報告書等をセンター室で閲覧できるよう配架することにより、随時利用されており、センターの調査研究、資料作成等に有効に活用されている。

6. 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

6-1-① 教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積しているか。

(観点に係る状況)

平成 18 年度は、教員による教育活動の現状を解明することを目的として、大学教育委員会と修学支援部門が連携し、本学の教員を対象にアンケート調査を実施した。調査の結果については報告書を作成し、大学教育委員会に提出するとともに、Web により教職員への周知を図った（資料編：別添資料 6-1-①参照）。

(分析結果とその根拠理由)

アンケート票の回収率は約 54%に止まったが、前年度までの各種アンケート調査に引き続き、調査活動に精力的に取り組み、多数多様のデータや資料の収集・蓄積を推進したとして評価できる。

6-1-② 学生の意見の聴取(例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。)が行われており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

平成 18 年度は、学生からの意見を集約し、教育環境全体の評価・点検を行うため、大学教育委員会と教育支援部門が連携して学生（学部 3 年生、大学院修士課程（博士前期課程）、博士課程（博士後期課程）の 2 年生）を対象にアンケート調査を実施した。アンケート調査の結果については報告書にまとめ、大学教育委員会へ提出するとともに、全教員に配信した（資料編：別添資料 4-1-③参照）。

(分析結果とその根拠理由)

作成した報告書の集計は学部別に掲載し、各学部等が自己評価書の作成に利用できるよう配慮している。また、一例として教養教育運営機構の部会教員会議の資料として活用されている（資料編：別添資料 6-1-②参照）。なお、次年度以降も引き続きアンケートを実施し、今年度のアンケート調査から判明した問題点が改善に結び付いているかを検証することを予定している。

6-1-③ 学外関係者(例えば、卒業(修了)生、就職先等の関係者等が考えられる。)の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

平成 17, 18 年度の自己点検・評価報告書について、学外者により検証を受け、自己点検・評価の内容の見直しを図った（資料編：別添資料 6-1-③参照）。また、大学教育委員会と連携し、卒業予定者（学部 4 年生）および修了予定者（大学院修士課程・博士前期課程の 2 年生）を対象として、卒業・修了時にアンケート調査を実施した。アンケート調査の結果については報告書にまとめ、大学教育委員会へ提出した。

(分析結果とその根拠理由)

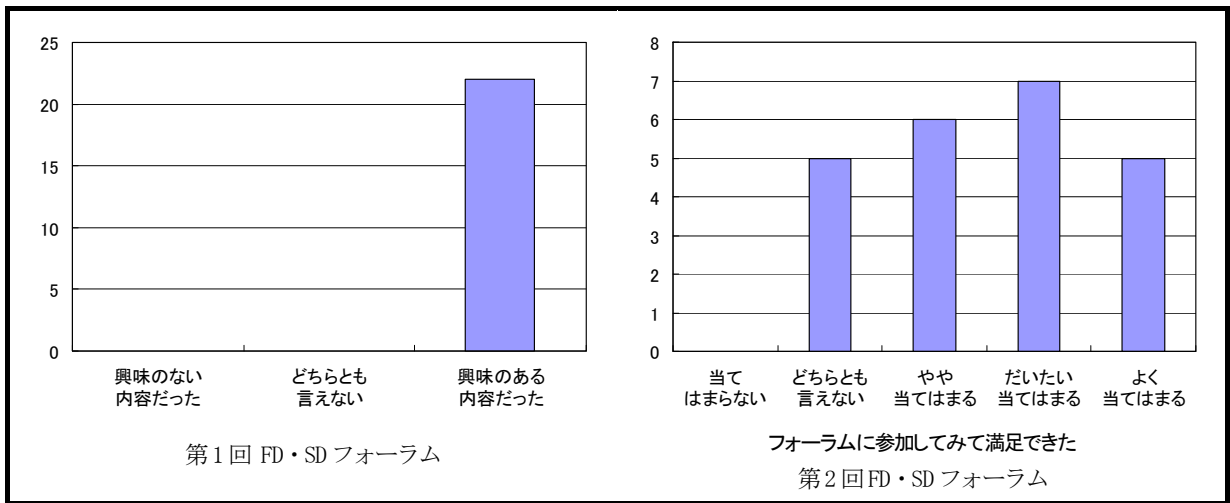
作成した報告書の集計は学部別に掲載し、各学部等が自己評価書の作成に利用できるよう配慮しているが、今年度の時点では、大学教育委員会に提出するに止まっている。次年度以降も引き続きアンケートを実施する予定であるが、自己点検評価への反映もまた、次年度以降の課題として残されることになった。

6-2-① ファカルティ・ディベロップメントについて、学生や教職員のニーズが反映されており、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

大学教育委員会との共催により、佐賀大学FD・SDフォーラムを企画し、平成18年度は2回開催した(<http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/Record%20of%20Activities.html>参照)。第1回フォーラムでは、教員の授業改善の試みについての報告講演を行い、第2回では教育的取り組み支援事業であるGPシーズの活動報告を兼ねた講演を、事業への協力者としての学生を交えて開催した。第1回および第2回フォーラムでアンケート調査を実施しているが、いずれも好評を得た(資料A参照)。

資料A



(出典 佐賀大学FD・SD フォーラムに関する調査)

(分析結果とその根拠理由)

フォーラムへの学生参加の取り組みを継続して実施するとともに、毎回アンケートを実施し、学生や教職員の意見を聴取している。また、アンケートの結果からも、フォーラムの内容は肯定的に評価されている。有効な組織体制という点では改善の余地を残しているものの、概ね適切な方法で実施しているものと判断する。

6-2-② ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結びついているか。

(観点に係る状況)

大学教育委員会との共催によりFD・SDフォーラムを企画し、第2回アンケート結果については、講演者へフィードバックした。

また、教育の質の向上や授業の改善に資するための資料として、習得してほしい知識・技能等、学習の方法、成績評価の方法、授業改善の方法等の観点から、教員を対象としたインタビューを開始し、その記録をホームページ上に掲載した(<http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/interview.html>参照)。

本学の教員を対象に実施したアンケート調査の結果によれば、FD 講演会・研修会等が役に立つと回答している教員の割合は 19%、役に立たないという回答は 8%であった(資料編: 別添資料 6-1-①【p.12】参照)。一方、卒業・修了予定者を対象としたアンケートの結果によれば、いずれの学部も 50%前後が満足、やや満足と回答しており、不満足、やや不満足と回答しているのは 13%前後に止まっている。

(分析結果とその根拠理由)

ファカルティ・ディベロップメントの取り組みに対する教員からの評価は、活動の内容を改善していく余地があることを示しているが、学生からの評価については、ファカルティ・ディベロップメントが直接的に果たしてきた貢献度は明らかではないものの、一定の成果はあったものと考えられる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

継続して FD 活動に学生を動員し、学内公募した教育プログラムへの意見を聴取している点については、特色ある取り組みであると評価できる。

(改善を要する点)

FD への取り組みが必ずしも役に立つものと認識されていない面があるものの、各種アンケート調査を実施し、FD のための問題点の導出を図っている。

(3) 基準 9 の自己評価の概要

平成 18 年度は、教員および学生、卒業・修了予定者からの意見を全学的に聴取し、報告書を作成した。これにより、教育活動の現状を解明し、改善に資するためのデータや資料の収集・蓄積を推進した。調査報告書は大学教育委員会に提出し、各学部等が自己評価書の作成に利用できるよう、報告書の一部を Web により教職員へ周知した。なお、平成 17, 18 年度の自己点検・評価報告書の評価手法、評価基準及び評価の妥当性については、学外者による検証を受け、見直しを図った。

また、大学教育委員会との共催により、佐賀大学 FD・SD フォーラムを開催し、教員の授業改善に資する報告、教育的取り組み支援事業である GP シーズについて学生を交えた活動報告を行った。また、教育の質の向上や授業の改善に資するための、FD 活動のフォローアップの一環として教員を対象としたインタビューを実施し、ホームページ上から記録内容を閲覧できるようホームページを更新した。

しかしながら、FD の取り組みには、改善の余地があることが、各種アンケートの実施を通して判明している。今後、アンケート調査データの分析を進め、FD 活動に取り組むべき課題を特定化する必要がある。

7. 管理運営

(1) 観点ごとの分析

7-1-① 管理運営組織及び事務組織

(観点に係る状況)

センターは、センター長（1名）と副センター長（1名）の下に、各部門の部門長（3名）及び部門教員（3名）を配置し、その管理運営に係る活動については、高等教育開発センター系の事務職員1名と事務補佐員1名が支援する体制をとっている。また、佐賀大学高等教育開発センター規則の第9条第2項に、センターに運営委員会（http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/staff_H18.html参照）を設置し、管理運営に係る事項を審議することを定めている（<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/center/kotokyoiku.pdf>参照）。なおセンター長は教育研究評議会の評議員（農学部）でもあるので、教育研究評議会が決定する方針も考慮しながら、センターの業務を遂行している（資料A参照）。

センターに設置した、企画開発部門、修学支援部門、教育支援部門は、連携・協力しながら、センターの業務に従事している。さらに、大学教育委員会の各専門委員会に部門長がそれぞれ出席し（2-1-⑦資料A及びB【p6】【p7】参照）、教養教育運営機構協議会に修学支援部門長が委員として出席している（2-1-⑦資料C【p8】参照）。

資料A

教育研究評議会名簿				
平成 18 年 4 月 1 日				
部 局	職 名	氏 名	任 期	備 考
	学 長	長谷川 照	平成17年10月1日～平成21年9月30日	規則第2条第1号 学長
	理事(教育・学生担当)	小 島 孝 之	平成17年10月1日～平成19年9月30日	規則第2条第2号 学長が指名する理事
	理事(研究・企画・産学連携担当)	西 河 貞 捷	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
	理事(国際貢献・人事労務担当)	古 賀 和 文	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
	理事(社会貢献・医療・広報担当)	向 井 常 博	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
	副学長	十 時 忠 秀	平成18年4月1日～平成19年10月1日	規則第2条第3号 副学長
	副学長	辻 健 児	平成18年4月1日～平成19年3月31日	〃
文化教育学部	学部長	撫 尾 知 信	平成18年4月1日～平成20年3月31日	規則第2条第4号 学部長
経済学部	学部長	納 富 一 郎	平成18年4月1日～平成20年3月31日	〃
医学部	学部長	木 本 雅 夫	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
理工学部	学部長	中 島 晃	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
農学部	学部長	田 代 洋 丞	平成18年4月1日～平成20年3月31日	〃
附属図書館	館 長	高 崎 洋 三	平成18年4月1日～平成20年3月31日	規則第2条第5号 附属図書館長
教養教育運営機構	機構長	江 崎 利 昭	平成18年4月1日～平成20年3月31日	規則第2条第6号 教養教育運営機構長
文化教育学部	教 授	松 尾 正 幸	平成18年4月1日～平成19年9月30日	規則第2条第7号 学部推薦
〃	教 授	田 中 豊 治	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
経済学部	教 授	飯 塚 正 朝	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
〃	教 授	飯 盛 信 男	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
医学部	教 授	長 澤 浩 平	平成18年4月1日～平成19年10月1日	〃
〃	教 授	頭 原 嗣 尚	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
理工学部	教 授	吉 野 英 弘	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
〃	教 授	渡 邊 訓 甫	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
農学部	教 授	野 瀬 昭 博	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
〃	教 授	藤 田 修 二	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃
医学部	教 授	増 子 貞 彦	平成17年10月1日～平成19年9月30日	規則第2条第8号 その他学長指名職員
シンクロtron光応用研究センター	教 授	小 川 博 司	平成17年10月1日～平成19年9月30日	〃

(出典 教育研究評議会名簿)

(分析結果とその根拠理由)

センターの管理運営体制は、平成 18 年度から大学教育委員会との連携の強化を考慮して整備された。おおむね適正なものになってきたと評価できる。

7-1-② 大学の目的を達成するために、効果的な意思決定が行える組織形態となっているか。

(観点に係る状況)

センター長は、佐賀大学高等教育開発センター規則の第 5 条に定めるように、学長の指名により選考される(<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/center/kotokyoku.pdf>参照)。また、2-1-⑦で述べた通り、平成 18 年度からセンターの 3 部門長が大学教育委員会の企画評価専門委員会、教務専門委員会、FD専門委員会に委員として参加し、月 1 回の連絡会議を開催するなど、教育・学生担当理事を委員長とする大学教育委員会との連携強化を図っている。

なお、センターの業務については、引き続きセンター教員会議 (<http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/Record%20of%20Activities.html>参照)、センターの管理運営の基本方針に関する事項、センターの人事に関する事項、その他センターの管理運営に関する重要事項は、センター運営委員会において審議している (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/center/kotokyoiku.pdf>参照)。

(分析結果とその根拠理由)

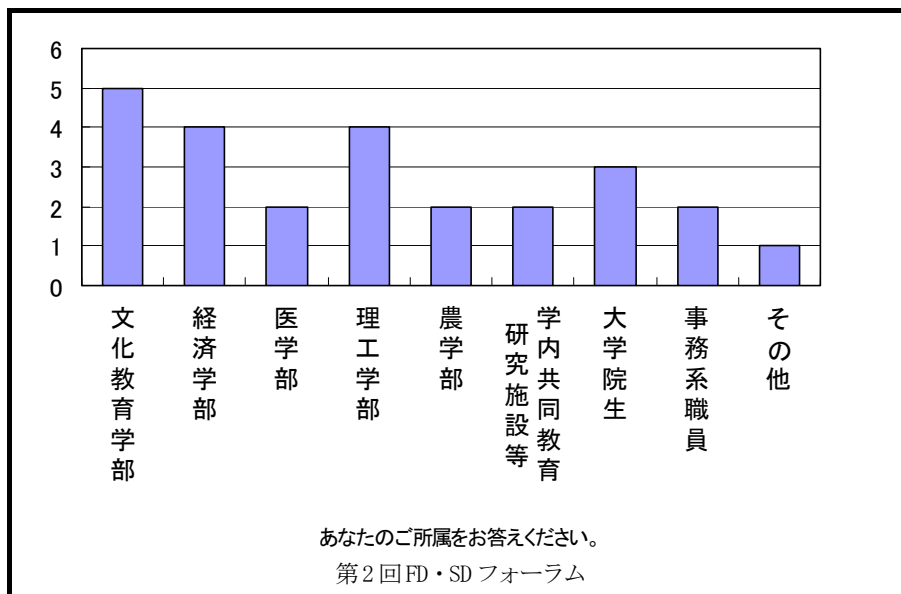
センターの意思決定に学長および教育・学生担当理事の意向を反映しやすい体制になっていることから、大学の目的を達成するための効果的な意思決定が可能な組織体制になっていると評価できる。

7-1-③ 学生、教員、事務職員等、その他学外関係者のニーズの把握、反映

(観点に係る状況)

センターは学生定員がないため、管理運営に学生のニーズを反映させる取り組みは行っていないが、事務職員等については、FD・SD フォーラムの参加者を対象として、FD に関するニーズ等を聴取している (資料 A 参照)。また、教員のニーズについては別途にアンケートを実施することにより、「今後、センターにどのような役割を期待しますか」という質問に対する回答を得ている (資料編：アンケート【p44】参照)。

資料 A



(出典 佐賀大学FD・SD フォーラムに関する調査)

(分析結果とその根拠理由)

学生や学外関係者のニーズは把握できていないものの、教員や事務職員等のニーズについては各種アンケートを通して聴取している。さらに、アンケートの結果に基づき、平成19年度からセンターの構成を見直すとともに、センターの3部門を4部門にすることをセンター運営委員会で審議し、決定している (資料編：別添資料7-1-③参照)。こうしたことから、主な関係者のニーズについては概ね把握し、反映されていると判断する。

7-1-⑤ 管理運営職員の研修等

(観点に係る状況)

センターの管理運営職員として、センター長は他機関が開催する研修等に参加している(資料A参照)。

資料A

高等教育開発センター長 研修受講状況一覧		
出張期間	用務先	用務
H18/11/21～11/22	学術総合センター	大学マネージメントセミナー(教育編)へ参加
H18/12/12	アクロス福岡	平成18年度「特色ある大学教育支援プログラム」フォーラム参加

(出典 管理運営職員の研修受講状況一覧)

(分析結果とその根拠理由)

高等教育開発センターという小規模なセンターのためのセミナー、フォーラムでは必ずしもないが、管理運営のパフォーマンス向上に資する活動への参加状況は概ね妥当であると評価できる。

7-2-① 管理運営の方針、諸規程整備、委員等の選考、構成員の責務権限の文書

(観点に係る状況)

管理運営の方針については、佐賀大学高等教育開発センター運営委員会を設置し、管理運営の基本方針に関する審議を行うことを、佐賀大学高等教育開発センター規則に明記している(<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/center/kotokyoiku.pdf>参照)。なおセンター長の選出については同規則第5条に、運営委員の選出については同規則第10条に定めている。副センター長の選出及び教員の選考については、佐賀大学高等教育開発センター副センター長選考規程、佐賀大学高等教育開発センター教員選考規程に定めている(<http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/rules.html>参照)。その他、内規として佐賀大学高等教育開発センター教員会議に関する内規、佐賀大学高等教育開発センター客員研究員受入内規、佐賀大学高等教育開発センター協力教員に関する内規を定めている(資料編：規程集【p38】参照)。なお、佐賀大学高等教育開発センター規則で規定しているとおり、副センター長、部門長及び教員の選考は、センター運営委員会の議を経て行っている(資料A参照)。

資料 A

高等教育開発センター運営委員会（第1回）・議事要旨

〔日 時〕 平成18年4月11日（火）16:10～17:15

〔場 所〕 学生センター 会議室

〔出席者〕 野瀬、遠藤、角、梶間、吉中、川野、村山、上野、井上（中山委員代理）、酒見、埴原、渡、木上、近藤（榮）、近藤（文）（瀬口委員代理）、山下、奥村委員

〔欠席者〕 佐長、生川委員

初めに、議事に先立ち、委員名簿の確認及び自己紹介が行われた。

〔議 題〕

1. 高等教育開発センター各部門長の選考について

委員長から資料1に基づき、現在空席の各部門長候補者として、企画開発部門長に角教授、修学支援部門長に吉中教授、教育支援部門長に川野助教授の推薦があり、審議の結果、承認された。

2. 平成18年度センター活動計画（案）について

委員長から、今年度のセンター活動計画について、本委員会の早期の開催により詳細な検討は行えなかったが、昨年度までの活動をベースに概要を作成したとの説明の後、資料2に基づき、村山委員より活動計画（案）について説明があり、審議の結果、了承された。また、委員長から、大学教育委員会との連携強化等のため、大学教育委員会の教務専門委員長を関連性のある修学支援部門スタッフに併任教員として加わることができるよう、大学教育委員会に要請を行いたいとの提案があり、了承された。

3. 佐賀大学高等教育開発センター客員研究員受入内規（案）について

委員長から資料3により、本センターの教育研究等の推進に寄与することを目的に、「佐賀大学高等教育開発センター客員研究員受入内規」を制定したい、なお、現在、全学的な規程が未整備であるが、制定の後には同規程との整合性を保つため文言等の修正もあり得る、との提案があり、審議の結果、承認された。また、制定及び施行日は、平成18年4月11日とすることも併せて承認された。

4. その他

委員長から佐賀大学高等教育開発センター客員研究員受入内規により、現在継続中の現代GPの実施に係る企画、改善等のサポートのため、今年3月に定年退職された同プロジェクト実施責任者の近藤弘樹氏を高等教育開発センター客員研究員（特任教授）として受け入れたいとの提案があり、同内規による手続きが完了したうえで受け入れることが了承された。

次に、委員長より、平成18年度本学予算の大学教育推進経費の教育プロジェクト経費（1千万円）をもって、本センターにおいてGPシーズ発掘及び既存の取組みのサポート等の仕掛けを行うよう学長から指示があったので、GP推進委員会とも連携のうえ検討を行う旨の報告があり、については、各学部教授会等において、事前のアナウンスを行っていただきたいとの依頼があった。

次回の運営委員会開催日は改めて調整することとなった。

（出典 平成18年度高等教育開発センター運営委員会（第1回）・議事要旨）

（分析結果とその根拠理由）

管理運営の方針及び構成員の責務権限は文書として明確に示していない。

7-3-① 自己・点検評価体制

（観点に係る状況）

本学が策定する年度計画の進捗状況を報告すると共に、年度計画毎に担当理事から達成度の評価を受けている（<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/zentaitaisei.pdf>及び<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/nendotaisei.pdf>参照）。また、

個人評価を目的として本学が平成 17 年に制定した、「国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則」(<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyoujitsushi.htm>) に準拠して、「佐賀大学高等教育開発センターにおける教員の個人評価に関する実施基準」を作成し、専任教員の諸活動の点検・評価を実施している（資料A参照）。センター長は、選任教員が提出した点検・評価結果に対し、コメントをフィードバックしている。さらに、同実施基準第3条第2項に基づき、評価手法、評価基準及び評価の妥当性に関して、学外者による検証（九州共立大学学長へ依頼）を行った。それ以外にも、改善要望事項（資料編：別添資料6－1－③参照）の報告を受けている。

資料A

佐賀大学高等教育開発センターにおける教員の個人評価に関する実施基準

（平成18年12月4日制定）

（趣旨）

第1 この実施基準は、国立大学法人佐賀大学における教員の個人評価に関する実施基準（平成18年7月21日制定。以下「個人評価実施基準」という。）第3に基づき、佐賀大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）における教員の個人評価の実施基準に関し、必要な事項を定める。

（評価体制等）

第2 センターの個人評価は、センター長及び副センター長が行う。

2 センターが行う個人評価の対象は、センターに所属する教授、助教授及び講師とする。

（点検・評価項目及び評価基準等）

第3 点検・評価は、①教育、②研究、③国際交流・社会貢献、④組織運営及び⑤センターの業務の各領域ごとに、個人の活動実績及び改善に向けた取組について行う。

2 各領域の点検・評価項目及び評価基準は、第4第2号に定める活動実績報告書によるものとする。

3 各教員は、各教員の個性を生かす評価を行うため、自己の職種、職務、能力、関心等を勘案して各評価領域における達成目標を予め設定して申告する。

4 達成目標の設定は、別に定める「高等教育開発センターにおける個人達成目標及び活動の重み配分の指針」に基づき行う。

（評価の実施方法）

第4 個人評価の実施は、個人評価実施基準によるもののほか、次の各号により実施する。

(1) 各教員は、毎年6月末までに個人目標申告書（別紙様式1）を作成し、センター長に提出する。

(2) 各教員は、毎年4月末までに前年度の活動実績報告書・自己点検評価書（別紙様式2）を作成し、センター長に提出する。

(3) センター長及び副センター長は、各教員の個人目標申告書、活動実績報告書・自己点検評価書に基づいて、本学及びセンターの目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行う。審査に当たり、センター長及び副センター長は、審査の公正性を確保するため、必要に応じ、他の職員から意見を求めることができる。

(4) 領域ごとの評価及び総合評価は、記述式により行う。

(5) センター長は、教員が提出した活動実績報告書・自己点検評価書を基に評価結果を記入した個人評価結果（別紙様式3）を当該教員に封書で通知する。

(6) 教員は、個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後3週間以内に異議申立書（様式任意）をセンター長に提出することができる。その場合、センター長及び副センター長において当該教員からの意見を聴取する機会を設ける。

(7) センター長及び副センター長は、異議申立書を提出した教員から意見を聴取の上、必要と認められるときは、再審査・評価を行う。再審査に際し、センター長及び副センター長は、先行する審査に際して意見を求めた職員以外に、更に必要と認められる者から意見を求めなければならない。

(8) 再審査・評価の結果は、センター長から当該教員に通知するものとする。

(9) センター長は、個人評価結果の集計と総合的分析を行い、結果を学長に報告する。

（評価結果の活用）

第5 評価結果の活用については、国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成17年3月1日制定）によるもののほか、次の各号によるものとする。

(1) 教員は、自己の活動状況を点検・評価し、自己の活動改善の資料とする。

(2) センター長及び副センター長は、教員の活動状況を取りまとめ、評価し、センターの活動改善の資料とする。

(3) センター長は、必要に応じ各教員に対し、活動の改善について適切な指導及び助言を行うことができる。

（評価結果の公表等）

第6 個人評価結果は、本人以外には開示しない。

2 センター長及び副センター長は、必要に応じ個人評価に関する資料を閲覧することができる。

3 センター長及び副センター長は、正当な理由なく、職務上知り得た非公開の個人情報を漏らしはならない。

附 則

1 この実施基準は、平成18年12月4日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

2 佐賀大学高等教育開発センターにおける教員の個人評価に関する実施基準（試行）（平成17年12月26日制定）は、廃止する。

（出典 佐賀大学高等教育開発センターにおける教員の個人評価に関する実施基準）

(分析結果とその根拠理由)

センターは、本学の大学評価体制に則って自己点検・評価を実施するとともに、十分とは言えないが、自己点検・評価の結果を可能な範囲でセンターの管理運営にフィードバックしている。

7-3-② 自己点検・評価の公開

(観点に係る状況)

センターの教員個人評価の集計結果 (<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/H16koutou.pdf>参照) および部局等評価の結果 (<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/H1617bukyoku.htm>参照) については、ホームページ上で公開・周知している。

(分析結果とその根拠理由)

現在、教員個人評価の集計結果については、平成 16 年度の試行分のみをホームページ上に公開・周知しているが、平成 17 年度以降実施分についても集計し学長へ報告している。また、部局等評価の結果も公開していることから、自己点検・評価の公開状況は良好であると判断する。

7-3-③ 評価結果のフィードバック

(観点に係る状況)

センターの教員個人評価の結果については、7-3-①で述べたように、個別にフィードバックしている。教員個人評価の集計結果及び部局等評価の結果は、ホームページ上で公開することを通して、専任教員にフィードバックしている (<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/H16koutou.pdf>及び (<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/H1617bukyoku.htm>参照)。

(分析結果とその根拠理由)

各種の評価結果をフィードバックする体制は、まだ円滑なものではないが、着実に実施している。

8. 部門別活動等

8-1 企画開発部門活動報告

（観点に係る状況）

企画開発部門では、e-learning に関する活動を行っている教員を平成 18 年度の部門長（併任教員）として受入れ、e-learning に関する企画開発を中心に活動した。なお専任教員 1 名が平成 18 年 6 月 30 日付けで退職したため、10 月 1 日付けで併任教員を 1 名受入れた。また、平成 18 年 4 月 11 日～平成 19 年 3 月 31 日の任期で、ネット授業関係の客員研究員 1 名を受入れた。大学教育委員会では企画評価専門委員会に部門長が参加した。

また、佐賀県のアジアハリウッド構想について部門に WG を設置し、本学としての取組みについて検討し、「デジタル表現教育 WG」を設置し、デジタル表現教育の将来構想について大学教育委員会企画評価専門委員会へ提言し教養教育運営機構など関連部局と調整を行った。

（分析結果とその根拠理由）

年度途中で退職者がでた影響と、部門として力を入れている e-learning 及びネット授業に関する業務が増大したこともあり、教養教育等の調査研究などの活動が行えなかった。このため平成 19 年度から企画開発部門を、企画評価部門と教育開発部門に分割し、各部門の活動の充実をはかることにした。

8-2 修学支援部門活動報告

（観点に係る状況）

修学支援部門は、部門長（専任教員）1 名のみでスタートしたが、平成 18 年 6 月 1 日付けで大学教育委員会教務専門委員長（併任教員）を受入れ、大学教育委員会と連携し活動を行った。まずオンラインシラバス用の説明文を作成し、大学教育委員会教務専門委員会へ提案した。続いて大学教育委員会と連携し、教員を対象にアンケート調査を実施し、報告書を作成して同委員会へ提出した。さらに次年度に向けて同委員会と連携し、学生及び教員用の GPA 解説書の作成を開始している。

（分析結果とその根拠理由）

部門の活動が、大学教育委員会と連携し行われており、大学教育活動を支援するかたちができることは評価できる。

8-3 教育支援部門活動報告

（観点に係る状況）

教育支援部門では、部門長（専任教員）が大学教育委員会 FD 専門委員長となることにより、同委員会と連携して活動することができた。まず、同専門委員会と連携し、学生による授業評価の利活用を促進する全学 FD 体制の素案を作成した。また、学生による授業評価アンケートを多目的に利用できるように改訂すると共に、目的に応じて質問項目を選択できるようにするため用途別の指定項目リストを作成して大学教育委員会へ提出した。また、大学教育委員会と連携し、学部 3 年次生、大学院修士課程・博士前期課程 2 年次生及び博士後期課程 2 年次生を対象に「学生対象アンケート」を実施し、報告書を作成して同委員会へ提出した。

さらに、地域創成教育プログラムの履修を体系化することを目的として、履修科目数および成績評価が一定の条件を満たした学生に認定証を発行するための素案を作成し、地域創成教育プログラム推進委員会に提出した。学生の履修動態を調査・分析するためのアンケート票を作成し、大学教育委員会と連携して実施した学生対象アンケートに反映させた。学習指導法に関するインタビュー調査を開始し、経済学部を除く7名の教員を対象に実施し原稿を取りまとめている。インタビューについては、その結果を教員に周知するためのWebページを作成した（※インタビュー調査は次年度以降も継続して実施する予定である）。

また、授業改善をテーマとして、平成18年度第1回FD・SDフォーラムを開催し、満足度調査を実施したところ、好評を得た。続いて、文部科学省のGPに申請する前段階で学生の意見を聴取し、プログラムの改善に反映させるため、大学教育委員会との共催によるFD・SDフォーラム「GPシーズ報告講演会」を開催しアンケート調査を実施した。

（分析結果とその根拠理由）

教育支援部門は、2名の専任教員から構成され、部門長が大学教育委員会FD専門委員長だったこともあり、年度をとおして精力的に活動したといえる。

8-4 センター部門外活動

（観点に係る状況）

センター活動は、主として部門別に行われるが、平成18年度には、センター長を中心とした活動として、特に「GPシーズ」と「GP等事業」の支援活動を行った。

平成18年度に、学長経費の大学改革推進経費に「教育プロジェクト経費」が示達され、センターでは、その経費のうち600万円を利用し「GPシーズ」を発掘し支援するための事業を、400万円を利用し「GP等事業計画」を支援するための事業を企画した。

この企画は、学内に埋もれている教育活動たるシーズの、発掘と活動の活性化、次年度以降申請につながる経費支援、報告書等により今後も支援すべきシーズの情報収集及び、進行中のGP企画及び概算要求事項を支援することにより、次年度以降の申請につながることを意図し計画した。

まず「GPシーズ」の募集のため募集要項を作成し、全学の教員に対し募集を行ったところ22件の応募があった。これについて、センター教員会議において、審査要項を定め審査の結果11件を採択した。なお、GPシーズ発掘の観点から、多くの事業に少しでも支援したいとの方針により、1件あたり50万円前後を配分した。

つぎに「GP等事業計画」を18年度GP申請事業と19年度概算要求事項のうち不採択であったもの計9件と定め、支援の必要があれば計画書を提出するよう依頼したところ6件の応募があった。これについて、センター教員会議において、18年度GP申請書及び19年度概算要求書も考慮のうえ審査を行い、4件を採択した。なお、すでに文科省に申請された進行中の事業を支援するという観点から、採択件数を絞り1件あたり100万円前後を配分した。

GPシーズについては取り組み内容を学内に紹介し、教職員、学生諸氏の意見を交えてシーズ発展に資する情報交換の場を兼ねた報告会として、平成19年2月27日にFD・SDフォーラム「GPシーズ報告講演会」を実施し、10件（パネル参加1件）の報告講演を実施した。

（分析結果とその根拠理由）

学内に埋もれていたGPシーズを発掘し経費支援することにより、すでに実施されている事業の進展及び企画段階の事業の実施などの成果があった。またGP等事業の支援では、前年度以前から行なわれてきた事業の継続を支援することができた。この事業により、すぐにGP申請に結びつかなくとも、次年度以降の申請につながる支援ができたものと評価できる。

資料1 高等教育開発センター 規程集

佐賀大学高等教育開発センター規則

佐賀大学高等教育開発センター教員候補者選考内規(平成 17 年 3 月 18 日廃止)

佐賀大学高等教育開発センター副センター長選考規程

佐賀大学高等教育開発センター教員選考規程

佐賀大学高等教育開発センター教員会議に関する内規

佐賀大学高等教育開発センター協力教員に関する内規

佐賀大学高等教育開発センター客員研究員受入内規

佐賀大学高等教育開発センター規則

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人佐賀大学規則（平成16年4月1日制定）第22条第2項の規定に基づき、佐賀大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、佐賀大学（以下「本学」という。）の大学教育について調査・研究するとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、本学の目的と使命を達成することを目的とする。

(部門及び業務)

第3条 センターに、前条に掲げる目的を達成するため、企画開発部門、修学支援部門及び教育支援部門を置く。

2 企画開発部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教養教育等の大学教育に関する調査研究及び成果の公表に関すること。
- (2) 教育資源に関する調査研究及び利用形態の開発に関すること。
- (3) 参加型、創造型及び地域文化資源利用型等の教育システムの支援と改善に関すること。
- (4) その他大学教育に関する企画開発に必要な事項

3 修学支援部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 学生の修学を支援するシステムの調査研究に関すること。
- (2) 学生の修学改善に関すること。
- (3) 学生の修学指導方法の開発に関すること。
- (4) その他大学教育に関する修学支援に必要な事項

4 教育支援部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する研修会等の全学的な実施及びその成果を利用した教育支援に関すること。
- (2) 授業評価及び教育方法についての調査、分析による教育方法の改善に関すること。
- (3) 教育評価法の開発と適用に関すること。
- (4) その他大学教育に関する教育支援に必要な事項

(職員)

第4条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 専任の教員
- (5) その他必要な職員

2 前項各号に掲げる職員のほか、センターに、併任の教員を置くことができる。

3 併任の教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(センター長)

第5条 センター長は、本学の教授のうちから学長が選考する。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第6条 副センター長は、本学の教員のうちから選考する。

- 2 副センター長は、センター長を助け、センターの業務を整理する。
- 3 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門長)

第7条 部門長は、センターの教員のうちから選考する。

- 2 部門長は、部門の業務を掌理する。
- 3 部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 部門長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長等の選考)

第8条 副センター長、部門長及び教員の選考は、次条に定める運営委員会の議を経て、学長が行う。

(運営委員会)

第9条 センターに、佐賀大学高等教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関する事項
- (2) センターの人事に関する事項
- (3) その他センターの管理運営に関する重要事項

第10条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長及び副センター長
- (2) センターの教員
- (3) 各学部及び教養教育運営機構から選出された教員 各2人

- 2 前項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 3 第1項第3号に掲げる委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第11条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副センター長がその職務を代行する。

第12条 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。ただし、教員の人事に関する事項及び特に重要な事項については、出席した委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

(専門委員会)

第13条 運営委員会は、専門的事項を審議するために、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

(意見の聴取)

第14条 運営委員会は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第15条 センター及び運営委員会の事務は、学務部教務課において処理する。

(雑則)

第16条 この規則に定めるもののほか、運営委員会の議事の手続その他その運営に関し、必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行後、最初に任命されるセンター長及び副センター長の選考は、国立大学法人佐賀大学の初代部長等の選考に関する規則（平成16年1月16日制定）に基づき選出された候補者を第5条及び第8条の規定により選考されたものとみなし、学長が行うものとする。

附 則（平成18年1月20日改正）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

佐賀大学高等教育開発センター教員候補者選考内規

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 佐賀大学高等教育開発センターにおける副センター長及び専任教員候補者の選考は、この内規の定めるところによる。

(副センター長の選考)

第2条 佐賀大学高等教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）は、次の各号のいずれかに該当する場合に、副センター長候補者を選考する。

- (1) 副センター長の任期が満了するとき。
- (2) 副センター長が辞任を申し出たとき。
- (3) 副センター長が欠員となったとき。

2 副センター長候補者の選考は、前項第1号に該当する場合は、任期満了の日の1月前までに行い、同項第2号又は第3号に該当する場合は、その事由が生じたときから原則として1月以内に行う。

3 運営委員会は、副センター長候補者を選考する必要があるときは、センター長に適任者の推薦を依頼する。

4 運営委員会は、前項により推薦された者の中から副センター長候補者を選考する。

5 選考は、運営委員会出席者の単記無記名投票により、副センター長候補者としての適否を決定し、選考する。

(専任教員の選考)

第3条 運営委員会は、専任教員候補者を選考する必要があるときは、教員候補者選考委員会（以下「選考委員会」という。）を設置するものとする。

2 専任教員の募集は、原則として公募とする。

(選考委員会)

第4条 選考委員会は、次の各号に定める者をもって組織する。

(1) センター長

(2) 各学部及び教養教育運営機構から選出された運営委員会委員から各1人

2 選考委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した者がその職務を代行する。

第5条 委員長は、選考委員会を招集し、その議長となる。

第6条 選考委員会は、佐賀大学教員選考基準（平成15年10月1日制定）に基づき、応募者について調査選考の上、暫定候補者を定め運営委員会に報告するものとする。

(運営委員会の議決)

第7条 運営委員会は、前条の報告を受けたときは、単記無記名投票により、教員候補者としての適否を決定し、選考する。

(再公募)

第8条 前条の方法により教員候補者を得られない場合、運営委員会は、改めて教員候補者を公募するものとする。

(学長への報告)

第9条 センター長は、運営委員会において決定した教員候補者について、選考経過を付して学長に報告するものとする。

(内規の改正)

第10条 この内規の改正は、運営委員会が行う。

(雑則)

第11条 この内規に定めるもののほか、高等教育開発センターにおける教員候補者の選考に関し、必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

佐賀大学高等教育開発センター副センター長選考規程

(平成17年3月18日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人佐賀大学規則（平成16年4月1日制定）第33条第3項及び佐賀大学高等教育開発センター規則（平成16年4月1日制定）第8条の規定に基づき、佐賀大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）における副センター長の選考に関し、必要な事項を定めるものとする。

(選考)

第2条 副センター長の選考は、佐賀大学高等教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議に基づき、学長が行う。

(副センター長候補者の選定)

第3条 運営委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合に、副センター長候補者を選定する。

- (1) (1) 副センター長の任期が満了するとき。
- (2) (2) 副センター長が辞任を申し出たとき。
- (3) (3) 副センター長が欠員となったとき。

2 副センター長候補者の選定は、前項第1号に該当する場合は、任期満了の日の1月前までに行い、同項第2号又は第3号に該当する場合は、その事由が生じたときから原則として1月以内に行う。

3 運営委員会は、副センター長候補者を選定する必要があるときは、センター長に適任者の推薦を依頼する。

4 運営委員会は、前項により推薦された者のうちから副センター長候補者を選定する。

5 選定は、副センター長候補者としての適否を運営委員会出席者の単記無記名投票により行い、決定する。

(選考経過の報告)

第4条 センター長は、運営委員会において副センター長候補者を選定したときは、速やかに学長に報告しなければならない。

(雑則)

第5条 この規程に定めるもののほか、副センター長の選考に関し、疑義が生じたときは、運営委員会が処理する。

附 則

この規程は、平成17年3月18日から施行する。

佐賀大学高等教育開発センター教員選考規程

(平成17年3月18日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人佐賀大学教員人事の方針（平成16年4月1日制定）1の（4）及び佐賀大学高等教育開発センター規則（平成16年4月1日制定）第8条の規定に基づき、佐賀大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）における教員の採用及び昇任（以下「選考」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(教員の選考)

第2条 教員の選考は、佐賀大学高等教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議に基づき、学長が行う。

(教員選考の原則)

第3条 教員の選考は、センターの理念・目標・将来構想に沿って行う。

2 教員の選考は、原則として、公募により行い、適任者が得られるように努力する。

3 教員の選考においては、社会人及び外国人の雇用について配慮する。

(教員候補者の公募等)

第4条 センター長は、教員を選考する必要があるときは、運営委員会の議を経て、学内外に教員候補者を公募する。ただし、相応の理由がある場合は、運営委員会の議を経て、公募以外の方法により選考することができる。

(選考委員会の設置)

第5条 前条の場合において、センター長は、運営委員会の議を経て、教員候補者選考委員会（以下「選考委員会」という。）を設置する。

(選考委員会の構成員)

第6条 選考委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) センター長

(2) 各学部及び教養教育運営機構から選出された運営委員会委員 各1人

(3) センター専任の教員 若干人

(選考委員会委員長)

第7条 選考委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、選考委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(選考委員会の議事)

第8条 選考委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 議事は、出席した委員の3分の2以上の賛成をもって決する。

3 選考委員会が必要と認めたときは、選考委員会に委員以外の者を出席させることができる。

(暫定候補者の選定)

第9条 選考委員会は、国立大学法人佐賀大学教員選考基準（平成16年4月1日制定）に基づき、履歴、研究業績、社会貢献、国際貢献、教育研究に対する今後の展望等を多面的に評価するとともに、面接、模擬授業、講義録等により、教育の能力を具体的に評価し、調査選考の上、暫定候補者1人を定め、運営委員会に報告する。

(教員候補者の決定)

第10条 運営委員会は、前条の報告を受けたときは、暫定候補者について単記無記名投票を行い、出席した委員の3分の2以上の賛成を得た者を教員候補者とする。

(再選考)

第11条 前条の方法により教員候補者を得られない場合、運営委員会は、改めて教員候補者を選考しなければならない。

(学長への報告)

第12条 センター長は、運営委員会において決定した教員候補者について、選考経過を付して学長に報告するものとする。

(結果等の公表)

第13条 センター長は、選考経過及びその結果を応募者のプライバシーに配慮した上で、公表するものとする。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、教員の選考に関し、疑義等が生じたときは、運営委員会が処理する。

附 則

- 1 この規程は、平成17年3月18日から施行する。
- 2 この規程施行の際、佐賀大学高等教育開発センター教員候補者選考内規（平成16年5月21日制定）に基づき選考された者は、この規程に基づき選考されたものとみなす。
- 3 佐賀大学高等教育開発センター教員候補者選考内規は、廃止する。

附 則（平成17年7月25日改正）

この規程は、平成17年7月25日から施行する。

佐賀大学高等教育開発センター教員会議に関する内規

(平成18年7月25日制定)

(設置)

第1条 佐賀大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）にセンター長の円滑なセンター運営を補助する組織として、高等教育開発センター教員会議（以下「会議」という。）を置く。

(組織)

第2条 会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) センターの専任教員
- (4) センターの併任教員
- (5) センターの協力教員
- (6) センターの客員研究員

(議長)

第3条 会議に、議長を置き、センター長をもって充てる。

2 センター長に事故があるときは、副センター長が、その職務を代行する。

(議事)

第4条 会議は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第5条 センター長が必要と認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(雑則)

第6条 この内規に定めるもののほか、会議に関し、必要な事項は、会議が別に定める。

附 則

この内規は、平成18年7月25日から施行する。

佐賀大学高等教育開発センター協力教員に関する内規

(平成18年7月25日制定)

(趣旨)

第1条 この内規は、佐賀大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）における協力教員に関し、必要な事項を定めるものとする。

(協力教員)

第2条 協力教員とは、センターの業務を推進するために、佐賀大学の専任教員のうちから、部門長の推薦に基づき、センター長が委嘱する教員をいう。

(任期)

第3条 協力教員の任期は、1年以内とし、再任を妨げない。

(業務の内容)

第4条 協力教員は、推薦した部門長の属する部門の活動に参加するものとする。

2 協力教員は、センターの会議等に出席することができる。ただし、運営委員会については、委員以外の者の出席として意見を求められた場合を除き、出席することができない。

(雑則)

第5条 この内規の実施に関し、必要な事項は、センター長が定める。

附 則

この内規は、平成18年7月25日から施行する。

佐賀大学高等教育開発センター客員研究員受入内規

(平成18年4月11日制定)

(趣旨)

- 1 この内規は、学術研究者（受入れについて別に定めのある学術研究者を除く。以下「客員研究員」という。）を佐賀大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）に受け入れる場合の取扱いについて定める。

(目的)

- 2 この制度は、客員研究員をセンターに受け入れることで、センターの教育研究等の進展に寄与することを目的とする。

(受入基準)

- 3 客員研究員として受け入れることのできる者は、センターの教員と協力してセンターの活動に特に大きな寄与が期待できると認められる者とする。

(名称の付与)

- 4 客員研究員には、佐賀大学高等教育開発センター特任教授、同特任助教授又は特任研究員の名称を付与することができる。

(受入期間)

- 5 客員研究員の受入期間は、1年以内とする。ただし、高等教育開発センター長（以下「センター長」という。）が特に必要があると認めるときは、受入期間を延長することができる。この場合における期間延長の手続きは、第6項から第7項までの規定を準用する。

(受入れの申出)

- 6 客員研究員を受け入れようとする部門の部門長は、客員研究員受入調書にセンターの業務と関連する活動の状況を示す資料等を添えて、センター長に申し出なければならない。

(受入れの承認)

- 7 受入れの承認及び付与する名称の決定は、運営委員会の議に基づき、センター長が行う。

(受入れの承認の取消し)

- 8 客員研究員が佐賀大学（以下「本学」という。）の規則等に違反したとき又は本学の運営に重大な支障をもたらしたときは、センター長は、客員研究員の受入れの承認を取り消すことができる。

(設備、施設等の使用)

- 9 客員研究員は、センター長が認める範囲において、施設、設備等を使用することができる。

(給与等の支給)

- 10 客員研究員には、給与その他の費用を支給しない。

(学内規則等の準用)

- 11 客員研究員には、センターの教員に適用される規則等を準用する。

(雑則)

- 12 この内規の実施に関し、必要な事項は、運営委員会の議を経て、センター長が別に定める。

附 則

この内規は、平成18年4月11日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

高等教育開発センター客員研究員（特任教授，特任助教授，特任研究員）受入調書

(フリガナ) 氏 名	()	生年月日 年 月 日 (歳) 男 ・ 女
所属機関等・職名		
最終学歴等		
主な職歴		
教育研究等の題目		
教育研究等の期間		
受入れ責任者 職・氏名		
教育研究等の目的 及び 計画の概要		
備 考	連絡先（現住所等）：	

アンケート

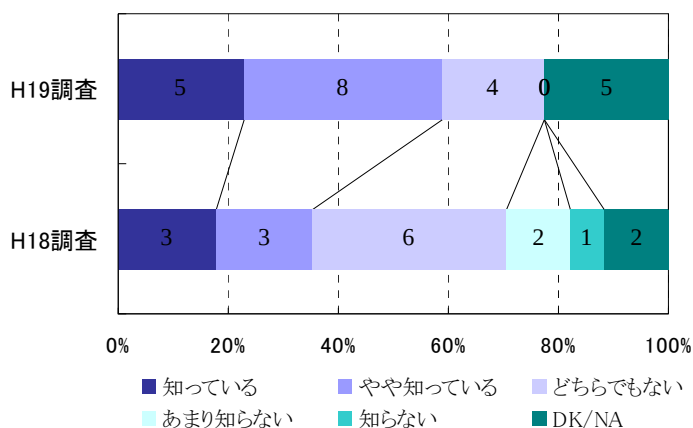
高等教育開発センターの自己点検・評価活動の一環として、平成 18 年に引き続き「佐賀大学高等教育開発センター・自己点検評価アンケート」を実施した。アンケートの対象、実施時期、実施方法、回収状況は、以下に示す通りである。

	平成 19 年調査	平成 18 年調査
調査対象	大学教育委員会委員（前・現） センター運営委員会（前・現）	大学教育委員会委員（前・現） センター運営委員会（前・現）
実施時期	平成 19 年 5 月	平成 18 年 6 月
実施方法	Web 調査（質問紙を併用）	質問紙法
回収状況	配票数＝47、回収数＝22、回収率＝47％	配票数＝63、回収数＝17、回収率＝27％

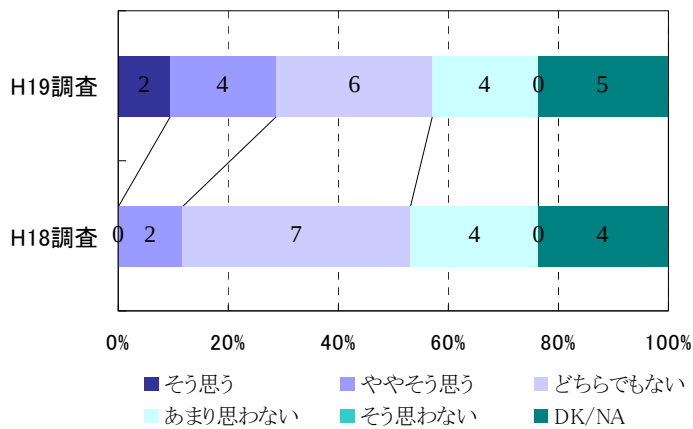
注）学外への異動者については調査対象から除外。

アンケートの質問項目に対する回答の分布は、以下の通りである。図中の「DK/NA」は「Don't Know」、「No Answer」を意味する。

1. センターの活動をご存知ですか。



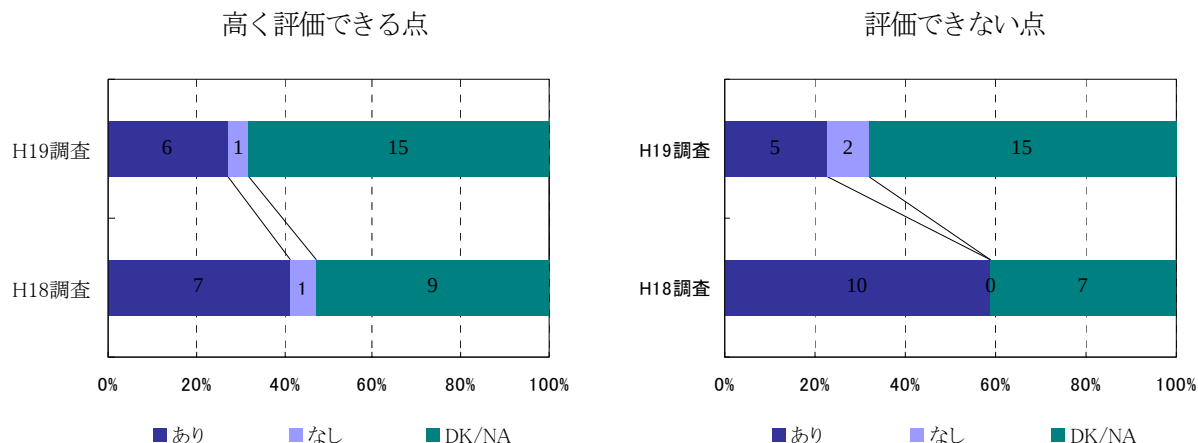
2. センターの教員構成は、適切だと思いますか。



センターの教員構成に問題があるとするば、どのような点ですか。

部門毎に少々アンバランスがあるように思います。
教員ではなくて専任の事務職員を増員すべきかもしれない。
兼任の教員に負担がかかる構造になっている。大学の教育問題を専門に扱える資質をもった教員を増やすべき。
これから取り組む仕事の内容によっては拡充する必要があるかもしれません。
専任並びに専門家が少ない。
殆ど併任で、且つ各学部をサポートがない。これが、業務に専念しにくい原因であろう。 また、中期計画に基づく長期的展望が見えないので、(併任)人事が場当たり的。併任も学部が限られている。
専任教員が少ないことが大きな問題であるけれど、その中で、学部等で均等に選出するという方法ではなく、必要な部署に適した教員を配置していることは評価される。
業務内容に不確定な部分が多いため、業務と密接な関係のある教員をセンターの構成員にするのが困難な点。
専任教員が少なく、併任・特任・協力教員によってかろうじて活動が出来ている感じがする。
特になし

3. センターの活動についての評価をお聞かせ下さい。



高く評価できる点	評価できない点
各種アンケートの実施 結果の分析	特になし
佐賀大学の現実の教育問題を分析し出来るところからやっているところ。	センターの活動状況が、一般によく見えない。
とくになし。	調査に終始している事が多く、大学、教員、学生に、教育システムや教育法等に関する提案があまりなされていない。
近年の認証評価・法人評価に対する準備・対応。	鍋島地区の教員にとっては、あまりなじみが無い。どのような活動をしているか、報告書だけではわかりにくい。
教育法の提供の一つとして、ネット授業の開発は評価される。	業務の内容が雑多で、「広く浅く」といった印象を受ける点。
裏方の業務の遂行に寄与している点。	ただし、その大学教育に携わった仕事は独断的なものが多く、学部などから希望があったものとは限らない。
大学教育委員会と連携して、教育改革に携わった仕事は出来ていると考えられる。	特になし

4. 今後、センターにどのような活動を期待しますか。

授業評価アンケートのオンライン化(ネット講義に対応)など、教育やFDを円滑に行うためのツールや環境作り (もちろん、できるだけ協力いたします)
佐賀大学の教育問題の先導。
全学教育のあり方(教養を含む)について検討していただきたい。在学生の追跡調査(入学時から卒業まで)を実施いただきたい。
医学部との関連事項を増やす。

教育組織、教育方法の改善策の提言。他大学(外国を含め)教育組織、教育方法の状況の紹介および検討。
現在では大変かと思うが、センターが今後評価や教育改善などで実績を残し、全学部からサポートを得られるようにする。(現在は実績が各学部十分に伝わらずに、センターが不要であるとの認識も少なくない。)
全学的な視野から、教育活動の点検・評価に従事し、改善案を提出する役割。
各学部との連携を深めて活動する必要がある。無論、そのためには各学部の理解と協力が無ければならない。
センターが授業科目を開設して、全学に開放する。

平成 18 年度

佐賀大学
学生対象アンケート報告書

国立大学法人 佐賀大学

大学教育委員会・高等教育開発センター

2006年9月

目 次

概 要	2
I. はじめに	4
II. 実施期間	4
III. 実施対象	4
IV. 実施方法	4
V. 回収率	5
VI. アンケート結果の解析	9
1. 学部学生	9
2. 大学院修士課程・博士前期課程	44
3. 大学院博士後期課程	61
VII. 総括	76
1. 学部学生	76
2. 大学院修士課程・博士前期課程	78
3. 大学院博士後期課程	79

付表

各アンケート項目の回答結果(学部学生3年次)	81
各アンケート項目の回答結果(修士課程・博士前期課程)	95
各アンケート項目の回答結果(博士後期課程)	102

概 要

本学の修学状況・教育環境の問題点を明らかにし、教育改善に資することを目的に学部3年次生、大学院修士課程・博士前期課程2年次生および博士後期課程2年次生を対象に「学生対象アンケート」を実施した。アンケートは19項目からなり、そのうち第1, 2, 3, 4, 5, 11, 12項目ではいくつかの細項目を設定した。なお、院生を対象としたアンケートはこの19項目から該当する項目のみを抜き出して行った。各設問の回答は1から5の5段階評価で行われ、その設問に答えられない場合は「分からない・該当しない」を回答することができるようにした。アンケート回収率は学部3年次生が65.1%、修士課程・博士前期課程2年次生が47.7%、博士後期課程2年次生が38.3%であった。

本学の目標や学部の教育目標、成績評価基準、各種制度、施設利用案内について、学生・院生は直接自分に関わる事柄については比較的よく知っているが、知らなくても差し支えない情報については関心が薄い傾向が認められた。オフィスアワーについては制度そのものを知らない学生も多く、また、実際に利用している学生が極めて少ない実態が明らかとなった。さらに、現在その制度がない院生もオフィスアワーを必要としていることが判明した。入学・進学時のガイダンスについてはある程度の効果が上がっていることは認められるが、さらに理解を深める為にパンフレット等の配付資料の活用が考えられる。施設・設備についての学生・院生の満足度は学部・研究科によって異なっているが、スポーツ関連施設に関しては極めて満足度が低い特徴が認められる。教育体制に関しては学部・研究科を通して学修相談体制の充実が必要である。オフィスアワーの改善を急ぐと共に各学部・研究科に学修相談窓口を設置するなどの取り組みを講じるべきである。情報機器の整備については学部・研究科毎に格差が生じており学生・院生の満足度が極めて低い項目のひとつと言えよう。自習スペースや図書・学術雑誌、視聴覚資料についての整備も考えねばならない。事務職員の対応については具体的な事例が分からないので明らかではないが、保健管理センターや図書館の事務職員に比べて学生センターの事務職員の対応への満足度は低いようである。授業に対する満足度については一定の評価が得られているもののそれほど高くなく、カリキュラムの見直しや教育体制の改善などを視野に入れた抜本的な改革が必要である。シラバスについては教員が考えている以上に学生が利用している実態が把握できた。全学的には4人にひとりがシラバスを参考に科目の選択を行っており、主として授業内容や試験情報を得るた

めに利用している。各授業内容がシラバスに記載されている学習目標に即していたかどうかについてはおよそ 20%の学生が肯定的な意見を返しており、そう思っていない学生の比率を大きく上回っている。このことから多くの科目は学習目標に沿った内容を展開していることが伺える。教養教育科目の開講数については適切と思っている学生の割合が著しく低く、早急な対策を立てねばならない。主題科目の選択についてはおよそ 40%の学生が希望通りになっており、選択がうまくいかなかった場合も別の科目を受講するなどの独自の対応をしていることが判明した。英語以外の外国語科目で最も望む科目は中国語、最も望むリメディアル教育科目は英語、リメディアル科目の理科では物理であった。

大学院での基礎学力については、自らが不足と感じている院生が意外に多いことが判明した。大学生の学力低下が叫ばれているが、大学院生にもその影響が及んでいると考えられる。大学院担当教員の指導については適切と思っている院生が多く、全体的に適切な対応が行われていると判断される。研究課題については希望したものと一致するとの回答が多かった。

このようにアンケート結果から今まで明らかにできなかった実態を掴むことができ、取り組むべき課題も浮かび上がってきた。今後は改善に努めると共に継続したアンケートを行い、学生の意見がどのように推移していくのかを見定め、さらなる改革の礎として蓄積していくべきであろう。

I. はじめに

近年、大学を取り巻く状況は大きく変化し、教育・研究活動に加え、社会貢献・地域貢献の面でも大きな役割を担う必要が指摘されている。それ故、国内の大学は社会的責任を果たすべく様々な取り組みを行い、自らがそれを評価・点検し、今後の改善に努めている。特に大学の主幹ともいえる教育活動については改善が急務であり、「学生による授業評価アンケート」を実施する大学は決して少なくない。授業改善に資するために本学でも平成12年度からの試行期間を含め「学生による授業評価アンケート」を実施しているが、必ずしもその効果が上がっているとは言い難い。その理由の一つとしては、個々の授業を評価し改善したとしても、それらを取り巻く教育環境全体の改善には直接結びついていないことが考えられる。大学教育は4年間で自ら希望した専門教育について学び、高い知識と素養を身につけるものであるが、授業一つ一つが良くなったとしてもそれらの学問的結びつきが希薄であれば、全体的な教育効果は期待できない。そのため、「学生による授業評価アンケート」と平行して、大学の教育目標、教育体制、成績基準、施設・設備の状況等についても学生からの意見を集約する必要性が指摘されている。

今回、本学の修学状況・教育環境の問題点を明らかにし、教育改善に資することを目的に「学生対象アンケート」実施した。なお、「学生対象アンケート」ではあるが、大学院教育の改善にも結びつけるために大学院修士課程（博士前期課程）および博士後期課程の院生についてもアンケートを実施した。

II. 実施期間

平成18年7月中～下旬

III. 実施対象

学部3年次学生（平成16年度入学学生）、大学院修士課程（博士前期課程）2年次（平成17年度入学学生）、博士後期課程2年次（平成17年度入学学生）

IV. 実施方法

対象学生・院生が受講する必修科目の講義においてアンケートを実施した。実施に当たっては可能な限り対象学生の重複回答が無いように留意した。

V. 回収率

回収率を表1に示す。学部3年次を対象としたアンケートの回収率は文化教育学部が78.6%と最も高く、次いで医学部の78.0%、理工学部の68.4%と続き、農学部(48.8%)・経済学部(48.7%)は50%を下回っている。一方、修士課程・博士前

表1 学生対象アンケートの学部別・研究科別の回収率

【学部 3年】

	学生数	回収枚数	回収率	備考
文化教育学部	285	224	78.6	1年 48 他 19
経済学部	312	152	48.7	
医学部	159	124	78.0	
理工学部	551	377	68.4	
農学部	162	79	48.8	
計	1469	956	65.1	

【修士課程・博士前期課程 2年】

	学生数	回収枚数	回収率	備考
教育学研究科	52	14	26.9	他 7
経済学研究科	12	7	58.3	
医学系研究科	27	8	29.6	
工学系研究科	207	121	58.5	
農学研究科	67	24	35.8	
計	365	174	47.7	

【博士課程・博士後期課程 2年】

	学生数	回収枚数	回収率	備考
医学系研究科	44	18	40.9	他 4
工学系研究科	37	13	35.1	
計	81	31	38.3	

1 学生数及び教員数は、平成18年5月1日現在の数

2 備考の数は、調査対象学年以外の提出数

期課程における院生の回収率は工学系研究科が 58.5%と最も高く、次いで経済学研究科の 58.3%であり、農学研究科(35.8%)、医学系研究科(29.6%)、教育学研究科(26.9%)はいずれも 40%を下回っている。博士後期課程は医学系研究科と工学系研究科があるが、それぞれ 40.9%と 35.1%を示している。回収率をみると学部学生から大学院院生にかけて低くなる傾向が認められる。これはアンケートの実施期間が短く、特定の授業を持たない大学院生（2 年次）では配布・回収が十分に行えなかったことを示していると考えられる。今後の実施に当たっては、十分な実施期間を確保し回収率を上げる取り組みが必要に思われる。

一方、回収したアンケートが各学部・研究科の学生・院生の意見を十分に反映しているかどうかを確認するために、各学部の課程・学科および研究科別の回収数を表 2、3 および 4 に示した。これによって集約した意見が特定の専門

表2 各学部における課程・学科別の回収数

	課程・学科	回収数
文化教育学部	学校教育課程	82
	国際文化課程	64
	人間環境課程	53
	美術・工芸課程	25
経済学部	経済システム課程	80
	経営・法律課程	72
医学部	医学科	70
	看護学科	54
理工学部	数理科学科	33
	物理科学科	30
	知能情報システム学科	37
	機能物質科学科	84
	機械システム工学科	66
	電気電子工学科	51
	都市工学科	76
農学部	生物生産学科	33
	応用生物科学科	46

表3 各研究科における専攻別の回収数(修士課程・博士前期課程)

	専攻	回収数
教育学研究科	学校教育専攻	0
	教科教育専攻	14
経済学研究科	金融・経済政策専攻	1
	企業経営専攻	6
医学系研究科	医科学専攻	3
	看護学専攻	5
工学系研究科	機能物質化学専攻	16
	物理科学専攻	18
	機械システム工学専攻	15
	電気電子工学専攻	15
	知能情報システム学専攻	6
	数理科学専攻	4
	都市工学専攻	23
	循環物質工学専攻	8
	生体機能システム制御工学専攻	19
	機能物質化学専攻(特)	0
	物理科学専攻(特)	0
	機械システム工学専攻(特)	0
	電気電子工学専攻(特)	0
	知能情報システム学専攻(特)	0
	数理科学専攻(特)	0
	都市工学専攻(特)	0
	循環物質工学専攻(特)	0
	生体機能システム制御工学専攻(特)	0
農学研究科	生物生産学専攻	13
	応用生物科学専攻	11
	生物生産学専攻(特)	0
	応用生物科学専攻(特)	0

表4 各研究科における専攻別の回収数(博士後期課程)

	専攻	回収数
医学系研究科	機能形態系専攻	4
	生体制御系専攻	12
	生態系専攻	2
工学系研究科	エネルギー物質科学専攻	3
	システム生産科学専攻	6
	生体機能システム制御工学専攻	4
	エネルギー物質科学専攻(特)	0
	システム生産科学専攻(特)	0
	生体機能システム制御工学専攻(特)	0

分野に偏っているか否かがわかる。当然のこととして各課程・学科の定員数は同じではない。今回実施したアンケートでは、仮に100%の回収が達成できたとすると定員数の多い課程・学科の意見が大きく反映されてしまう。この点を考慮し、以下の分析は基本的に学部毎の集計結果のみを取り扱う。

各学部における課程・学科の回収数には当然のことながらばらつきが認められ、各課程・学科の意見が満遍なく反映しているとは言い難い。例えば、最も回収数が多い学科は理工学部の機能物質化学科で、最も少ない課程は文化教育学部の美術・工芸課程である。よって、今回のアンケート調査では各学部内の課程・学科毎の学生の意見を均等にくみ上げることはできない。さらに、修士課程・博士前期課程のアンケート結果をみるとその傾向が顕著になる。教育学研究科には学校教育専攻と教科教育専攻の2専攻が設けられているが、アンケートに回答した院生は教科教育専攻のみである。すなわち、今回のアンケートでは教育学研究科に在籍する院生全員の意見ではなく、教科教育専攻の院生の意見しかくみ取れていない。同様の傾向は経済学研究科にも認められ、金融・経済政策専攻からの回答は1名で、企業経営専攻からは6名が回答している。なお、工学系研究科や農学研究科における特別専攻は留学生が主体であり、今回のアンケートが日本語のみで実施されていることを考えると回答が得られなかったことは仕方がないと判断される。博士後期課程でも、修士課程・博士前期課程と同じ条件であるがために同様の傾向が認められる。ただし、博士後期課程では在籍人数そのものが少ないので1人当たりの重みが極めて大きく、結果に与える影響も大きいことを考慮しておかねばならない。いずれにせよ、本報告は全学的なアンケ

ート結果を述べるのが目的であるので、各学部・研究科内での回答数のばらつきや学科・専攻毎の解析は各部局独自の判断に委ねることとする。

以上の問題点を考慮した上で得られたアンケート結果を解析していくが、次年度からの対策としては実施時期に余裕を持たせ回収率を上げることや留学生対象の場合は英語でアンケートを実施するなどが考えられる。この種のアンケートは単発的なものに終わっては意味がなく、連続した結果から教育改善の効果を確認し、必要な改革を導き出し、大学教育の改善を図ることが必要である。

VI. アンケート結果の解析

以下にアンケート結果の解析を述べる。便宜上、数値データは一覧として最後に一括して提示し、数値から求められたグラフのみを説明する。先に述べたように解析結果は学部毎の集計結果に基づくものとどめ、各学部・研究科内の解析・検討は各部局独自の判断に委ねることとする。

アンケートは大設問として19項目あり、第1, 2, 3, 4, 5, 11, 12 項目ではいくつかの小設問が設定されている。基本的には各設問の回答は1から5の5段階評価で行われ、その設問に答えられない場合は「分からない・該当しない」を回答することができるようにしてある。回収されたアンケートには無効回答が含まれている場合があったが全体数に比して極僅かであり、後述する未回収分とは性格が異なるため解析には用いず、グラフにも表示していない。一方、未回収分についてはグラフに表示している。この理由は未回収データの割合は無視できるものではなく、かつ学部間で大きく異なっているからである。また、今回実施したアンケートは実施期間が短く、すべての対象学生にアンケートがうまく配布されなかった可能性も考えられる。したがって、得られたデータは対象とする学部の中でその回答を行った学生(院生)の回答傾向を表しているに過ぎない。また、末尾にまとめた数値データ一覧表には回答値の平均を示しているが、これはあくまで回答があった数値を解釈しやすいよう便宜的に平均化しただけであり、対象学部の真の平均値とは同義ではない。以上の点に留意して、全学および各部局の回答比率を大設問毎に棒グラフとして以下に示す。各棒グラフの上部には設問をタイトルとして表示した。便宜上学部の解析と大学院の解析結果は別々に述べることとし、各設問毎に解析結果の解説を行う。

1. 学部学生(3年次)

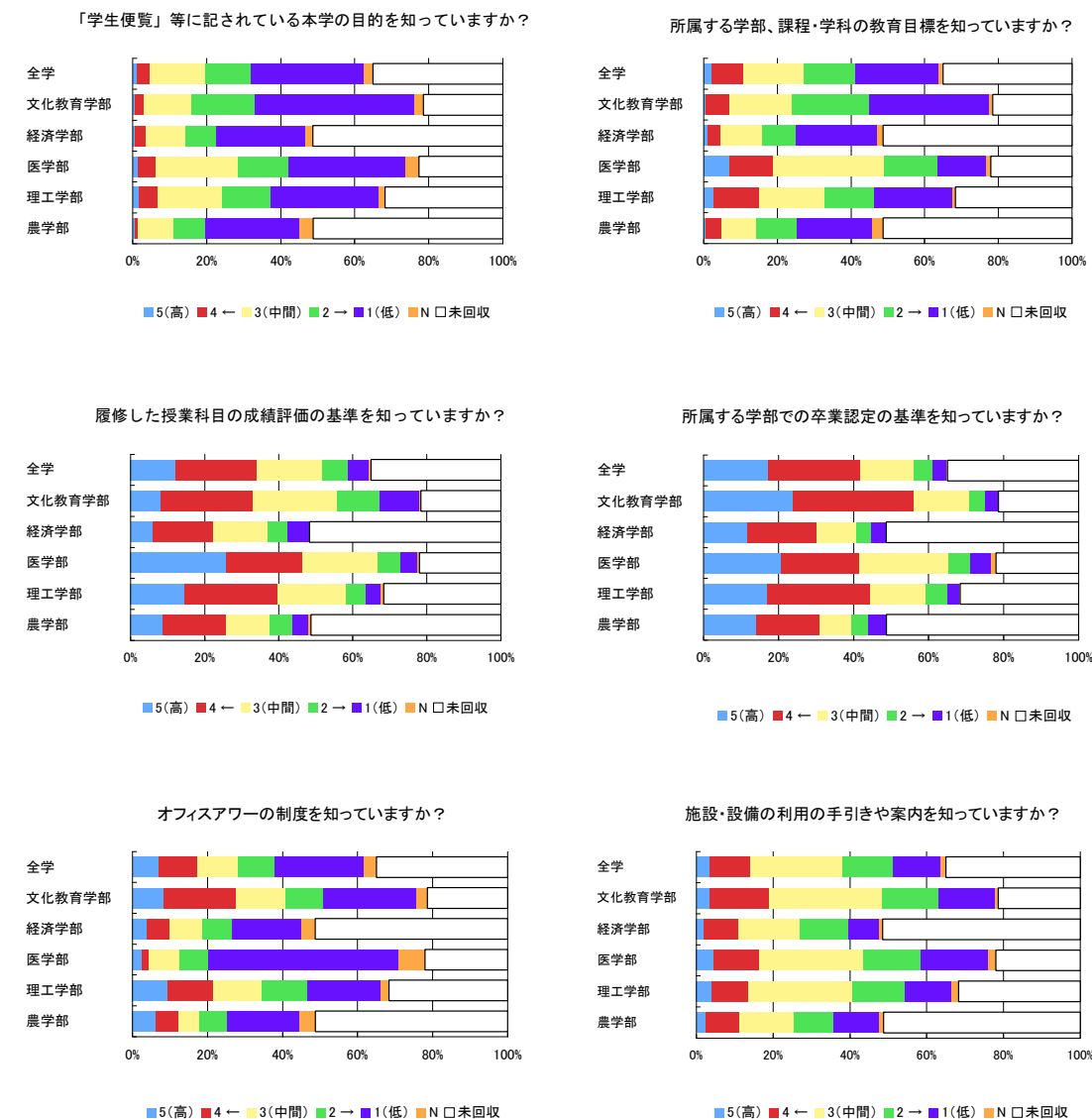


図1 教育目標, 成績基準, 制度などに関する学生の周知度

1) 学生の周知度

図1に教育目標, 成績基準, 制度などに関する学生の周知度を示す. この設問では周知すべき内容として, 本学の目的・教育目標・成績評価基準・卒業認定基準・オフィスアワー制度・施設や設備の案内の6つを設定した.

「学生便覧に等に記されている本学の目的を知っていますか？」

5段階評価の1～5の数値間は等間隔ではないが, 以下では便宜的に3を中立的回

答と判断し、5もしくは4の回答は周知度が高い群、2もしくは1は周知度が低い群と解釈する。全学データをみると回答率は65%近くに上るが、中立的な回答も含めれば本学の目的は90%以上の学生に理解されていない。肯定的な回答は10%以下であり、大学の目的を周知させる取り組みに欠けていたことは疑いようのない事実である。とりわけ、文化教育学部や経済学部では回答者中に占める中立的回答が多い傾向にある。医学部と理工学部では回答者中に占める周知度が低い群の割合が多い。農学部は回収率が低いこともあるが、周知度が低い群の割合は極めて少ない特徴を有している。

全体的に本学の目標の周知度は極めて低く、大きな課題を残した結果となった。入学時や進学時のオリエンテーションで繰り返し周知するなどの改善が必要に思われる。

「所属する学部、課程・学科の教育目標を知っていますか？」

大学の目標の周知度に比して、各学部、課程・学科の教育目標に対する周知度はやや高い。全学的にみると回答者中10%程度が教育目標を知っていることがわかる。特にこの傾向は医学部や理工学部で顕著であり、医学部など学部の目標や職業との対応が明確な部局ほど周知度が高くなっているようである。

全体的に学部、課程・学科の教育目標の周知度は決して高いとは言えない。この背景には各学部、課程・学科で教育目標を掲げていない部局もあり、学生に周知する以前の取り組みが必要であると考えられる。

「履修した授業科目の成績評価の基準を知っていますか？」

成績評価の基準については学生の認知度はかなり高い。全学的には回答者の約半数が肯定的意見をもっている。また、いずれの学部でも回答者の半数は肯定的な回答をしており、成績評価の基準の周知は決して低いとは言えない。ただし、この設問では成績評価基準を把握できている科目が教養教育科目であるのか専門教育科目であるのかが判別できないために今後の改善点を明確にすることができない。また、この項目の回答の特徴として「分からない・該当しない」とした回答数が少ないことがあげられる。

全体的に成績評価基準については大学の目的や課程・学科の教育目標に比べると周知度は高いが、周知度の低い群も無視できない。シラバスに明記したり、最初の授業で成績基準についての説明を行うなど教員側の取り組みによって本項目の周知度

が上昇することを期待する。

「所属する学部での卒業認定の基準について知っていますか？」

この項目についてはかなり高い周知度が認められる。全学的には回答者の半数以上が卒業認定基準を知っていると回答している。このことは、学生にとって卒業がいかに重要な関心事であるかを反映しているためであろう。特に文化教育学部では卒業認定の基準についての周知度が高く、回答者の 60%以上に周知できている。この項目の回答の特徴として「分からない・該当しない」とした回答数が少ないことも学生の関心の強さを傍証している。

卒業認定基準は直接的に本人に関係することなので学生の関心は高いと推定される。大部分が関心を寄せている卒業認定基準を「知らない」学生が具体的にはどのような学生であり、今後どのような指導体制が必要であるかを検討することが、修学支援の課題と言える。

「オフィスアワーの制度を知っていますか？」

本学では数年前からオフィスアワーの制度を導入しているが、制度の有効利用は必ずしも促進されていなかったようである。この項目での周知度は全学的に 20%を下回っており、数年間取り組みを行っているにもかかわらずかなり低いと言わざるを得ない。文化教育学部や理工学部では学部全体の 30〜20%近くの学生がオフィスアワー制度について周知していると回答している。一方、医学部では学部全体の 10%の学生しかオフィスアワーの制度を周知しておらず、否定的な回答も極めて高い傾向が認められる。

オフィスアワーについては制度そのものよりもその有効利用が叫ばれている。本項目では制度そのものの存在について尋ねたものであるが、全体的にかなり低い結果を得ている。

「施設・設備の利用の手引きや案内を知っていますか？」

学内にある各種の施設・設備の案内に関する周知度を尋ねた項目であるが、全学的には 15%ほどの学生に周知できているに過ぎず、25%ほどの学生には周知できていない。また、中間的な回答をしている学生が多く、施設・設備を適切に利用できていない可能性も考えられる。施設側でも手引きや案内をホームページやパンフレット等を通じて、利用する学生に周知していくことが今後の改善点のひとつと思われる。

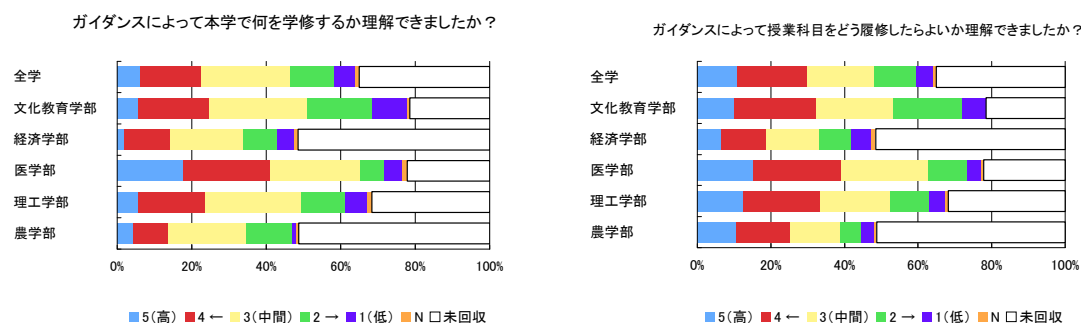


図2 入学時、進学時のガイダンスによる学修目標・履修方法の理解度

2) 入学時、進学時のガイダンスによる学習目標・履修方法の理解度

図2に入学時、進学時のガイダンス時に説明した内容についての理解度を示した。この項目では本学で何を学修するかと授業科目をどう履修したらよいかの2点についての理解度を尋ねており、前述の学生の周知度と同様に、3を中間的的回答とみなし、5もしくは4の回答は理解できている群、2もしくは1の回答は理解できていない群として回答傾向を解釈する。

「入学時、進学時のガイダンスによって本学で何を学修するか理解できましたか？」

この項目では本学での学修目標について理解できたか否かを尋ねたものである。全学的には理解できている群が20%に達している。その一方で理解できていない群の回答も20%近くあり、25%近くが中間的な意見であった。これらのデータは、入学時・進学時のガイダンスは実施していても学修目標については十分な説明がなされていなかったことを示している。学部別にみると医学部では学部内の40%が学修目標を理解できたと回答しており、理解度が最も高い。

通常のガイダンスでは説明する内容が多く、学修目標について解説を行ったとしても学生が十分に理解できるとは考えがたい。今後、各課程・学科毎に行われているガイダンスにおいてパンフレット等の配付資料を用いるなどの改善が必要に思われる。

「入学時、進学時のガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいか理解できましたか？」

この項目は授業科目の履修方法についての理解度を問うたものである。全学的には履修方法について理解できている群の割合は30%近くに及んでいる。

授業科目の履修方法についてはそれぞれの専門分野によって複雑さに多少の差異

があると考えられる。学修目標と同様に分かりやすく解説した配付資料を用いるなどの取り組みが必要と考えられる。

3)教育施設、設備、機器等の充足度

図3に教育施設、設備、機器等についての充足度を示した。この項目では教養教育における講義室の設備、各学部での講義室の設備、LL 教室等の施設、スポーツ関連施設、実験室・実験器具および演習室の設備について尋ねている。ここでもやはり、3の回答を中間とし、5もしくは4を十分だと思っている群、2もしくは1を十分だと思っていない群とみなして回答傾向を解釈する。

「教養教育の設備・機器等は十分だと思いますか？」

この項目では教養教育に関連する施設の設備・機器等について尋ねたものである。全学的には十分だと思っている群の割合が 30%近くに達しており、十分だと思っていない群は 20%程度である。このことから本学の教養教育に関連する施設の設備・機器等は十分とは言えないまでも著しく劣っているというわけでもなさそうである。学部別に見てもすべての学部において十分だと思っている群の割合が 20%以上になっている。医学部では「分からない・該当しない」の比率がやや多いが、これは本庄キャンパスの利用者が他の学部に比べて相対的に少ない結果と判断される。

今回のアンケート結果では教養教育に関連する施設の設備・機器等について十分だと感じている学生が多いことが判明したが、今後も設備の充実に努力していく必要があると考えられる。

「学部教育の設備・機器等は十分だと思いますか？」

本項目は学部教育に関わる施設・設備について設けたものである。全学的にみれば 30%近くが学部教育の設備・機器等は十分だと回答しており、15%ほどが十分だと思っていない。この項目は学部による格差が著しく、医学部では最も満足度が高く、学部学生の 40%以上が肯定的な回答を寄せている。

全学的にみても肯定的な意見は決して多いとは言えず、今後さらに設備投資が必要に思われる。特に文系学部での充実が肝要であろう。

「外国語教育の設備・機器等は十分だと思いますか？」

全学的な回答では 20%以上が外国語教育の設備・機器に関して十分だと回答して

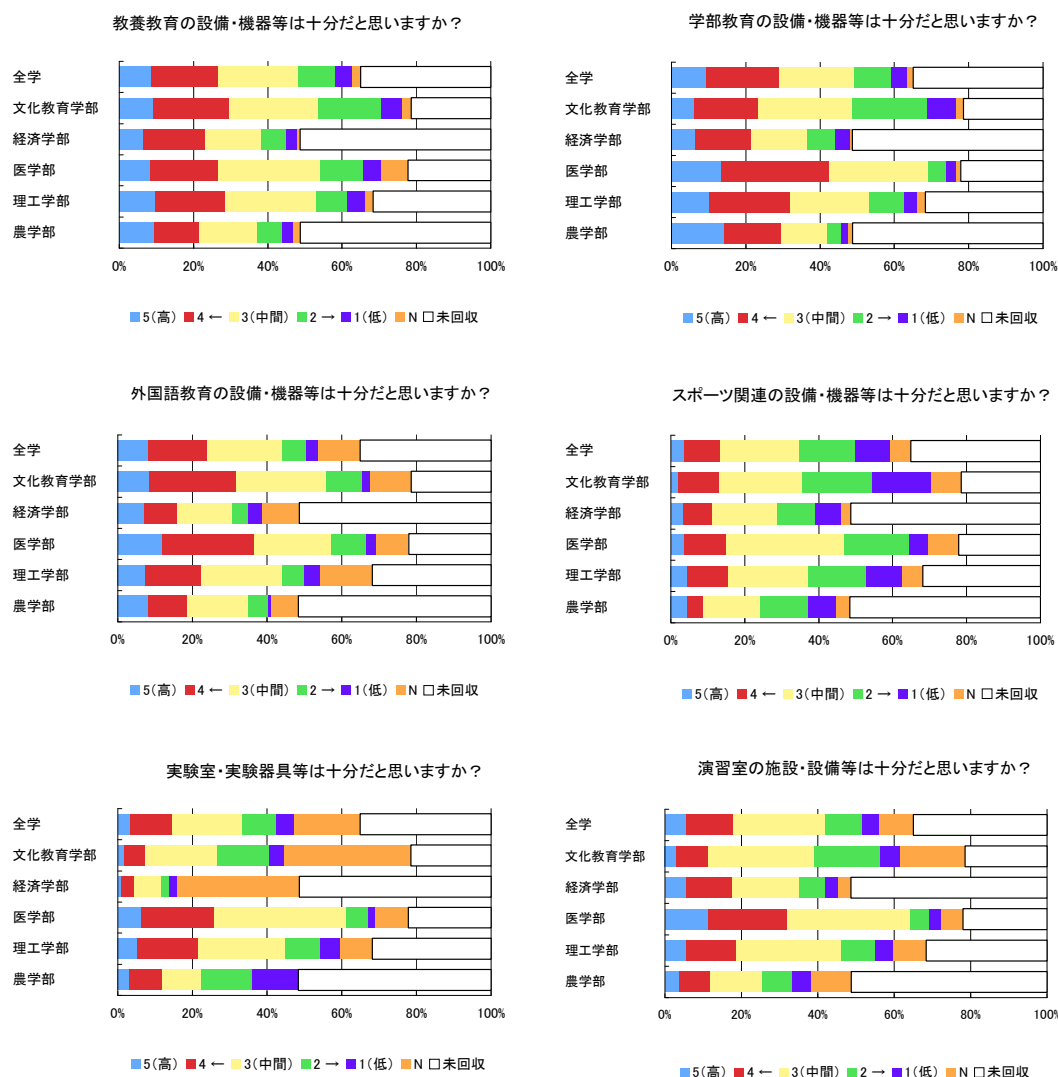


図3 教育施設、設備、機器等の充足度

いる。平均値には有意な差が見いだせないものの、学部別に見ると文化教育学部と医学部でそれぞれ学部内の30%以上が肯定的回答を寄せている。逆に経済学部と農学部では肯定的意見は20%を下回っている。また、この項目では「分からない・該当しない」と回答した学生も多く、外国語教育に直接携わらない、あるいは設備に関心を払っていない学生が多いと推定される。

全学的にはさらなる施設の充実が必要に感じられる。

「スポーツ関連の設備・機器等は十分だと思いますか？」

この項目では体育館やプールなどスポーツ関連設備の充実について尋ねたもので

ある。全学的には十分だと思っている群は 20%を下回っており、本学のスポーツ施設を学生が十分だと思っていない傾向が如実に現れている。平均値では文化教育学部の値が最も低い、農学部や経済学部でも十分だと思っている学生は 10%程度である。

スポーツ関連の施設・設備についても今後の改善が必要と考えられる。

「実験室・実験器具等は十分だと思いますか？」

全学的な回答を見ると 15%ほどの学生が十分だと思っている。しかしながら、「分からない・該当しない」と回答した学生の比率も極めて多く、未回収分に学部間の差があることを考慮してもなお学部毎に格差が出ているようである。文化教育学部や経済学部では「分からない・該当しない」と回答した数が学部全体の 30%程度に達している。これは、これらの学部が文系であることから考えて当然の傾向といえる。ただし、文化教育学部は文系学部ではあるものの理系の科目も多く設定され、実験室の数も多い。医学部や理工学部では十分だと思っている群が 20%を超えており、大学全体から見れば実験室・実験器具を学生が十分だと思っている割合が最も高い。

実験室・実験器具等については各学部の専門性によって、回答率が異なり一概に判断はできない。しかしながら、学生の理数離れを食い止めるためにも、これらの施設・設備についても早急な改善が必要であろう。

「演習室の施設・設備等は十分だと思いますか？」

全学的には 20%弱の学生が十分だと思っている。その一方で 15%ほどの学生が十分だと思っておらず、中間的な回答が多い。その中でも医学部では学部内の 30%を超える学生が演習室の施設・設備を十分だと考えており、否定的意見は 15%ほどである。文化教育学部や農学部では 15%程度の学生は十分だと回答しているが、否定的な意見も多くさらなる改善が必要に思われる。

演習室についても学部の専門性によってばらつきが認められる。学部の特性を十分考慮した上で対処する必要があると判断される。

4) 教育体制全般に対する満足度

図4に教育体制全般に対する満足度を示した。この項目では修学制限、相談体制、各部署におけるパソコンの数量、自習スペース、図書・視聴覚資料、事務職員の対応等について尋ねている。なお、回答傾向の解釈は3を中間と見なして行う。

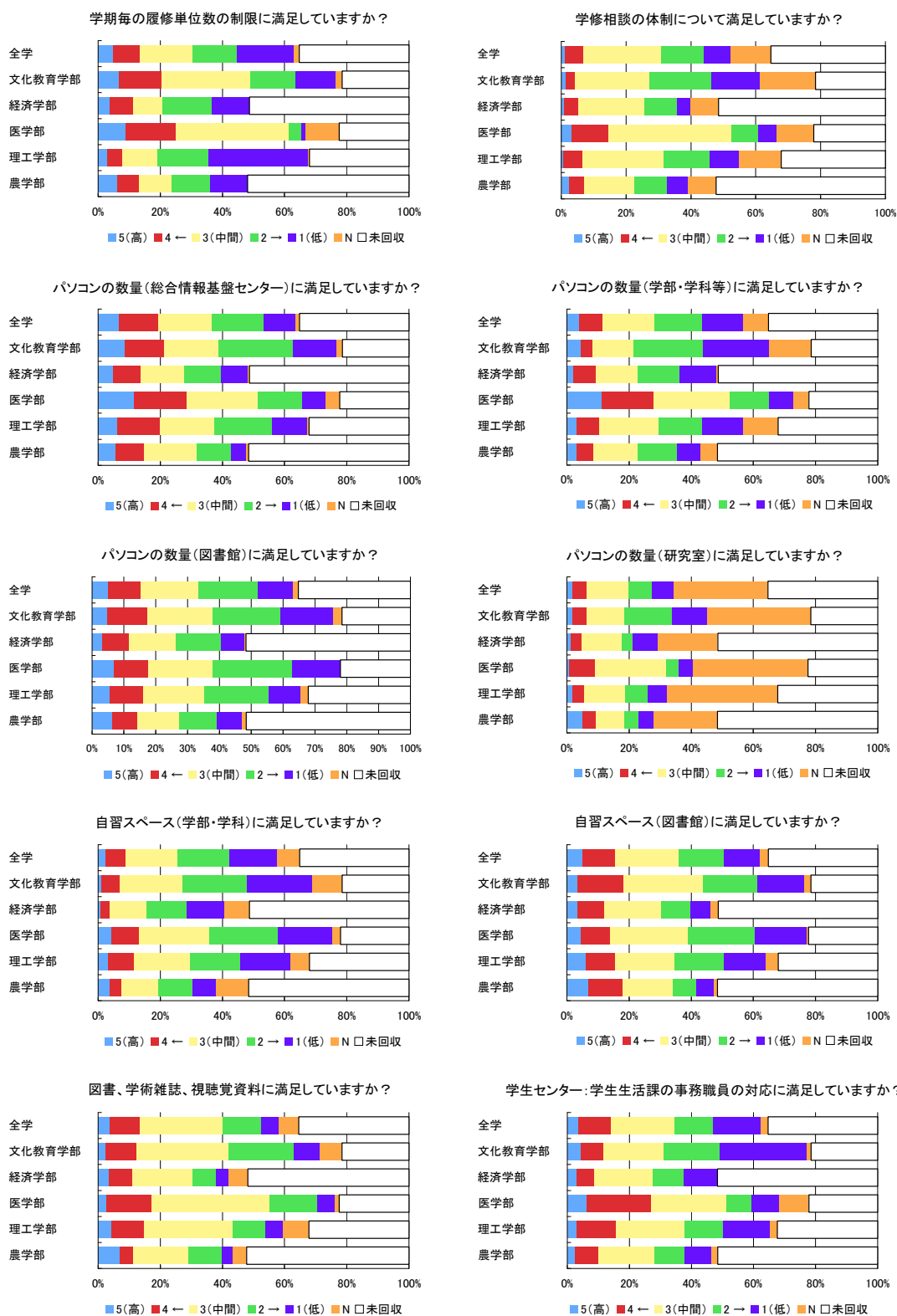


図4 教育体制全般に対する満足度(その1)

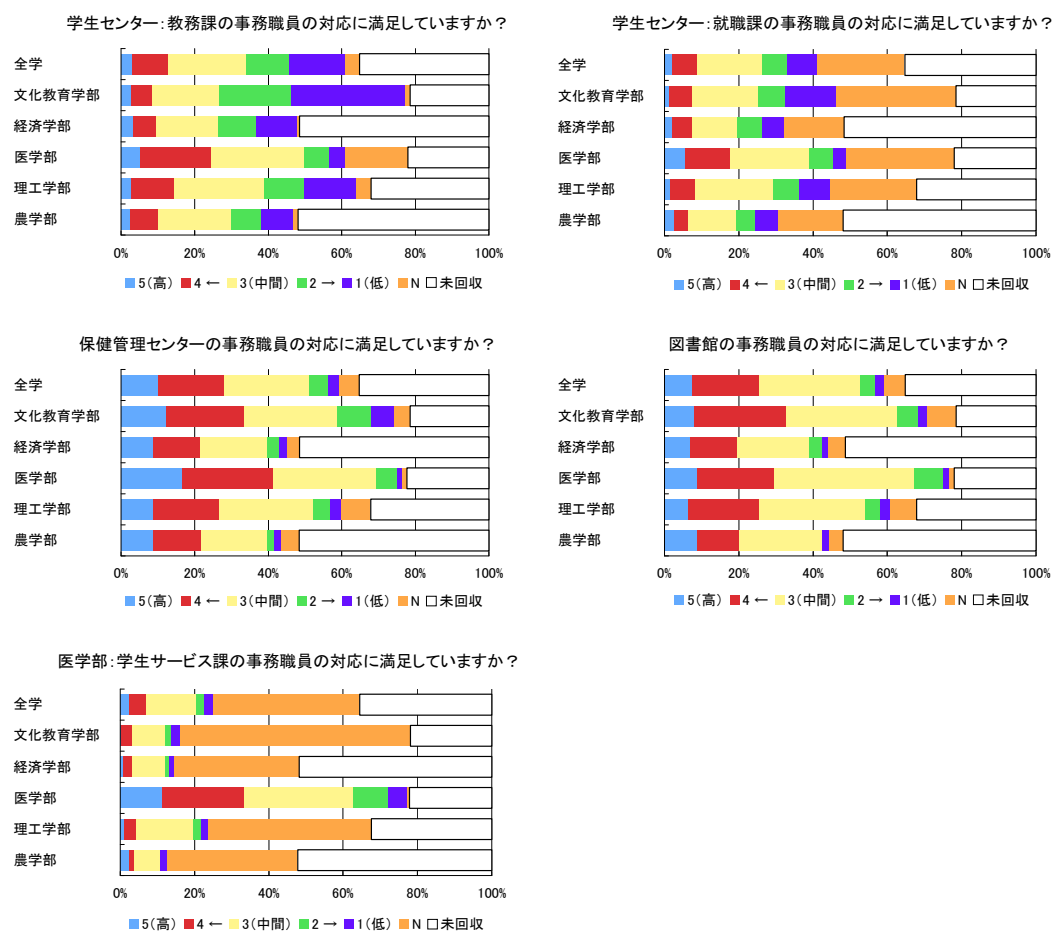


図4 教育体制全般に対する満足度(その2)

「学期毎の履修単位数の制限に満足していますか？」

本学では学期毎の履修単位数の上限を25単位に設定している。これは学生に過剰な学業を強いることがないようにするための配慮である。全学的には中間的な回答が目立っており、15%の学生が満足しているに過ぎない。さらに、30%近くの学生は満足していない。学部別にみると文化教育学部と医学部では満足している群が学部内の20%を超えている。最も満足度が低いのは理工学部で、10%程度の学生しか満足を示していない。

この結果は大学側が憂慮している過剰な学業の制限を学生が正しく認識できていないことを示している。逆に言えば、学生は履修さえできれば単位取得は容易だと安易に考えており、本来の履修単位制限が正しく伝わっていないことが考えられる。もしくは、要領よく良い成績を取ろうとする学生が多いことを反映しているのかもしれない。

「学修相談の体制について満足していますか？」

全学的な結果では 10%以下の学生しか満足していないことがわかる。否定的な意見は 20%近くに上る。その一方で中間的な意見が 30%近く存在し、「分からない・該当しない」も 10%強に達している。学部別に見ると医学部では相対的に満足していると回答した学生が多いが、それでも学部内の 15%に過ぎない。その他の学部では肯定的な意見は 10%に満たず、いずれの学部も「分からない・該当しない」の占める割合が大きい。

この結果からは学生の学修相談体制が十分に制度化されていないことが推定される。今後は学修体制の改善と共に、広く学生に周知させる取り組みが必要である。

「パソコンの数量(総合情報基盤センター)に満足していますか？」

全学的な結果を見ると 20%弱の学生が総合情報基盤センターのパソコン数に満足していると回答している。その一方で 25%弱の学生はパソコン数に満足を示していない。学部別に見ると医学部で満足数が最も高く 30%近くに及ぶ。文化教育学部と理工学部では 20%近くが満足していると回答しているが、不満とする回答も 30～40%ある。経済学部や農学部では 15%前後が満足と回答してるものの、15～20%は満足していない。

この項目では総合情報基盤センターを多用する学生とそうでない学生によって回答が異なっている可能性がある。今後は利用者に限定して再調査を行う必要があるかもしれない。

「パソコンの数量(学部・学科等)に満足していますか？」

この項目は学部・学科等におけるパソコン数の満足度に関するものである。全学的には 10%強が満足しているが、25%弱の学生が不満に感じていることがわかる。この項目でも医学部での回答数が高く、30%弱が満足していると回答している。このことから、医学部でのパソコン数は比較的整備が進んでいるものと考えられる。経済学部では「分からない・該当しない」の割合が極めて少なくパソコンに接する機会が多いようである。

各学部・学科には必ずしもパソコンが整備されているとは限らず、整備されていたとしても最新機種ではなく学生が満足するには至っていないと考えられる。今後、パソコンの設置状況などの調査を実施して、学生からの意見と合わせて整備を進めていく必要があるだろう。

「パソコンの数量(図書館)に満足していますか？」

全学的に見ると 15%強の学生が満足であると回答している。その一方で、30%ほどの学生が不満を示している。学部別に見ても、すべての学部で肯定的意見は 20%弱にとどまっている。

図書館は全学的に利用される施設であり、多くの学生が訪れる場所でもある。そのため、パソコンを利用する学生も多く、数が足りない状況が推定される。各学部・学科に設置するパソコンとのバランスを考慮して整備する必要がある。

「パソコンの数量(研究室)に満足していますか？」

本項目では各研究室のパソコンの数を尋ねたものであるが、「分からない・該当しない」と回答する学生が極めて多い。このことは調査対象とした学生が3年次であり、まだ卒業研究の研究室に配属されていないことを示しているのであろう。したがって、肯定的意見は医学部を除いて 10%以下であり、満足度は低いと考えられる。医学部では 10%以上で相対的にやや高いものの決して十分な数字とは言えない。

研究室のパソコンは個々の研究費で賄われている場合が多く、専門分野によっては台数を揃える必要のない研究室もあるだろう。研究室に設置するパソコンについては管理している教員に一任するしかないが、定期的な調査を行って数を把握しておく必要があるかもしれない。

「自習スペース(学部・学科)に満足していますか？」

全学的には 10%前後の学生が学部・学科に設けられている自習スペースに満足していると回答している。その一方で 30%近くの学生は満足していないと回答している。中間的な回答は 15%程度である。学部別に見ると医学部では 15%の学生が満足していると回答し、その反面 40%近くの学生は否定的な意見を持っている。文化教育学部では 10%が満足していると回答しているが、不満とする学生も 40%を超えている。理工学部や農学部でも満足しているとする学生は決して多くないが、不満に感じている学生も 20～30%でやや少ない。平均値を見ると文系学部で満足度がやや低い傾向にある。

建物の改修が進んでいる部局では不満を感じている学生は少なく、改修が遅れてる学部では比較的その数が増えている傾向がある。今後全学的な実態調査を行い把握に努める必要がある。

「自習スペース(図書館)に満足していますか？」

図書館における自習スペースは学部・学科に設けられている自習スペースに比べてやや満足度が高い。全学的には 15%強が満足を示しており、不満とする学生は 30%弱である。文化教育学部学生のうち 20%弱が満足していると回答し、学部・学科よりも図書館での自習スペースの満足度が高い。経済学部や農学部でも同様の傾向が認められる。医学部や理工学部では学部・学科の満足度とほぼ同じ結果が得られている。

図書館は全学的施設であり、利用する学生も多い。自習スペースを拡張することは容易にはできないが、学部・学科の自習スペースとのバランスを考慮して整備を進める必要が求められよう。

「図書、学術雑誌、視聴覚資料に満足していますか？」

全学的には 15%程度が満足していると回答があり、18%ほどの学生が不満と回答している。また、30%弱の学生は中立的な回答をしている。文化教育学部でも 15%程度の学生が満足を示しているが、30%程度の学生が不満を持っていることが分かる。医学部では 18%程度の学生が満足を示しているが、20%強の学生が不満に感じている。経済学部・理工学部・農学部でも 15%～18%の学生が満足していると回答している。

この問題を改善するには具体的にどのような図書・学術雑誌・視聴覚資料が必要であるのかを調査する必要がある。パソコンや自習スペースと同様に学部・学科の状況を十分に勘案して整備していく必要があろう。

「学生センター：学生生活課の事務職員の対応に満足していますか？」

この項目は本学の事務職員の対応について学生が満足しているか否かについて尋ねたものである。全学的にはおよそ 15%の学生が肯定的な回答を行っている。その一方で、20%強の学生が否定的な回答を寄せている。学部別にみると医学部で 30%の学生が肯定的な回答をしており最も高い。しかし、一方で「分からない・該当しない」と回答する学生の割合も多くなっている。そのほかの学部では満足度は 20%を下回る。また、文化教育学部では 50%近くの学生が対応に不満を持っており、最も多くなっている。

具体的にどのような対応が不満であるのか、このアンケートから読み取ることはできない。文化教育学部の学生に否定的な意見が多いことが何らかの傾向を示しているものと考えられるが定かではない。いずれにせよ、今後の改善が必要であることは間違いない。

ない。

「学生センター：教務課の事務職員の対応に満足していますか？」

教務課職員の対応への満足度は学生生活課のそれとほとんど同じである。全学的な回答では 15%ほどが満足と回答しているが 25%は不満に感じている。医学部では 25%の学生が肯定的な回答をしているが、「分からない・該当しない」と答えた学生も 18%に達している。文化教育学部では 50%近くの学生が不満に感じている。医学部を除く学部では満足と回答している学生に比して、不満に思っている学生の割合が大きく、特に文化教育学部でその傾向が顕著に現れている。

この項目についても具体的にどのような対応に不満を抱いているのか明らかにすることはできない。学生側ばかりでなく事務職員に対してもアンケートを実施してデータを精査する必要があるだろう。

「学生センター：就職課の事務職員の対応に満足していますか？」

就職課職員の対応については全学の 10%程度の学生が肯定的な意見をもっている。否定的な意見は 15%であるが、「分からない・該当しない」の割合が 25%弱認められる。医学部では肯定的意見が比較的多く 18%に達している。しかし、一方で「分からない・該当しない」の割合も 30%近く認められる。文化教育学部・経済学部・理工学部・農学部共に満足している群の割合が満足していない群の割合を下回っており、「分からない・該当しない」とする回答が多い傾向が明らかである。

アンケート対象学生が3年次であるために就職課の事務職員と接する機会が少なく、「分からない・該当しない」の意見が多くなったと考えられる。しかし、対応に不満をもっている学生の割合は無視できるものではない。今後、こうした回答傾向の原因を精査して対応する必要があるだろう。

「保健管理センターの事務職員の対応に満足していますか？」

保健管理センターの事務職員の対応については肯定的意見の割合が多く、全学的には 30%近くが満足しているようである。満足していない群の割合は 10%前後であり、中間的な意見は 20%強を示している。学部別に見ると医学部は肯定的意見が 40%を超えている。文化教育学部も 30%を超える学生が肯定的な意見を持っているようだが、否定的な意見も多く 18%前後に達している。理工学部・経済学部・農学部の学生も 20%以上が満足を示しており逆に否定的な意見は少ない。

保健管理センターの事務職員に対する満足度では相対的に高い満足度を示しており、不満度はかなり低いと判断される。

「図書館の事務職員の対応に満足していますか？」

図書館の事務職員については満足している群の割合が25%に達している。不満度は10%を下回っており中間的意見が30%を占める。文化教育学部では30%を超える学生が肯定的意見をもっており、不満度は10%程度である。医学部・理工学部も20%を超える学生が肯定的意見を示し、否定的意見は10～15%程度である。経済学部・農学部では20%弱の学生しか満足を示していないが、否定的意見はかなり少なく7%以下である。

「分からない・該当しない」の割合が学部によって異なっており、専門分野によって図書館の利用率が偏っている可能性がある。満足を示す学生は多いが、不満を示す学生も若干いるので改善を促進する必要があるかもしれない。

「医学部：学生サービス課の事務職員の対応に満足していますか？」

この項目は医学部にある学生サービス課の事務職員の対応について尋ねたものである。当然のことながら医学部以外では「分からない・該当しない」が大多数を示しており、全学的な傾向にはあまり意義を見いだせない。医学部では30%を超える学生が満足を示しているが、不満に感じている学生も15%程度存在する。「分からない・該当しない」がほとんど無いことから学生が事務職員に接する機会は多くあると考えられる。

具体的にどのような対応が不満度を上げているのかを調査して改善に結びつける努力が必要に思われる。

5) 授業科目に対する満足度

図5に授業科目に対する満足度を示した。この項目では教養教育科目から専門教育科目にわたる多くの授業科目について満足度を尋ねている。

「英語の授業について満足していますか？」

全学的には17%の学生が英語教育に満足を示しているが、逆に同程度の学生が不満を示していることが分かる。中間的意見は30%程度である。医学部では肯定的意見が25%ほどあるが、否定的意見も少なくなく15%ほど認められる。他の4

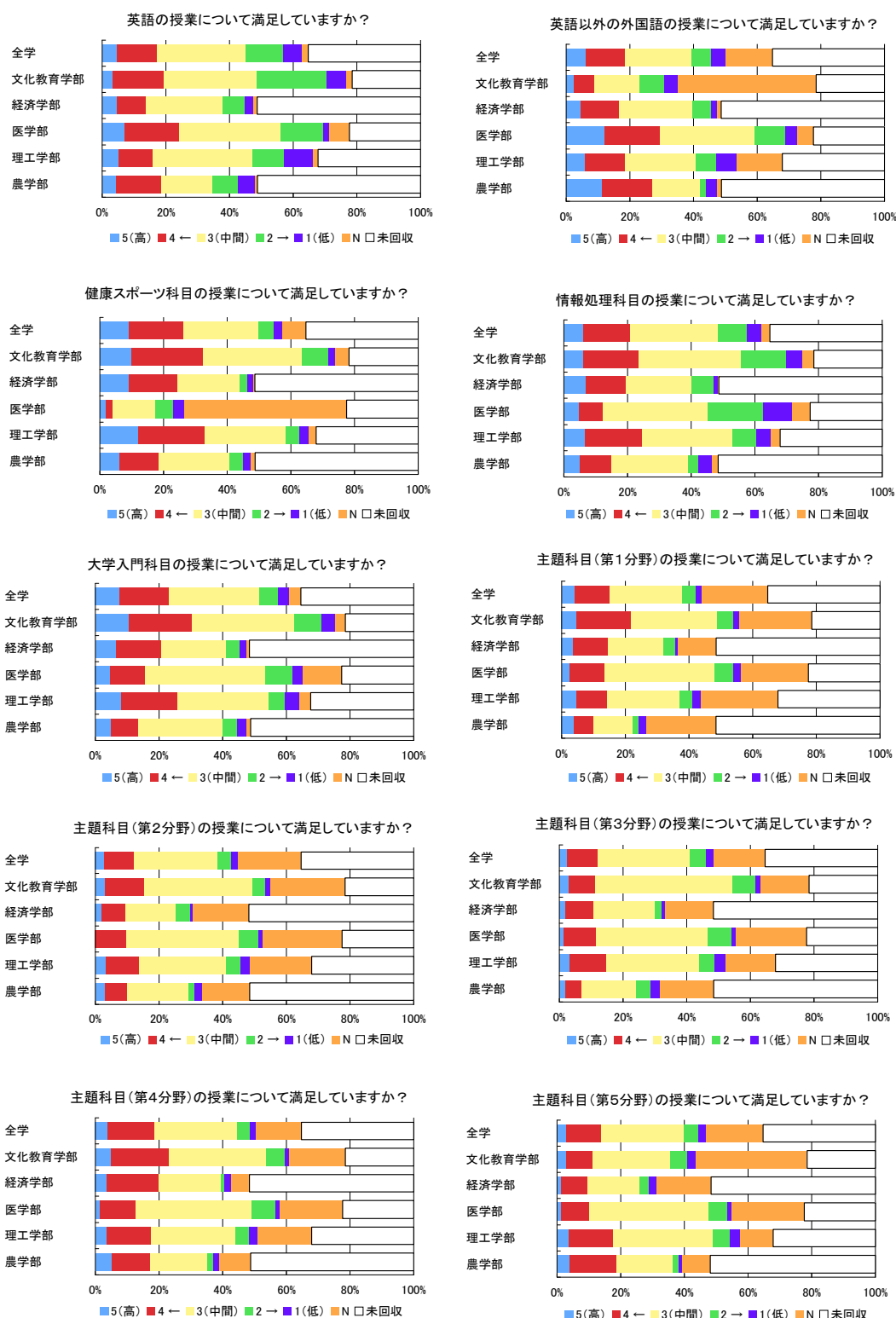


図5 授業科目に対する満足度(その1)

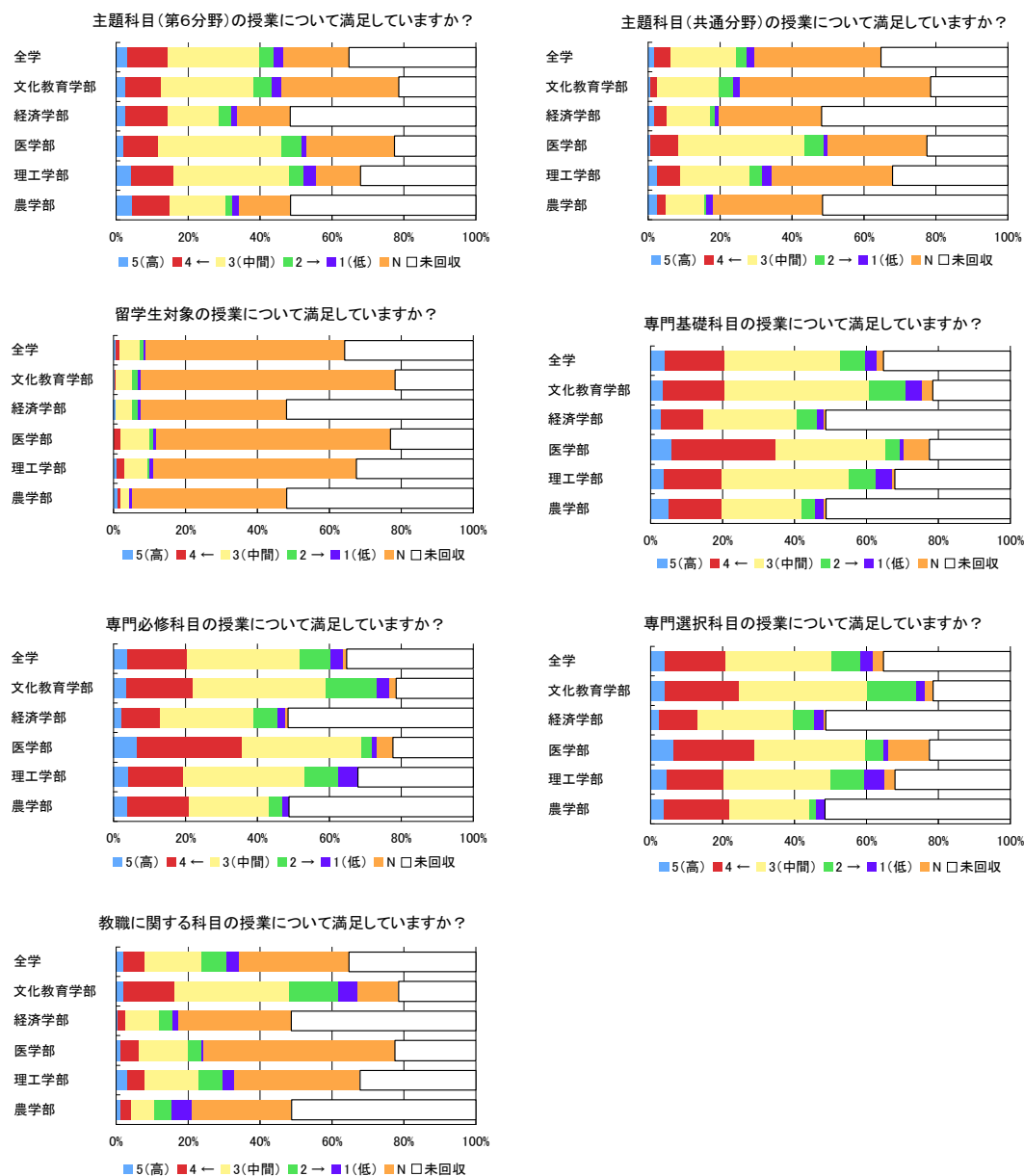


図5 授業科目に対する満足度(その2)

学部では肯定的意見が20%を下回っており、特に文化教育学部では不満に感じている学生が30%弱存在する。経済学部や農学部では満足に感じている学生が不満に感じている学生を僅かながら上回っている。

本学では英語教育の改善が急務ではあるが、このアンケート結果を見ると必ずしも学生の満足度が高いとは言えない。ただし、新しい取り組みを開始したのは平成17年度入学の学生からであり、アンケート対象となった3年次はその

恩恵を被っていない。継続的な調査をすれば英語教育について問題点が明らかになると考えられる。

「英語以外の外国語の授業について満足していますか？」

英語以外の語学教育について尋ねた項目である。全学的には18%学生が満足を示しており、英語教育に対するそれとほぼ同じと考えられる。不満に感じている学生は10%強であるが、「分からない・該当しない」とした学生が15%ほどいる。これは語学が選択制を取っているため英語のみを選択した学生が多いことを表していると考えられる。文化教育学部では満足を示す学生の割合が最も低く、「分からない・該当しない」と回答した学生が極端に多い。医学部や農学部では満足している群の割合が30%近くに達し、満足している学生が相対的に多いことが伺える。

今後は英語以外の外国語を受講している学生に限ってアンケートを実施するなどして満足度に関するデータを集める必要があろう。

「健康スポーツ科目の授業について満足していますか？」

健康スポーツ科目については全学的に見れば30%弱の学生が満足しており、不満度は10%程度に抑えられている。学部別に見た場合、医学部では「分からない・該当しない」と回答した学生が多いことが明らかである。これは医学部の健康スポーツ科目履修者が少ないことを示している。文化教育学部や理工学部では肯定的意見が否定的意見よりも多く学生の満足度は比較的高いと判断される。経済学部や農学部では肯定的意見は25%以下であるが、否定的な意見は少なく、満足している学生の割合は大きい。

スポーツ関連施設についての満足度は少ないが、授業については比較的肯定的意見が多く、教員の創意・工夫が汲み取られた結果を示している者と考えられる。

「情報処理科目の授業について満足していますか？」

全学的に見た場合、20%強の学生が満足と回答しており、15%の学生が不満を示している。中間的意見は30%弱ある。文化教育学部と理工学部では肯定的意見が多く25%弱に達している。しかし、文化教育学部では不満に思っている学生の割合も20%近く存在する。経済学部は肯定的意見が20%しかないが、否定的意見

はそれを下回っている。農学部や医学部では満足とする学生は 20%を下まわる。医学部では否定的意見が 30%近くに達していることが注目される。

パソコンの整備状況などを含めた総合的な検討を行い、対策を講じる必要がある。

「大学入門科目の授業について満足していますか？」

大学入門科目については全学の 20%を超える学生が満足を示しており、不満足（10%）を上回っている。その一方で中間的な意見を示す学生も 30%程度いる。学部別に見た場合、文化教育学部と理工学部で満足度が高い。不満を示す学生もいるがその比率は相対的に低くなっている。経済学部は 20%の学生が肯定的であり、10%程度の学生が否定的意見を示している。医学部と農学部はいずれも 20%以下の学生しか満足を示していないが、否定的な意見も 10%程度に抑えられている。

解析結果をみると、大学入門科目が効果的に行われているとは判断できない。不満に思われている要因について調査し、改善が必要と判断される。

「主題科目（第1分野）の授業について満足していますか？」

主題科目（第1分野）：文化と芸術の授業についての満足度を問うた項目である。結果を見ると明らかなように「分からない・該当しない」と回答した学生の割合が大変多い。これは以下に続く項目にも共通するが、主題科目と共通科目は選択科目であり全ての学生が万遍なく受講していないことを示している。全学的には 15%強の学生が満足と回答しており、不満とする意見を上回っている。文化教育学部では 20%を超える学生が肯定的意見を寄せており、否定的意見は 10%未満である。農学部では満足度がやや低くなるものの、経済学部・医学部・理工学部と同様に満足度が不満度を上回る結果を示している。

全体的に満足とする意見が不満とする意見を上回っており、ほぼ良好な結果を得ていると考えられる。

「主題科目（第2分野）の授業について満足していますか？」

この項目は主題科目（第2分野）：思想と歴史の授業についての満足度を尋ねたものである。全学的には 10%強の学生が肯定的意見を示し、否定的意見は 10%以下である。中間的な意見は 30%前後であった。「分からない・該当しない」とす

る意見は 20%に達する。学部別に見ると文化教育学部や理工学部で比較的満足度が高い傾向がある。経済学部・医学部・農学部では肯定的意見が 15%を下回るが、否定的な意見も 10%を下回っている。

全体的には肯定的意見が否定的意見よりも多く、概ね良好な結果を得ていると考えられる。

「主題科目(第3分野)の授業について満足していますか？」

この項目は主題科目(第3分野)：現代社会と構造の授業についての満足度を尋ねたものである。全学的には 15%弱の学生が満足と感じており、10%弱が満足に感じていないと回答している。中立的意見は 30%ほどである。いずれの学部でも肯定的な意見は 20%を下回っているが、否定的な意見に比べるとその割合は大きい。

否定的意見が肯定的意見よりも相対的に低くなっていることから、ほぼ満足できる授業が展開されていると考えられる。

「主題科目(第4分野)の授業について満足していますか？」

この項目は主題科目(第4分野)：人間環境と健康の授業についての満足度を尋ねたものである。全学的には 18%の学生が肯定的意見を示し、否定的な意見は 10%に満たない。中間的意見も 30%弱である。敢えて言えば、文化教育学部、経済学部、農学部で満足度がやや高く、医学部では満足を示す学生の割合が 15%強に止まっている。

他の主題科目と比べると満足している群の割合が最も多く、満足していない群の割合が最も少ない特徴がある。

「主題科目(第5分野)の授業について満足していますか？」

主題科目(第5分野)：数理と自然の授業についての満足度を問うた項目である。全学的には 15%もの学生が満足している。不満足は 10%未満であった。中間的な回答は 30%弱である。学部別に見ると農学部の満足度が高いが他はあまり差がない。ただし、文化教育学部では「分からない・該当しない」と回答した割合が多く、理系の授業科目からなる第5分野を受講していない学生が多いことが伺える。一方、理工学部・農学部は「分からない・該当しない」と回答した割合は比較的少ない。

総合的に文系学部では「分からない・該当しない」とする意見が多く、満足していない傾向がある。教養教育科目であるので文系学生にも十分に理解できるような授業にする工夫が必要ではないだろうか。

「主題科目(第6分野)の授業について満足していますか？」

主題科目(第6分野)：科学技術と生産の授業について設定した項目である。全学的には15%の学生が肯定的な意見を回答しており、否定的な意見は7%程に押さえられている。中間的な意見は25%弱であった。平均値を見た場合、経済学部と理工学部で満足度が僅かに高い傾向があり、文化教育学部と医学部で低くなる傾向がある。いずれの学部でも肯定的な意見が否定的な意見を上回っている。

総合的に見れば肯定的意見が多く、否定的な意見が少ないことから概して良好な状態と判断される。

「主題科目(共通分野)の授業について満足していますか？」

主題科目(共通分野)：地域と文明の授業についての満足度に関する項目である。この回答の特徴は「分からない・該当しない」が著しく多いことである。前項までの主題科目の中でもそのように回答した学生の割合が最も多い。全学的には10%弱の学生が肯定的意見を有し、同程度の割合で否定的な意見も寄せられている。共通分野は平成16年から実施されており、受講した学生の比率が多くなかったことが伺い知れる。文化教育学部では肯定的意見が5%以下と極めて低く、否定的意見がそれを上回っている。医学部や理工学部では肯定的意見が10%程度であるが、否定的な意見も10%弱寄せられている。経済学部や農学部では有効回答自体が20%を下回っており有意な傾向を読み取ることは出来ない。

共通分野の取り扱いが他の主題科目とはやや異なっている点に配慮する必要があるものの、総合的に満足度が高いとはいいがたく、今後の改善が必要に思われる。

「留学生対象の授業について満足していますか？」

具体的には留学生対象の日本語科目などについて設けられた設問である。各学部には留学生が在籍するもののその割合は低く、ほとんどの日本人学生は留学生対象の科目を受講することはない。したがって、「分からない・該当しない」との意見が大変

多く、有効回答は最も多くても 10%前後である。したがって、本項目の結果からは留学生対象科目に対する満足度を読み取ることは出来ないと判断される。

「専門基礎科目の授業について満足していますか？」

全学的には 20%の学生が満足であると回答している。否定的な意見は 10%弱であり、中間的な回答は 30%強であった。学部別に見ると医学部で 30%以上の学生が満足であると回答しており、否定的な意見を大きく上回っているのが特徴的な点である。

専門基礎科目は専門分野を学ぶ上で必要な知識や技術を習得するものであり極めて重要な科目である。この科目については各学部でさらに詳しい解析を行い、改善に取り組んでいく必要があろう。

「専門必修科目の授業について満足していますか？」

全学的には 20%強の学生が満足であると回答しているが、不満足も 10%強認められる。中立的な回答は 30%である。この項目への回答で特徴的なのは「分からない・該当しない」との意見が極めて少ない点であろう。必修科目であるのでほとんどの学生が履修しているのでそれを反映したものと考えられる。学部別に見ると医学部で満足とする学生の回答が高く、35%近くに達する。一方で、否定的意見も少なく 5%程度に落ち着いている。文化教育学部と農学部は 20%強の学生が満足と回答している。しかし、文化教育学部では否定的な意見も多く 20%弱の学生が満足していないことが読み取れる。理工学部では 20%弱が満足であると回答しているが、10%強の学生が不満に思っているようである。経済学部では肯定的な意見は 15%にとどまり、否定的な意見は 10%程になっている。

専門必修科目は学部教育の要として設定された科目であり、本来であれば高い満足度を有していなければならない。アンケート結果を見ると必ずしも、そうなっておらずカリキュラム全体の見直しを含めた抜本的な改革が必要だろう。

「専門選択科目の授業について満足していますか？」

専門必修科目と同じく、全学的には 20%強の学生が満足であると回答しているが、否定的な意見も 10%強認められる。最も満足度が高いのは医学部であり、30%近くになる。文化教育学部は肯定的意見が 25%弱認められるが、否定的な意見も多く 15%強の学生が不満を持っているようである。理工学部・農学部の学生は 20%強が満足度を示しているが、理工学部では 15%以上の学生が否定的な意見を持っているようである。経

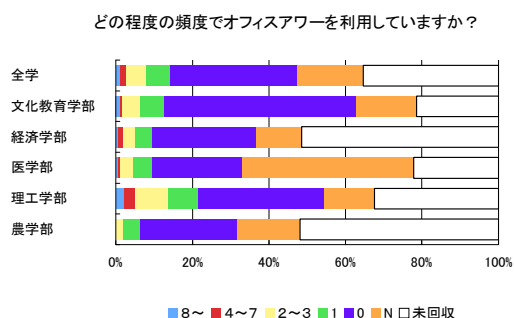


図6 オフィスアワーの利用頻度

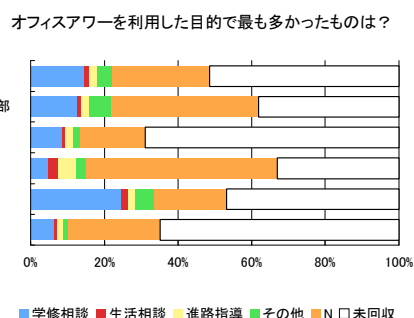


図7 オフィスアワーでの相談内容

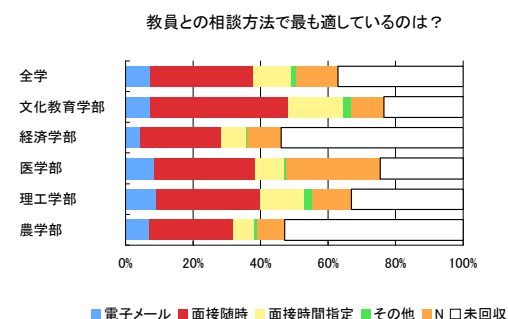


図8 教員との相談方法

経済学部は15%弱の学生が満足であると回答するにとどまり、否定的な意見も10%近く認められる。

専門選択科目は専門必修科目に準じた重要な科目であり、高い学生の満足度が得られなければならない。学生のニーズを汲み取ったカリキュラム改善・授業改善の必要があろう。

「教職に関する科目の授業について満足していますか？」

教員免許に関わる科目について尋ねたものである。文化教育学部以外でも教員免許を取得する学生はいるものの、「分からない・該当しない」との意見が極めて多い。また、他の専門科目に比べて平均値も低くなっている。したがって、全学的な結果にはあまり大きな意義は認められない。

具体的にどのような部分で満足していないのかが不明であるので、引き続き詳しい調査を実施する必要がある。

6) オフィスアワーの利用頻度

図6にオフィスアワーの利用頻度についての結果を示す。

「どの程度の頻度でオフィスアワーを利用していますか？」

全学的に見た場合8回以上利用した学生は極めて少なく数%しかいない。1回以上利用した学生も10%強であり、30%以上が利用しておらず、「分からない・該当しない」との意見は20%弱に達する。これは先に述べたようにオフィスアワーの制度そのものを周知出来ていないので、多くの学生は存在すら知らなかったことを物語っていると言える。学部別に見ると理工学部で比較的良好に利用されており、2回以上利用した学生が12%程度居り、1回以上利用した学生を加えると学部内の20%の学生になる。

全体的にオフィスアワーの制度そのものを知らない学生が多く、知っていても利用しにくい環境あると考えられる。

7) オフィスアワーでの相談内容

図7にオフィスアワーを利用した際の相談内容について示した。利用した学生のための回答であるため、グラフでは見かけ上未回収分の比率が高くなっている。

「オフィスアワーを利用した目的で最も多かったものはどれですか？」

この項目はオフィスアワーを利用した学生のみによる回答であるために、回答数が減り、見かけ上未回収分の割合が増加したように見えている。相談内容であるが、全学的には学修相談が最も多く15%を占めている。生活相談や進路相談は数%しかない。しかし、医学部では学修相談と進路指導が共に5%程度あり、生活相談も3%あった。学修相談の割合は理工学部で多く、25%を超える。その他と回答した学生は文化教育学部と理工学部で5%強いる。「分からない・該当しない」との意見は大変多いが、利用していなかったのか、何らかの特別な相談であったのかは不明である。

相談内容のほとんどは学修相談であり、進路相談がそれに続いている。各教員が学部教育課程について十分に理解しておかなければならない。

8) 教員との相談方法について

図8に教員との相談方法について得られた回答を示す。

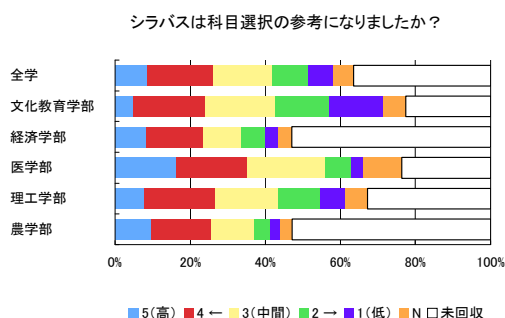


図9 シラバスの有効性

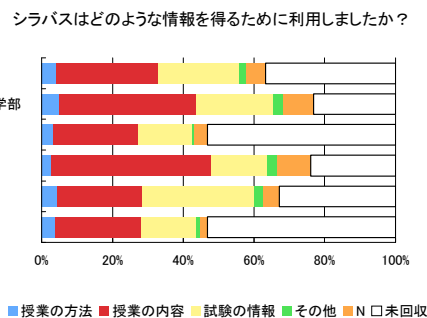


図10 シラバスからの情報

「教員との相談方法で最も適しているのはどれですか？」

全学的には教員との相談方法は随時面接することを希望する学生が最も多く、30%近くに及ぶ。次に指定した時間に面接する方法であり 10%強、電子メールでの相談が 10%弱であった。「分からない・該当しない」は教員との相談が無かった学生と判断される。この全学的な傾向は全ての学部に通に認められる傾向である。ただし、医学部では 20%強の学生が「分からない・該当しない」と回答している。

学生が希望する教員との相談方法はいつでも学生の希望する時間に教員を訪ねるという方法であろう。この結果から見る限り、時間を設定したオフィスアワーの有効性が低いこともうなずける。

9)シラバスの有効性について

図9にシラバスが科目選択の参考になったか否かというシラバスの有効性について得られた結果を示す。なお、3を中間的回答、5および4を参考にした群、2および1を参考にしなかった群とみなしてデータを解釈していくことにする。

「シラバスは科目選択の参考になりましたか？」

全学的に見れば 30%弱の学生が科目選択時にシラバスを参考にしたと推定される。その一方で 15%強の学生は否定的な意見を寄せている。文化教育学部では肯定的な意見が 25%弱あるが、否定的な意見は 30%近くに及び、シラバスが科目選択には参考にならなかったと回答している。肯定的な意見が最も多いのは医学部であり、35%の学生がシラバスを参考に科目を選択している。

シラバスについては冊子体のものとオンラインシラバスの両方が存在するが、現在はオンラインシラバスが主体となりつつある。冊子体のものは新入生に配布する科目に

限られている。学生がシラバスを有効利用するには教員側がきちんと準備する必要があり、それによってこの項目の回答も大きく変化すると考えられる。現時点では4人にひとりが参考としている程度なので、今後整備を続けていく必要はあるだろう。

10)シラバスからの情報

シラバスを充実させる目的で具体的にどのような情報源としてシラバスを利用したのかを尋ねた。結果を図 10 に示す。

「シラバスはどのような情報を得るために利用しましたか？」

全学的に見た場合、シラバスから授業内容を知ったとする学生が最も多く、30%近くに及ぶ。次に 20%強の学生が試験情報と回答し、10%以下の学生が授業方法の周知のために利用したと回答している。文化教育学部と医学部の学生は 40%近くの学生が授業内容の情報を得るためにシラバスを利用したと回答しており、20%前後の学生が試験情報の入手に利用している。経済学部・理工学部・農学部でも 30%弱の学生は授業内容の情報収集に利用しており、理工学部では 30%強の学生が試験情報を得るために利用したと回答している。いずれの学部でも授業方法についての情報取得率は 10%以下であった。

結果を見る限り、学生は授業の内容を確認するためにシラバスを参考に行っていることが明らかとなった。また、試験情報についても少なくない学生が利用している。今回得られた結果を参考に今後オンラインシラバスの充実に関わり結ぶべきであろう。

11) 授業内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか

シラバスの利用内容については把握できたが、実際に必要な情報がシラバスに記載されているかどうかを尋ねてみた。データの解釈に当たり、やはり 3 を中間とし、5 および 4 を即している群、2 および 1 を即していない群と見なす。項目は外国語科目、健康・スポーツ科目、情報処理科目、主題科目、専門必修科目、専門選択科目、教職に関する科目の 7 つに設定した。

「外国語科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」

全学的に見た場合、20%弱の学生が即していると考えている。即していないとする意見は 10%未満であり、中間的な意見は 25%であった。文化教育学部は全学の傾向と似ているが、否定的意見がやや多く、「分からない・該当しない」回答した学生が 25%に

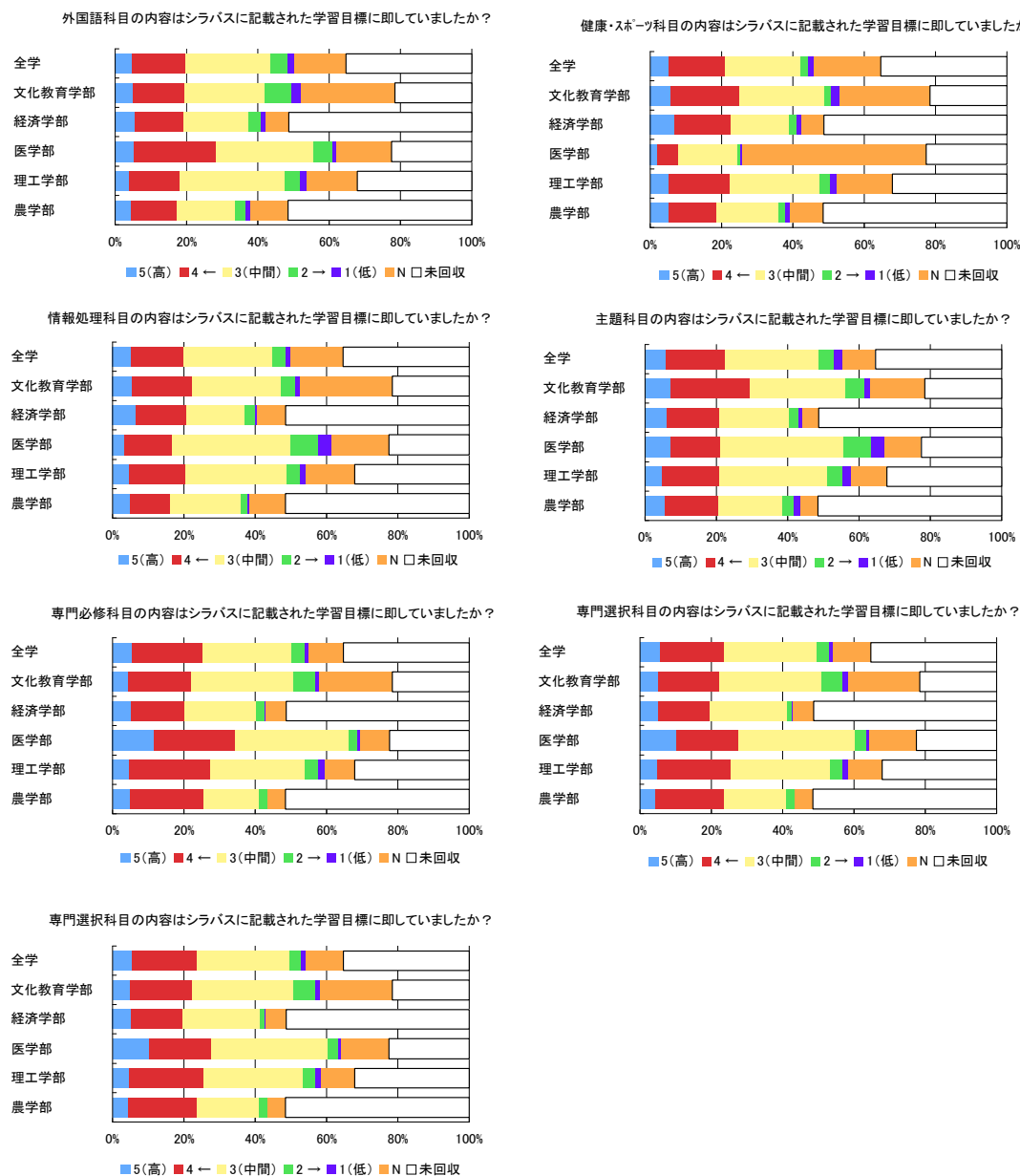


図 11 授業内容はシラバスに記載された学習目標に即しているか

達している。医学部では 30%近くの学生が肯定的意見を寄せている。経済学部・理工学部・農学部では 20%弱の学生が肯定的意見を持っているが、否定的な意見を持つ学生はいずれも 10%以下である。

シラバスを利用したとする学生の比率から考えれば、外国語科目はシラバスに記載された学習目標に即していたと判断される。

「健康・スポーツ科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」

全学的には 20%強の学生が学習目標に即していたと回答しており、即していないとする意見は少なく5%程度である。文化教育学部では 25%の学生が肯定的意見を持っており、否定的な意見は 5%強である。経済学部・理工学部・農学部でも 20%前後の学生が肯定的意見を示しており、否定的な意見はいずれも 5%前後であった。医学部では肯定的な意見が少なく 10%弱であるが、「分からない・該当しない」の回答が 50%近くに及んでいることから履修した学生数そのものが少ないと判断される。

内容がシラバスの目標に即していないとする意見が少ないことから健康・スポーツ科目はシラバスに記載された学習目標に即していたと判断される。

「情報処理科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」

全学的には 20%の学生が目標に即していると回答している。即していないとする回答は8%程であり、中間的回答が 25%程あった。学部別に見ると医学部で即していると回答の比率がやや低いものの他の学部では 20%程度の学生が即していると回答している。医学部では中間的意見を持つ学生も多く 30%を超えている。

内容がシラバスの目標に即していないとする回答がごく少ない点を考慮すれば情報処理科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していたと考えられる。

「主題科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」

全学的には20%の以上の学生が肯定的な意見を示している。否定的な意見は10%弱であった。文化教育学部では 30%の学生が肯定的な意見を返している。否定的な意見は 10%程度である。他の4学部は肯定的な意見が 20%前後でほぼ同程度である。医学部では否定的な意見がやや多く 10%を超えている。

「専門必修科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」

全学的には 25%強が肯定的意見を持ち、否定的意見は 5%強であった。学部別に見ると医学部で肯定的意見が非常に高く 30%を超える。否定的意見も5%ほどでかなり低い。理工学部や農学部でも肯定的意見が多く、25%前後の学生がそう答えている。一方、文系学部である文化教育学部や医学部は 20%前後の学生が肯定的意見を示し、相対的に学部内の占有率が低い。

総合的に見ると文系学部の学生で評価が低く、理系学部で高い傾向が読み取れる。

しかしながら、低いとは言え5人にひとりには肯定的な考えを示していることから、専門必修科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していたと考えられる。ただし、文系学部では相対的に低い評価が得られているのでシラバス再検討を行う必要がある。

「専門選択科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」

全学的には25%弱の学生が肯定的な意見を示し、7%ほどが否定的な意見を示している。この項目も専門必修科目とほぼ同じ傾向を示し、肯定的意見は文系学部で相対的に低く、理系学部で高い傾向が認められる。すなわち、医学部では30%、理工学部では25%、農学部では23%の学生が肯定的な考えを示し、文化教育学部と経済学部は20%前後の学生が肯定的な意見を示す結果が得られている。また、文化教育学部では「分からない・該当しない」と答えた学生も20%に達している。

全学的にはシラバスの内容が学修目標に即していたと判断される。しかしながら、文系学部では相対的に低い評価が得られているのでシラバスの学習内容の見直しが必要であろう。

「教職に関する科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」

教職科目は文化教育学部以外の学生でも受講しているが、主体をなしているのは文化教育学部であろう。その文化教育学部でも25%程が「分からない・該当しない」と回答している。しかしながら、他の学部ではその割合が多く有効回答数もかなり低い。したがって、全学的な解析は意義がないと考えられる。文化教育学部では肯定的意見が18%程であり、5%強の学生が否定的意見を回答している。

該当する学生が少ないため明らかではないが20%弱の学生が肯定的回答を寄せていることから教職に関する科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していると判断されよう。

12) 教養教育科目の開講数の適切性

教養教育科目についてはすべての学生が希望通りの科目を履修することができず、開講数が適切であるか否かを調べておく必要がある。この項目では外国語科目、健康・スポーツ科目、情報処理科目、主題科目について開講数の適切性を尋ねている。結果を図12に示す。

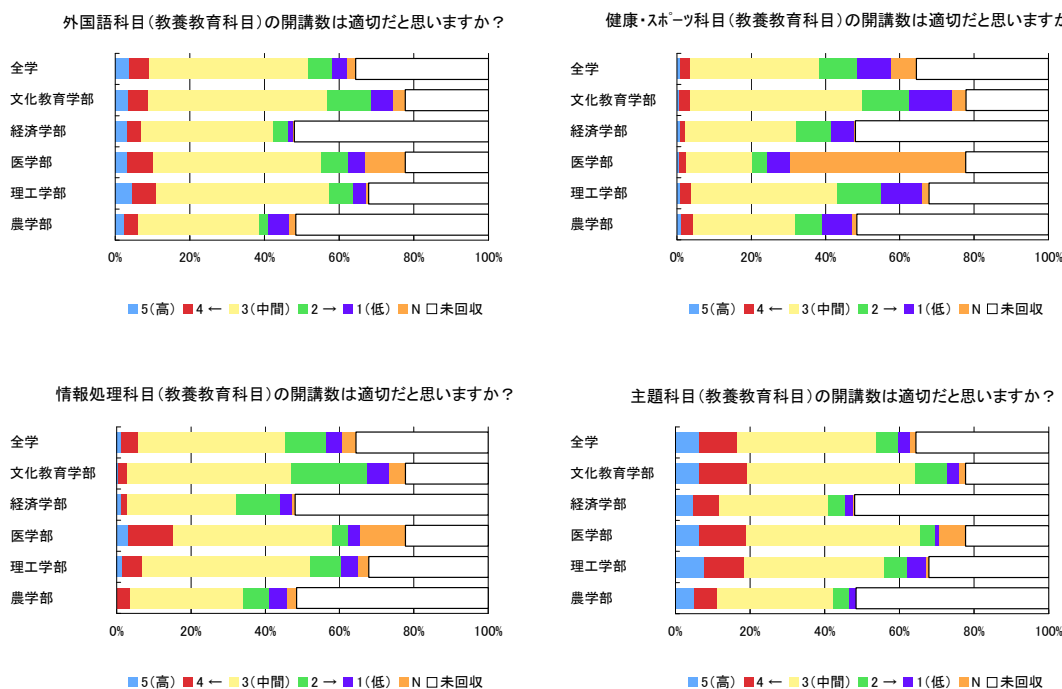


図 12 教養教育科目の開講数の適切性

「外国語科目(教養教育科目)の開講数は適切だと思いますか？」

全学的に適切だとする意見を持っている学生は 10%であり、適切でないとする意見は 10%強である。中間的な意見は 40%以上に達している。いずれの学部でも肯定的意見は 10%にとどまっており、文化教育学部、医学部、理工学部で否定的意見が多い。経済学部では否定的意見が最も少なく 10%以下であった。

総合的には肯定的意見が否定的意見を下回っており、外国語科目の数がやや少ないと感じている学生が多いことが分かる。

「健康・スポーツ科目(教養教育科目)の開講数は適切だと思いますか？」

全学的に肯定的意見を示す学生は 5%以下である。一方、否定的意見は 20%に達し、中立的意見が 35%強を占めている。いずれの学部でも肯定的な意見を持つ学生は 5%以下であり、否定的意見が多い。特に文化教育学部や理工学部では 20%を超える学生が否定的な意見を示している。医学部で特徴的なことは「分からない・該当しない」との意見が極めて多いことである。履修方法が異なるためにこのような結果が得られたのであろう。

図に明らかなように否定的な意見が肯定的意見を大きく上回る結果が得られ、

総合的に見て学生は健康・スポーツ科目の開講数を適切とは考えていないようである。

「情報処理科目(教養教育科目)の開講数は適切だと思いますか？」

全学的には 7%の学生が肯定的な回答をしているが、否定的な回答が多く 15%強に達している。学部別に見ると文系学部で肯定的意見が少なく、理系学部で肯定的意見が多くなる傾向が認められる。一方、否定的な意見は文系学部が多く、理系学部に少ない。この結果は文系学部の学生は情報処理科目の開講数を不適切と考えている場合が多く、理系学部の学生はその逆の傾向があることを示している。

一見矛盾したように見えるが、文系学部学生が不適切と考えることが、開講数が多すぎるとしたものか少なすぎるとしたものは明らかではない。もし、後者であるとすれば理数を苦手とする文系学生が不適切と回答したことも納得できる。

「主題科目(教養教育科目)の開講数は適切だと思いますか？」

主題科目の開講数は前項の各教養教育科目に比してかなり多い。全学的には 15%強の学生が肯定的意見を有し、10%弱が否定的意見を示している。中立的な意見は 40%弱を占める。いずれの学部でも肯定的意見は 20%を下回っており、文化教育学部や理工学部では否定的な意見も多く認められる。

現在、主題科目の履修は抽選によってなされており必ずしも学生の希望する主題科目が履修できるとは限らない。例年、多くの学生が履修を断られている状況が背景にあり、今回の結果が導かれたものと考えられる。

13)主題科目の選択

前述のように主題科目の履修は抽選で行われており、学生の希望が必ずしも通るとは限らない。実際にどの程度の割合で学生の希望が叶えられているのか否かについてアンケートを実施した。結果を図 13 に示す。

「教養教育科目の内、主題科目の選択は希望通りにいきましたか？」

全学的に見ると 40%弱の学生は主題科目の選択が希望通りにいったと回答している。希望通りにいかなかったとする学生は 25%であった。文化教育学部と医

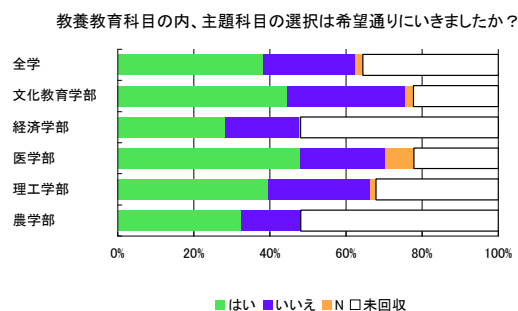


図 13 主題科目の選択希望

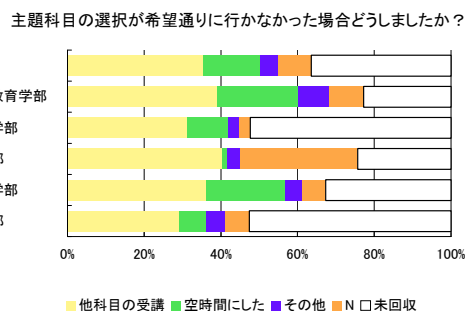


図 14 希望通りにいかない場合の対応

学部では 40%を超える学生が希望通りだったと回答している。理工学部では 40%であり，経済学部と農学部では 30%前後の学生が希望通りにいったとの回答を寄せている。

全体的に半数の学生が希望通りにいったと回答しているが，希望通りにいかなかった学生の割合も多く抜本的な改革が必要に感じられる。

14)希望通りにいかなかった場合の対応

前項の設問で主題科目の選択が希望通りにいかなかった場合，学生がどのように対処しているのかを探るためにこの設問を設定した。結果を図 14 に示す。

「主題科目の選択が希望通りに行かなかった場合どうしましたか？」

全学的には 35%以上の学生は他科目の受講を行っており，15%弱の学生が空き時間としている。「分からない・該当しない」と回答した学生も 10%弱いる。どの学部でも 30%を超える学生は他科目を受講しており，医学部を除いて空き時間にした学生が多いことが分かる。「その他」と回答した学生の具体的な対応については不明である。医学部では「分からない・該当しない」との意見が 30%を超えてる。

前項の設問と併せて考えると，希望通りにいかなかった学生もかなりいるが，実際は他の科目を受講している場合が多いと考えられる。今後さらなる追跡調査の必要があろう。

15) 最も望む外国語科目

英語以外で最も望む外国語科目を尋ねた。その結果を図 15 に示す。

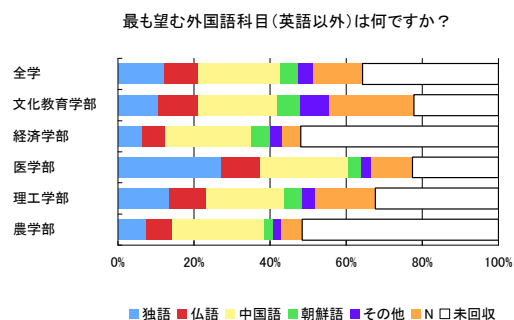


図 15 最も望む外国語科目

「最も望む外国語科目(英語以外)は何ですか？」

全学的には中国語を望む学生が最も多く 22%に達している。次いでドイツ語, フランス語, 朝鮮語となっている。学部毎に見るとこの順序は多少入れ替わる。医学部ではドイツ語が最も多く, 中国語, フランス語, 朝鮮語と続く。これは医学部特有の特徴であると考えられる。他の4学部は割合が異なるものの全学の傾向と同じである。

英語以外の外国語では中国語を希望する学生が多いことが分かる。本学ではアジアからの留学生も多く, その影響を少なからず被っているのかもしれない。

16)前項でその他と回答した学生に尋ねた具体的な外国語科目

最も望む外国語について尋ねた設問で「その他」と回答した学生が具体的にどのような外国語を希望するのかを尋ねた。この項目では回答した学生が極めて少ないためにグラフは作成していない。

「【15でその他と答えた方にお尋ねします。】具体的な外国語名をお答え下さい。」

イタリア語 19 名, スペイン語 10 名, ポルトガル語 5 名, 韓国語 2 名, アラビア語 2 名, フィリピン語 2 名, エスペラント語 1 名, タガログ語 1 名, ラテン語 1 名, ドイツ語, スワヒリ語 1 名, タイ語 1 名の回答が得られた。このうち韓国語とドイツ語は設問 15 の選択枝にある。最も多いのはイタリア語であるがそれでも 19 名が希望するに過ぎない。

17) 最も望むリメディアル教育科目

基礎学力が不足している学生を対象とする補習教育をリメディアル教育と呼

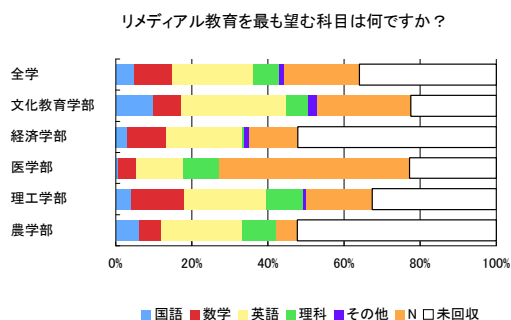


図 16 最も望むリメディアル教育科目

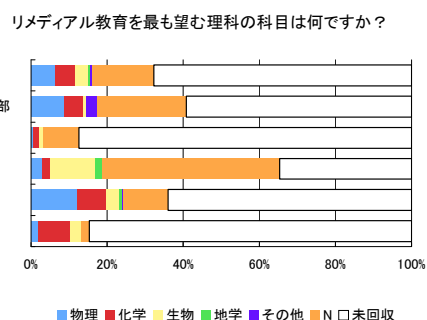


図 17 最も望むリメディアル教育理科科目

ぶ、本学でも数年前から取り組みが始まっている。ここでは主要科目の中で国語、数学、英語、理科について尋ねている。

「リメディアル教育を最も望む科目は何ですか？」

全学的には英語を望む学生が最も多く、20%強に達する。次に数学、理科、国語と続いている。その一方で「分からない・該当しない」との回答は20%に上っている。学部によって若干異なる結果が得られている。すべての学部で英語を希望する学生が多いが、文化教育学部では国語、数学、英語の順に少なくなる。経済学部は数学が第二位で、国語が第三位、理科を望む学生はほとんどいない。医学部は理科が第二位、次に数学が多く、国語を望む学生はわずかである。しかし、「分からない・該当しない」と回答した学生が50%に達しており、リメディアル教育に対する関心が低い。理工学部では数学、理科、国語の順に少なくなる。農学部は理科、国語、数学の順に少なくなる。

総合的に見るといずれの学部でも英語を希望する学生の割合が多く、全学的に英語教育の充実が必須であると考えられる。次に望まれるリメディアル教育科目は各学部の実情に沿って検討する必要がある。

18) 最も望むリメディアル教育理科科目

近年の学生は特に理数離れが深刻となっているので、リメディアル教育の中でも特に理科科目について詳しく尋ねてみた。結果を図17に示す。この項目では希望する学生のみが回答したものであり、回答数が少なく見かけ上未回収分

の割合が増加したように見える。

「リメディアル教育を最も望む理科の科目は何ですか？」

全学的には物理を望む学生が最も多い。次いで化学，生物と続き，地学を望む学生は極わずかである。この項目も学部によって特徴が見られ，文化教育学部では物理，化学，生物の順に希望しており，地学を希望する学生はひとりもいなかった。経済学部では有効回答数自体が 7%しかなく，回答に意義を見いだせない。医学部では生物が最も多く，次に物理，化学，地学と続いている。理工学部では物理を希望する学生が多く，12%に達する。次いで化学，生物，地学と続いている。農学部は化学が最も多く，生物，物理と続き，地学はひとりも希望していない。

全体的な結果からは物理を望む学生が多く，全学的な取り組みが必要かもしれない。ただし，学部によって必要とする分野が異なるために各学部・学科においてもリメディアル教育の充実を図る必要があろう。

19) 具体的に希望するリメディアル教育の科目

項目 17 では主要 4 科目についてのみリメディアル教育の希望を尋ねているが，その他を選んだ学生も少なくない。そこで，その他を選んだ場合，希望する具体的な科目名を尋ねた。なお，この項目では回答数が少ないのでグラフ作成はしていない。

「【17 でその他と答えた方にお尋ねします。】具体的な科目名をお答え下さい。」

社会科 5 名，世界史 1 名，簿記 1 名，専門必修科目 1 名，パソコン 2 名，宇宙について 1 名の回答があった。世界史は社会科に含まれると考えられるので社会科を 6 名としても良いのかもしれない。宇宙については地学であり，パソコンは情報科に含まれるべきものであろう。

回答した学生数が余りにも少ないため，明らかなことは言えないが，社会科や情報科の科目についてのリメディアル教育を希望する学生が居ることがわかった。ただし，希望者が少ないため今後の対応については検討の必要があろう。

2. 大学院修士課程・博士前期課程

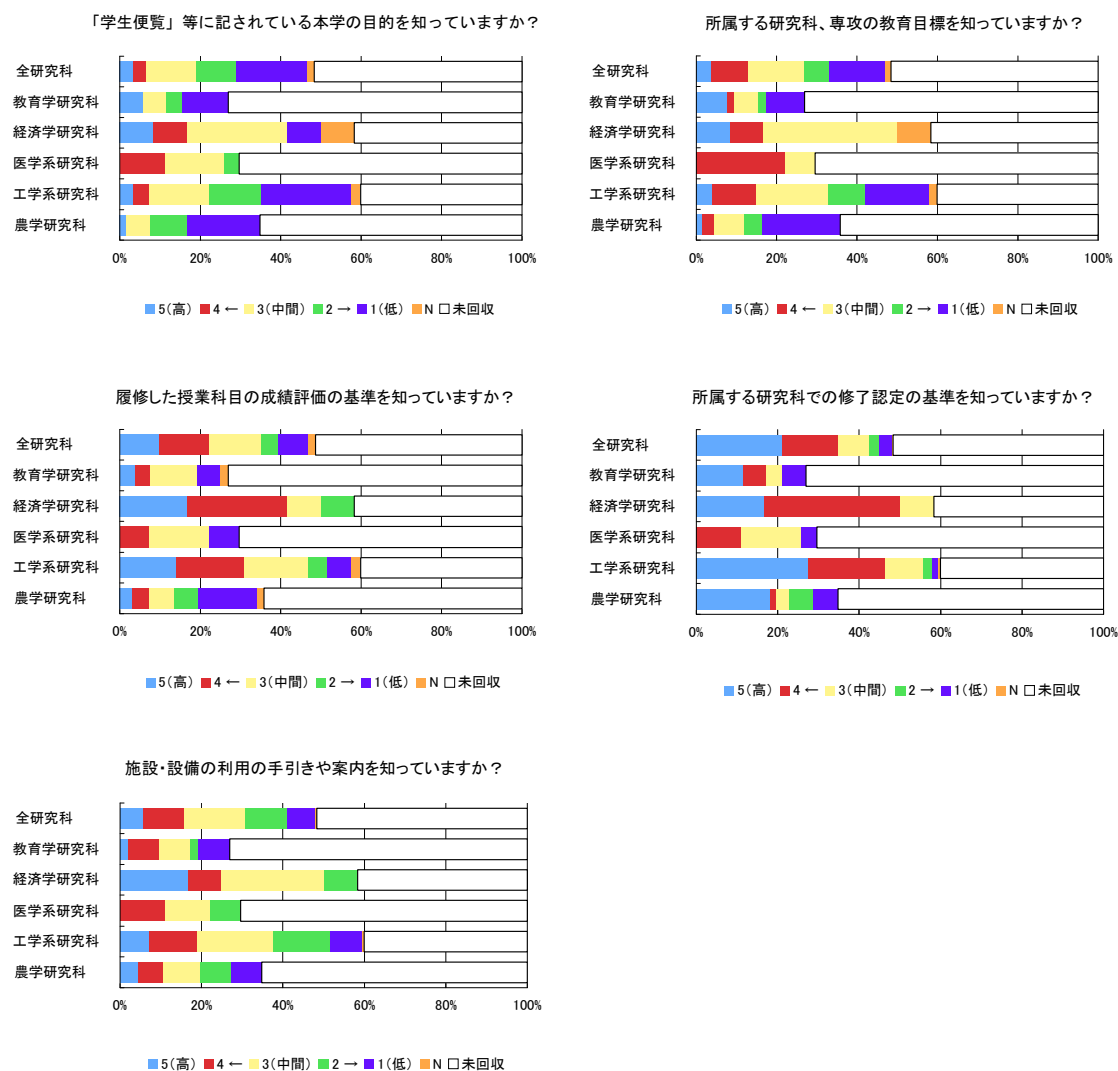


図 18 教育目標，成績基準，制度などに関する周知度

1) 周知度

図 18 に教育目標，成績基準，制度などに関する院生の周知度を示す。この設問では学部学生の場合と同じく，周知すべき内容として，本学の目的・教育目標・成績評価基準・修了認定基準・施設や設備の案内を設定した。ただし，大学院ではオフィスアワーを実施していないので，その項目は省かれている。

ここでも，便宜的に3を中立的回答と判断し，5もしくは4の回答は周知度が高い群，2もしくは1は周知度が低い群と解釈する。

「学生便覧に等に記されている本学の目的を知っていますか？」

全研究科データをみると周知度が高い群は 10%以下であり、周知度が低い群は 30% 近くに上る。このことから、学部学生の場合と同様に、院生に大学の目的を周知させる取り組みが足りなかったことがわかる。特に教育学研究科・工学系研究科・農学研究科では周知度が低い群の占める割合が周知度が高い群のそれを上回っている。経済学研究科と医学系研究科は周知度が高い群が低い群の割合よりも多くなっている。

学部学生の場合と同様に、大学院生にも本学の目標の周知度は極めて低く、今後の取り組みが極めて重要である。

「所属する学部、課程・学科の教育目標を知っていますか？」

大学の目標の周知度に比して、研究科、専攻の教育目標に対する周知度はやや高く、周知度が高い群は 12%を示している。この傾向が学部学生でも認められた共通の特徴である。医学系研究科や経済学研究科では否定的な意見はひとりもない。工学系研究科と農学研究科は周知度が低い群の占める割合が周知度が高い群のそれを上回っている。

全研究科を通して研究科、専攻の教育目標の周知度は高いとは言えない。今後は各研究科、専攻で教育目標を定め、周知する必要がある。

「履修した授業科目の成績評価の基準を知っていますか？」

成績評価の基準については周知度の高い群が 20%を超えており、周知度の低い群の割合を上回っている。経済学研究科と工学系研究科は周知度の高い群の割合が 30%に達している。教育学研究科・医学系研究科・農学研究科では周知している院生の割合が 10%以下となっている。学部学生の解説でも述べたが、この項目では「分からない・該当しない」とした回答数が少ないことが特徴となっている。

成績評価基準については他の項目に比べると周知度は高い。シラバスや授業で繰り返し説明を行うなどして成績基準の周知度を上昇させることが必要である。

「所属する研究科での修了認定の基準について知っていますか？」

この項目は他の項目に比して周知していると回答した院生の割合が高い。全研究科の 30%以上が修了認定基準を知っていると答えている。学部学生と同様に大学院生も修了に高い関心を寄せていることを物語っている。特に経済学研究科と工学系研究科で修了認定の基準についての周知度が高く、50%近くの院生が周知している。「分

からない・該当しない」とした回答数が極めて少なく、理工学研究科で1名のみであった。

対象が2年次院生であることから、修了認定基準への関心は高いと推定される。しかし、認知度の低い院生もいることから徹底した指導が必要であろう。

「施設・設備の利用の手引きや案内を知っていますか？」

学内にある各種の施設・設備の案内に関する周知度を尋ねた項目であるが、全研究科を通して周知していると回答した院生は15%強である。一方、周知できていない院生も同程度いる。「分からない・該当しない」とした回答数が極めて少なく、理工学研究科で認められるだけであった。

大学院生は在籍年数が多いために「分からない・該当しない」との回答が少なかったと考えられる。しかし、周知度の低い院生が少なからず認められることから、施設側でも手引きや案内をホームページやパンフレット等で整備する必要があるだろう。

2) 入学時、進学時のガイダンスによる学習目標・履修方法の理解度

図19に入学時、進学時のガイダンス時に説明した内容についての理解度を示した。この項目では本学で何を学修するかと授業科目をどう履修したらよいかの2点についての理解度を尋ねており、前述の周知度と同様に、3を中間的回答とみなし、5もしくは4の回答は理解できている群、2もしくは1の回答は理解できていない群として回答傾向を解釈する。

「入学時、進学時のガイダンスによって本学で何を学修するか理解できましたか？」

この項目では本学での学修目標について理解できたか否かを尋ねたものである。全研究科を通して、理解できている群が30%に達している。一方、理解できていない群の回答は10%以下である。これらのデータから入学時・進学時のガイダンスにおいて院生の多くは学修目標をある程度理解できていると推定される。経済学研究科では理解していると回答した院生が40%を超え、工学系研究科でも35%に達している。さらに、経済学研究科と医学系研究科では低い理解度を示す院生は認められない。

通常大学院生は学部生活を経ている為、学修目標を理解している院生の割合が多いようである。ただし、他大学から入学してきた院生もいると考えられ、本学の学修目標を全院生に理解させるためにはさらなる取り組みが必要に思われる。

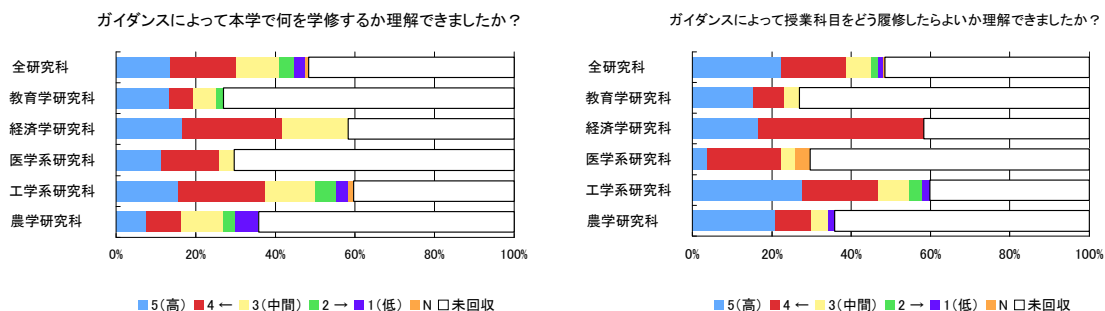


図 19 入学時，進学時のガイダンスによる学習目標・履修方法の理解度

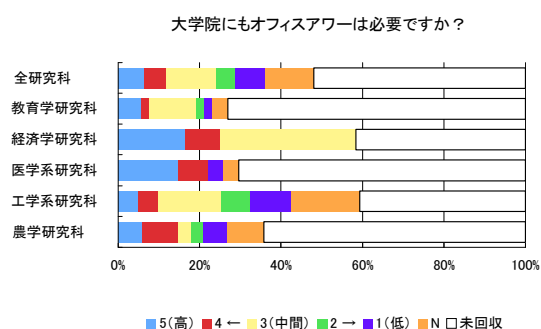


図 20 大学院でのオフィスアワーの必要性

「入学時，進学時のガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいか理解できましたか？」

全研究科でみると履修方法について理解できている群の割合は 38%に達している。特に経済学研究科では理解している群が 58%と極めて高い。教育学研究科と医学系研究科では理解が低い群は認められない。

各研究科では高い専門性をもった様々な授業科目が開講されており，難易度に多少の差異があると考えられる。中間的な意見や理解できていないとする意見が僅かではあるが認められることから，さらなる取り組みが必要であろう。

3) 大学院でのオフィスアワーの必要性

本学では学部学生のためにオフィスアワー制度を設けている。大学院の場合，はじめから研究室への配属が想定されるのでオフィスアワー制度は設定されていないが，指導教員以外に相談したい場合も想定されることから，実際に必要性を院生に尋ねてみた。ここでも 3 を中間的として，5 もしくは 4 を必要だと

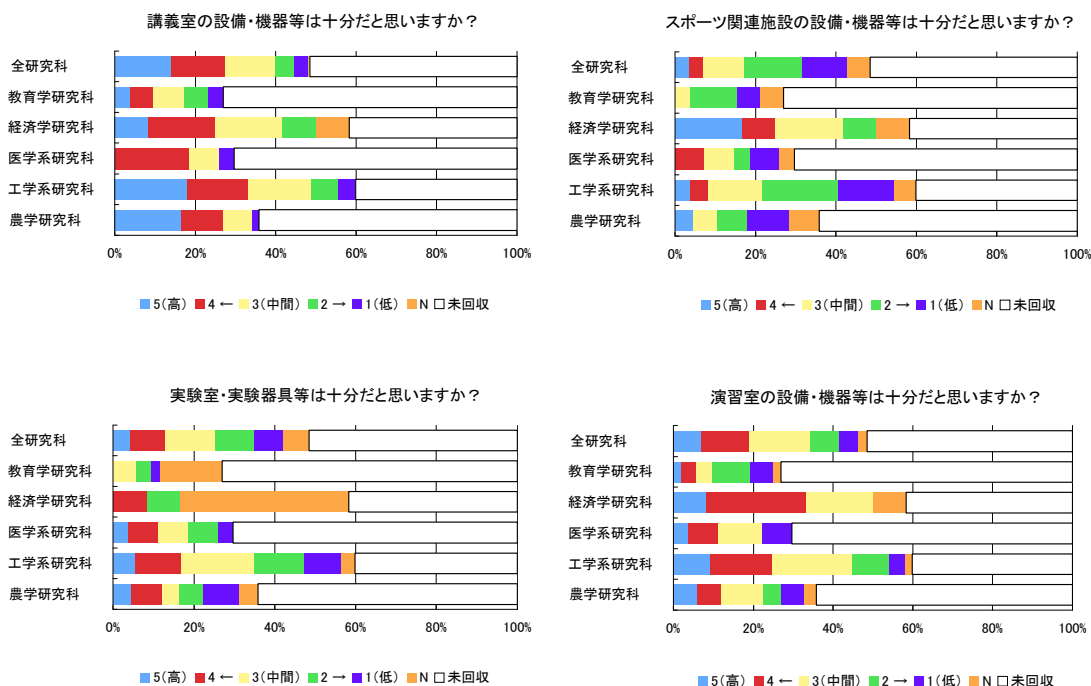


図 21 教育施設, 設備, 機器等の充足度

思っている群, 2 もしくは 1 を必要と思っていない群として解析を進める。

「大学院にもオフィスアワーは必要ですか？」

図 20 を見ると, 全研究科の 10%強の院生が必要であるとしている。しかし, 必要と思っていない群も同程度認められる。経済学研究科は必要でないと回答した院生は認められず, 必要と思っている群の割合が 25%に達している。医学系研究科は肯定的意見が 20%を超え, 中間的意見が無いことが特徴である。教育学研究科と工学系研究科は必要と思っている院生の割合が 10%程度であった。

研究室配属後であるのでオフィスアワーの必要性はないと考えていたが, 予想外に必要と思う院生が多く, 今後検討していく必要があろう。

4) 教育施設, 設備, 機器等の充足度

図 21 に教育施設, 設備, 機器等についての充足度を示した。対象が大学院生であるので, 講義室の設備, スポーツ関連施設, 実験室・実験器具および演習室の設備について尋ねた。ここでもやはり, 3の回答を中間とし, 5もしくは4を十分だと思っている群, 2もしくは1を十分だと思っていない群とみなして回答傾向を解釈する。

「講義室の設備・機器等は十分だと思いますか？」

全研究科を通して 30%近くが講義室の設備・機器等は十分だと思っており、十分だと思っていない群を上回っている。工学系研究科，農学研究科，経済学研究科では十分だと思っている群が 20%を超えている。教育学研究科では十分だと思っている群が 10%程度である。

学部学生と場合と同様に肯定的な意見は決して多いとは言えず，今後さらに設備投資が必要に思われる。

「スポーツ関連の設備・機器等は十分だと思いますか？」

この項目では体育館やプールなどスポーツ関連設備の充実について尋ねたものである。全研究科を通して十分だと思っている群は 10%程度であり，本学のスポーツ施設が十分だと思われていない傾向が明らかである。教育学研究科では十分だと思っている院生は認められない。

院生になるとスポーツ関連の施設・設備を利用する機会が少なくなり，関心も少なくなっている可能性がある。しかしながら，学部教育での需要が大きいことから，改善の方向で検討すべきであろう。

「実験室・実験器具等は十分だと思いますか？」

全研究科の 15%弱の院生が十分だと思っている。教育学研究科では十分だと思っている群は認められない。経済学研究科と教育学研究科では文系であるためか「分からない・該当しない」と回答した数が多い。工学系研究科，農学研究科，医学系研究科では十分だと思っている群の割合が 20%を下回り，十分だと思っていない群の割合が多い。

実験室・実験器具等については研究科全体を通して十分だと感じている院生が少なく，今後早急な対応が必要である。

「演習室の施設・設備等は十分だと思いますか？」

全研究科では 20%弱の院生が十分だと思っている。経済学研究科では十分だと思っている群が多く 30%を超えている。工学系研究科では 25%の院生が十分に感じている。医学系研究科，農学研究科，教育学研究科では十分だと思っている群が 15%を下回っている。

演習室については各研究科の専門性によってばらつきが認められる。それぞれの特

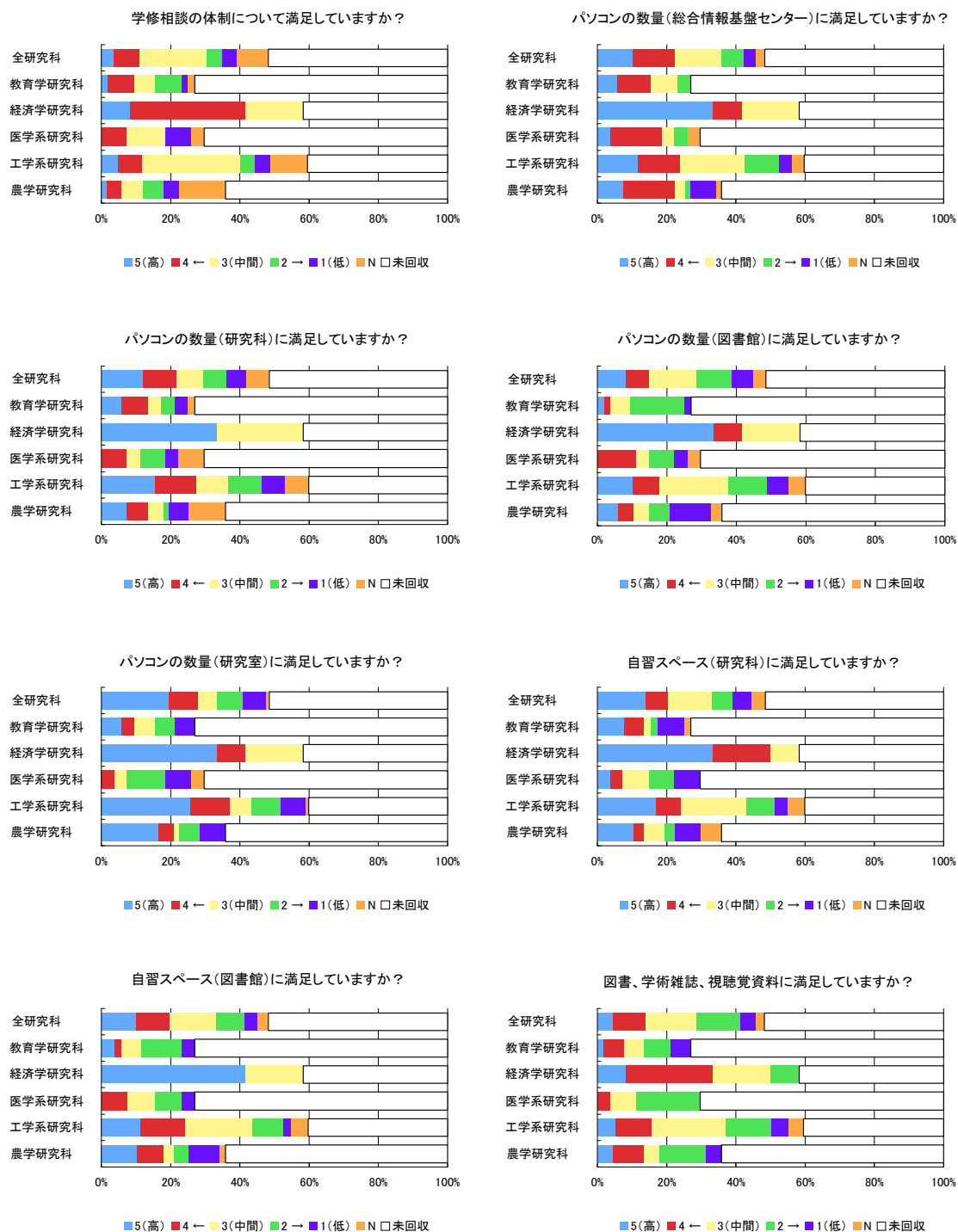


図 22 教育体制全般に対する満足度(その1)

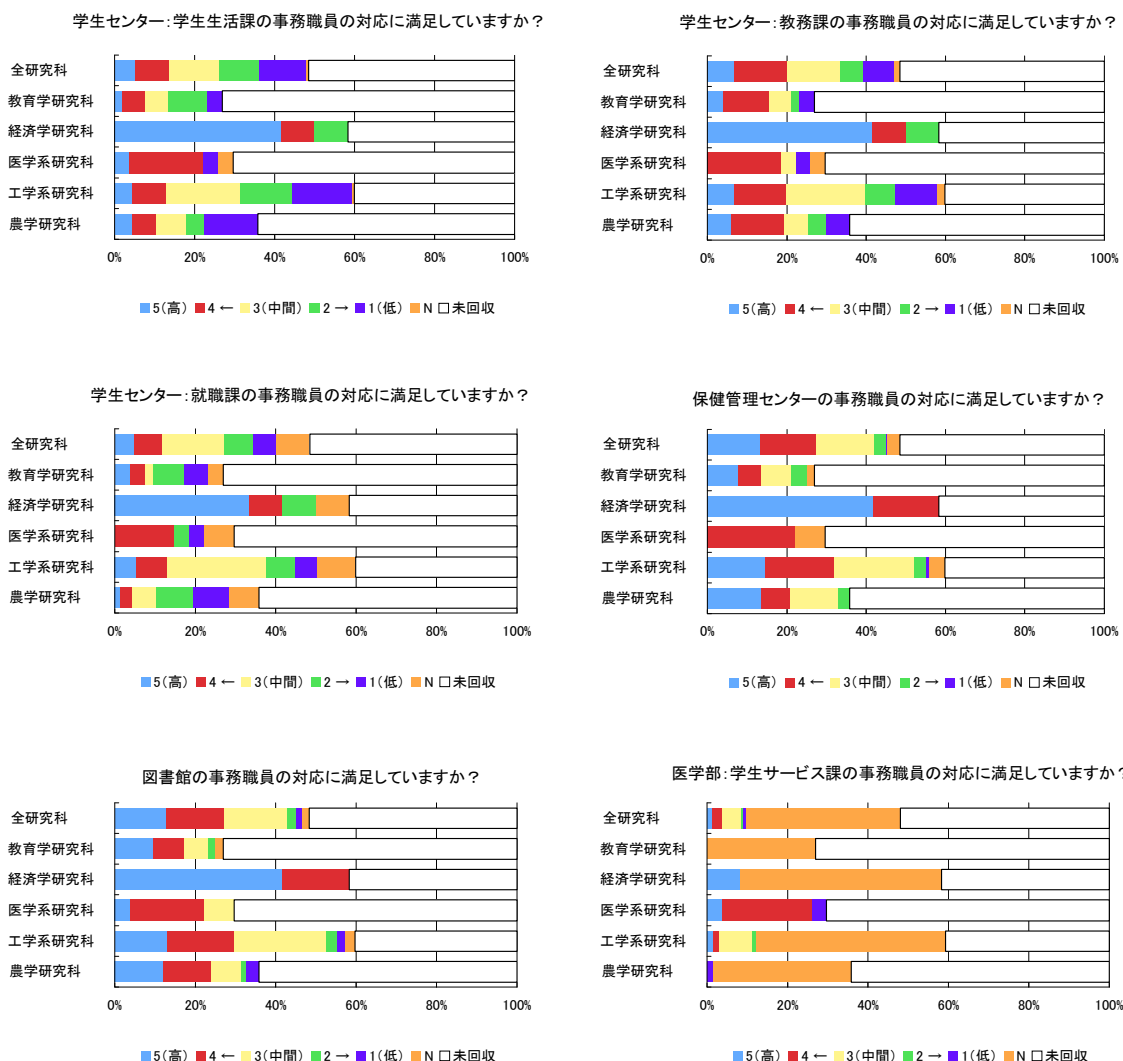


図 22 教育体制全般に対する満足度(その2)

性を十分考慮した上で対処する必要がある。

5)教育体制全般に対する満足度

図 22 に教育体制全般に対する満足度を示した。この項目では相談体制、パソコンの数量、自習スペース、図書・視聴覚資料、事務職員の対応等について尋ねている。なお、回答傾向の解釈は3を中間と見なして行う。

「学修相談の体制について満足していますか？」

全研究科で見ると満足している群は 10%強であった。満足していない群は 10%弱であ

る。「分からない・該当しない」との意見も 10%ほど認められる。経済学研究科では 40%以上の院生が満足していると回答している。他の研究科では満足しているとの回答は 10%ほどにとどまっている。

研究科においては指導教員が学修相談を行うものと考えられるが、それに満足している院生が少ないことが注目される。

「パソコンの数量(総合情報基盤センター)に満足していますか？」

全研究科を通してみると、満足しているとする群が 20%強を占め、満足していないとする群を上回っている。経済学研究科は満足しているとする群の割合が 40%を超えている。工学系研究科と農学研究科は肯定的意見が 20%を超えている。医学系研究科と教育学研究科では満足している群の割合が 10%を下回っているが、満足していないとする群の割合よりも多い。工学系研究科と農学研究科では他の研究科よりも否定的意見がやや多い。

「パソコンの数量(研究科)に満足していますか？」

この項目は研究科におけるパソコン数の満足度に関するものである。全研究科では 20%強が満足している。経済学研究科では満足している院生か中間的意見をもつ院生しか認められない。工学系研究科は否定的意見が多いものの、満足している群が 30%認められる。

研究科には学部に比べてパソコンの数に満足している群が多い。しかしながら、満足していない群も少なくないので、パソコンの設置状況などを調査して、改善していくことが望まれる。

「パソコンの数量(図書館)に満足していますか？」

全研究科では満足している群が 15%強を占めており、満足していない群の割合がやや上回っている。経済学研究科では満足度が高く、40%を超えている。教育学研究科では満足とする院生は 10%を下回っており、不満とする意見は 15%を超えている。

図書館は全学的に利用される施設であり、院生の多くも利用していると考えられる。専門分野によっても図書館の利用率が異なっているので、今後各状況を把握した上で検討を進める必要があろう。

「パソコンの数量(研究室)に満足していますか？」

本項目では各研究室のパソコンの数を尋ねたものである。満足している群の割合が30%に達している。不満とする群は10%程度であった。経済学研究科は満足している群が40%を超えており、不満とする意見は認められない。医学系研究科では満足としている学生の割合が少なく、満足していないとする群が多い。

研究室のパソコンについても定期的な調査を行って数を把握しておく必要があり、その後改善計画を立てていくべきであろう。

「自習スペース(研究科)に満足していますか？」

全研究科では20%前後の院生が満足していると回答しており、学生のそれを上回っている。大学院ではすでに研究室に配属されているため、満足していない院生が少ないのかもしれない。経済学研究科では満足している群の割合が50%を超えている。医学系研究科では満足している群の割合が10%程度であり、満足していない群を上回っている。

研究室の配属が決まっているためか自習スペースに対しては満足しているとする意見が多い。しかし、不満を示す院生も少なくないことから今後改善を進める必要があるだろう。

「自習スペース(図書館)に満足していますか？」

研究科全体を通して20%が満足を示しており、不満とする院生は10%弱である。経済学研究科は高い満足度を示しており、40%を超える院生が肯定的意見を示している。工学系研究科は満足しているとする群の割合が20%を超えている。教育学研究科では肯定的意見は10%に満たない。

図書館は全学的施設であり、院生が利用する場合も多い。自習スペースを拡張することは容易にはできないが、各研究科の自習スペースとのバランスを考慮して整備を進める必要があるだろう。

「図書、学術雑誌、視聴覚資料に満足していますか？」

全研究科を通して15%程度が満足していると回答があり、18%ほどのが不満と回答している。経済学研究科では満足している群が30%を超えている。他の研究科はすべて、満足しているとの回答が20%を下回っている。

各専門分野によって具体的にどのような図書・学術雑誌・視聴覚資料が必要である

のかを調査する必要がある。その結果を受けて整備していかなければならない。

「学生センター：学生生活課の事務職員の対応に満足していますか？」

この項目は本学の事務職員の対応について大学院生が満足しているか否かについて尋ねたものである。全研究科を通して、満足している群の割合が 15%を占める。経済学研究科では肯定的意見が 50%を超えている。医学系研究科では満足しているとの意見は 20%を超えている。教育学研究科、工学系研究科、農学研究科ではいずれも満足している群の割合は 15%以下であった。

具体的にどのような対応が不満であるのか、このアンケートから読み取ることはできない。

「学生センター：教務課の事務職員の対応に満足していますか？」

全研究科では 20%の学生が満足していると回答している。不満を感じている院生は 10%強である。経済学研究科では 50%の院生が肯定的な回答をしている。他の研究科はすべて、満足している群の割合が 20%以下であった。

この項目についても具体的にどのような対応に不満を抱いているのか明らかにはできない。事務職員へのアンケートとあわせて検討する必要があるだろう。

「学生センター：就職課の事務職員の対応に満足していますか？」

就職課職員の対応に対しては全学の 10%強の院生が肯定的な意見をもっている。否定的な意見は 15%であるが、「分からない・該当しない」の割合も 10%弱認められる。経済学研究科では肯定的意見が多く 40%に達している。しかし、一方で「分からない・該当しない」の割合も 10%近く認められる。他の研究科は共に満足している群の割合が 20%を下回っている。

大学院修士課程の2年次が対象となっていることから、就職課の事務職員と接する機会は多いと考えられるが、「分からない・該当しない」と回答した院生も多く、就職課の事務職員と接する機会があまり無いのかもしれない。対応に不満をもっている院生の割合は無視できるものではないので、さらに調査を進めて改善する必要があるだろう。

「保健管理センターの事務職員の対応に満足していますか？」

保健管理センターの事務職員の対応については肯定的意見の割合が多く、全研究

科の30%近くが満足しているようである。これは学部で認められた傾向と同じである。満足していない群の割合は5%前後であり、中間的な意見は20%程度を示している。経済学研究科では回答者のすべてが肯定的意見を示して、医学系研究科も肯定的意見が大きく、20%を上回っている。

保健管理センターの事務職員に対する満足度では、学部学生と同様に大学院生も相対的に高い満足度を示しており、不満度はかなり低いと判断される。

「図書館の事務職員の対応に満足していますか？」

図書館の事務職員については満足している群の割合が30%に達している。不満度は10%を下回っており中間的意見が20%を占める。経済学研究科はこの項目でもすべての回答者が満足を示している。満足度が20%を下回るのは教育学研究科のみであり、他の研究科は満足している群が20%を超えている。

「分からない・該当しない」の割合は比較的少なく、図書館の事務職員と接する機会が多いようである。不満を示す院生が僅かに認められることから、対応について考える必要があるかもしれない。

「医学部：学生サービス課の事務職員の対応に満足していますか？」

この項目は医学部にある学生サービス課の事務職員の対応について尋ねたものである。学部学生の場合と同様、医学系研究科以外では「分からない・該当しない」が大多数を示しており、全研究科を通しての傾向にはあまり意義を見いだせない。医学系研究科では30%弱の院生が満足を示しているが、不満に感じている院生も5%程度存在する。

具体的にどのような対応が不満度を上げているのかを調査して改善に結びつける努力が必要に思われる。

6) 授業科目に対する満足度

図23に授業科目に対する満足度を示した。この項目では専門教育科目について満足度を尋ねている。3を中間的回答とみなし、5もしくは4の回答は満足してる群、2もしくは1の回答は満足していない群として回答傾向を解釈する。

「専門必修科目の授業について満足していますか？」

全研究科を通して25%強の院生が満足であると回答しているが、不満も10%ほど認

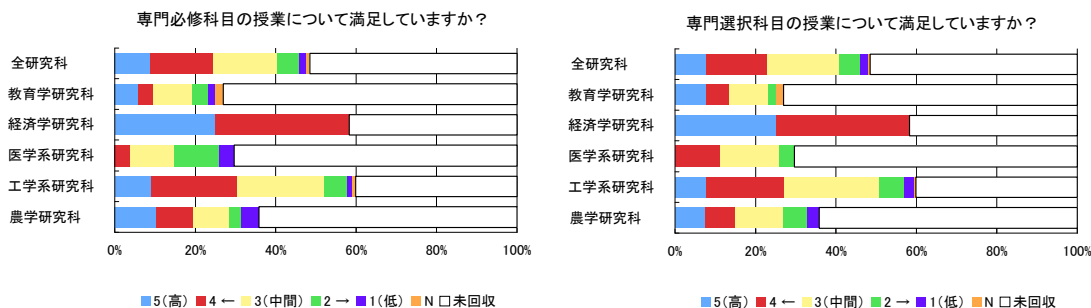


図 23 授業科目に対する満足度

められる。学生の回答と同じく、この項目では「分からない・該当しない」との意見が極めて少ないという特徴がある。必修科目であるのですべての院生が履修しているためであろう。経済学研究科は回答したすべての院生が満足していると回答した。工学系研究科では 30%が満足していると回答し、10%ほどが満足していないと回答している。教育学研究科や医学系研究科では満足している群は 10%以下でしかない。

専門必修科目は大学院教育でも重要な位置を占める。そのため高い満足度を有していなければならない。アンケート結果を見ると経済学研究科を除いて必ずしも、そうなるはおらずカリキュラム全体の見直しを含めた抜本的な改革が必要だろう。

「専門選択科目の授業について満足していますか？」

専門必修科目と同じく、全研究科を通して 20%強の院生が満足であると回答している。この項目でも経済学研究科では、回答したすべての院生が満足であると回答している。工学系研究科は 30%弱の院生が満足であるとしており、教育学研究科、農学研究科、医学系研究科では満足している群の割合は 15%以下であった。

専門選択科目は専門必修科目に準じた重要な科目であり、本来高い満足度を期待していたが、実際には満足度は高くない。今後の取り組みが重要となるだろう。

7) シラバスの有効性について

図 24 にシラバスが大学院専門科目選択の参考になったか否かというシラバスの有効性について得られた結果を示す。なお、前項と同様に3を中間的回答、5および4を参考にした群、2および1を参考にしなかった群とみなしてデータを解釈していくことにする。

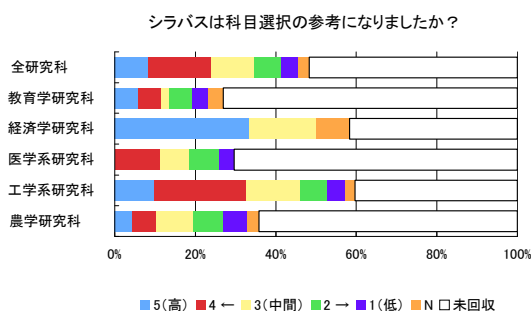


図 24 シラバスの有効性

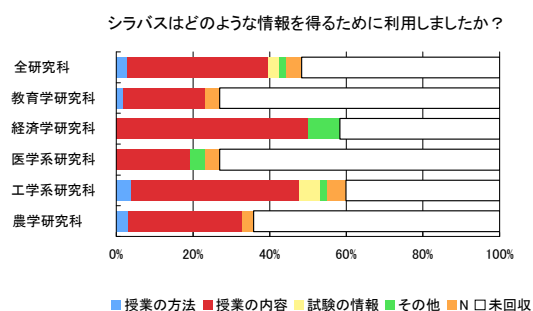


図 25 シラバスからの情報

「シラバスは科目選択の参考になりましたか？」

全研究科を通して、参考にした群の割合は 25%弱であり、参考にしていない群のそれを上回っている。経済学研究科では 30%を超える院生が参考にしたと回答しており、参考にしていない院生は認められない。工学系研究科でも 30%を超える院生が参考にしたと答えている。教育学研究科、医学系研究科、農学研究科では参考にしたと回答した院生の割合は 10%強である。

学部の授業科目に比べて研究科の授業科目ではオンラインシラバスの整備が遅れている。シラバスを有効利用するには教員側がきちんと準備する必要がある、それによってこの項目の回答も大きく改善されると考えられる。

8) シラバスからの情報

シラバスを充実させる目的で具体的にどのような情報源としてシラバスを利用したのかを尋ねた。結果を図 25 に示す。

「シラバスはどのような情報を得るために利用しましたか？」

全研究科を通して最も多い回答は授業内容についてであり、その割合は 40%に達する。授業方法について回答者がいるのは教育学研究科と工学系研究科、農学研究科である。試験情報のために利用したとする院生は工学系研究科のみに認められる。

結果を見る限り、大学院生は学部学生と同じく、授業の内容を確認するためにシラバスを参考に行っていることが明らかである。授業方法や試験情報についても僅かではあるが回答者がいる。今回得られた結果を参考に今後オンラインシラバスの充実に結びつけるべきであろう。

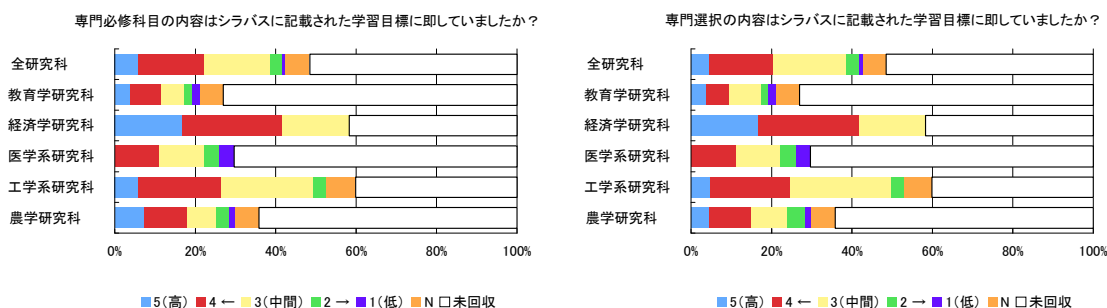


図 26 授業内容はシラバスに記載された学習目標に即しているか

9) 授業内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか

シラバスの利用内容については把握できたが、実際に必要な情報がシラバスに記載されているかどうかを尋ねてみた。結果を図 26 に示す。データの解釈に当たり、やはり 3 を中間とし、5 および 4 を即している群、2 および 1 を即していない群と見なす。

「専門必修科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」

全研究科を通して見ると、即していたとする群が 20%強に達している。経済学研究科では学修目標に即していたとする院生が 40%を超えており、否定的な意見はひとりもいなかった。工学系研究科は 25%に達し、否定的な回答は 5%以下であった。農学研究科でやや多いものの教育学研究科、医学系研究科では即していたとする群が 20%を下回っている。

5人にひとりには肯定的な考えを示していることから、専門必修科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していたと考えられる。

「専門選択科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」

全研究科を通して即していたとする学生の割合が 20%に達しており、即していないとする群は 5%以下であった。すなわち、この項目も専門必修科目とほぼ同じ傾向を示している。工学系研究科では肯定的な意見が 25%に達し、否定的な意見は 5%以下と極めて少ない。

全体的にシラバスの内容が学修目標に即していたと判断される。しかしながら、一部の研究科では相対的に低い評価が得られているのでシラバスの学習内容の見直しが必要であろう。

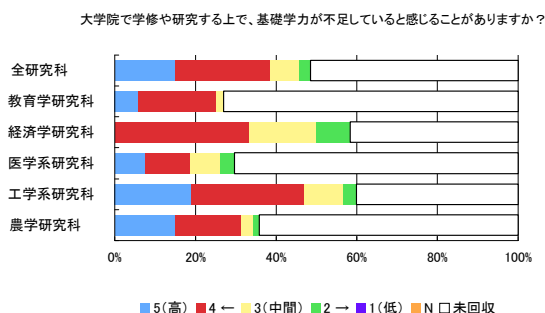


図 27 大学院での基礎学力

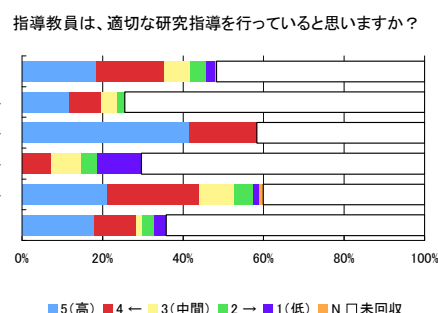


図 28 教員の指導について

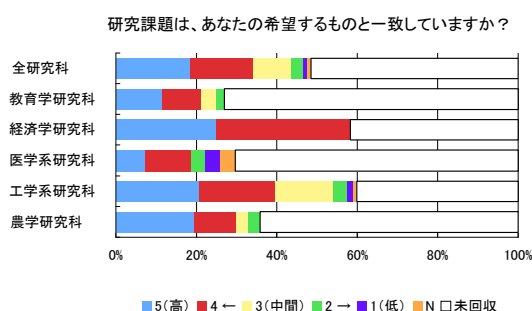


図 29 研究課題について

10) 大学院での基礎学力

この項目で大学院での研究活動に際して基礎学力が十分であるかどうかを尋ねたものである。結果を図 27 に示す。ここでも 3 を中間的な値とし、5 もしくは 4 を基礎学力が不足であると感じる群、2 もしくは 1 は感じていない群として解析している。

「大学院で学修や研究する上で、基礎学力が不足していると感じることがありますか？」

全研究科を通して、自分の基礎学力が不足していると感じたことがあるとする意見は 38%に達し、感じていないとする意見は 5%以下であった。医学系研究科では不足していると感じた群は 20%以下で、感じていない群の 5%を大きく上回っている。工学系研究科では 45%を超える院生が基礎学力の不足を感じており、次いで経済学研究科や農学研究科で 30%強の院生がそのように回答している。

全研究科を通して自分の学力不足を感じている学生が多くいることが明らかとなった。この結果を受けて各研究科での専門教育について再検討する必要があるだろう。

11)教員の指導について

大学院では進学時に指導教員と相談し、研究テーマを設定する場合が多い。指導教員が研究計画を立てるため、適切な研究指導を行っていることが当然と考えられる。この項目では院生に教員の研究指導が適切であるかどうかを尋ねたものである。結果を図 28 に示す。ここでも 3 を中間として、5 もしくは 4 を行っていると思っている群、2 もしくは 1 を思っていない群として処理する。

「指導教員は、適切な研究指導を行っていると思いますか？」

結果を見ると 37%の院生が教員の研究指導が適切であると回答している。特に経済学研究科では回答した院生のすべてが適切であると考えている。工学系研究科でも肯定的な意見が 40%を占め、農学研究科で 30%，教育学研究科で 20%弱に達している。医学系研究科では肯定的意見は 10%程度にとどまっており、そう思っていない院生の割合がそれを上回っている。

全体的に教員は適切な指導を行っていると考えられるが、適切と思っていない院生も少なくない。今後は複数教員での指導など新しい取り組みが必要に思われる。

12)研究課題について

本項目では研究課題について尋ねたものである。本来、研究を希望して進学を決めたはずであるので、研究課題についての意識は高いものと考えられる。結果を図 29 に示す。ここでも 3 を中間として、5 もしくは 4 を希望するものと一致している群、2 もしくは 1 を一致していない群として解析する。

「研究課題は、あなたの希望するものと一致していますか？」

研究科全体では研究課題が希望するものと一致するとの意見は 30%を超える。経済学研究科では回答した院生すべてが一致しているとしている。工学系研究科で 40%弱、農学研究科で 30%，教育学研究科と医学系研究科で 20%前後の院生が希望するものと一致していると答えている。

先に述べたように研究課題は大学院入学時に決めておく場合が多いので、希望したものと一致するとの回答が多い。僅かではあるが希望したものと一致していないとの回答が認められる。今後は研究課題の変更についても柔軟的な対応が望まれよう。

3. 博士後期課程

本学では博士後期課程として医学系研究科と工学系研究科が設置されている。両研究科をあわせてアンケートの回収数は31枚である。表1に示したように在籍数は81名であり、回収率は38.2%であった。

1) 周知度

図30に教育目標、成績基準、制度などに関する院生の周知度を示す。この設問では周知すべき内容として、本学の目的・教育目標・成績評価基準・修了認定基準・施設や設備の案内が設定されている。

ここでも、便宜的に3を中立的回答と判断し、5もしくは4の回答は周知度が高い群、2もしくは1は周知度が低い群と解釈する。

「学生便覧に等に記されている本学の目的を知っていますか？」

両研究科データをみると周知度が高い群は15%に達する。周知度が低い群は15%近くに上る。工学系研究科では周知度が高い群が周知度が低い群の割合をやや上回っている。

博士後期課程の大学院生であっても本学の目標の周知率は極めて低く、今後の取り組みが極めて重要である。

「所属する学部、課程・学科の教育目標を知っていますか？」

大学の目標の周知度に比して、研究科、専攻の教育目標に対する周知度はやや高く、周知度が高い群は18%を示している。医学系研究科では周知度が高い群が周知度が低い群の割合よりもやや高い。工学系研究科では周知度が高い群の割合が20%を上回っており、周知度が低い群の割合は10%以下であった。

両研究科を通して研究科、専攻の教育目標の周知度は決して高くない。今後は各研究科、専攻で教育目標を定め、周知に向けた取り組みが必要である。

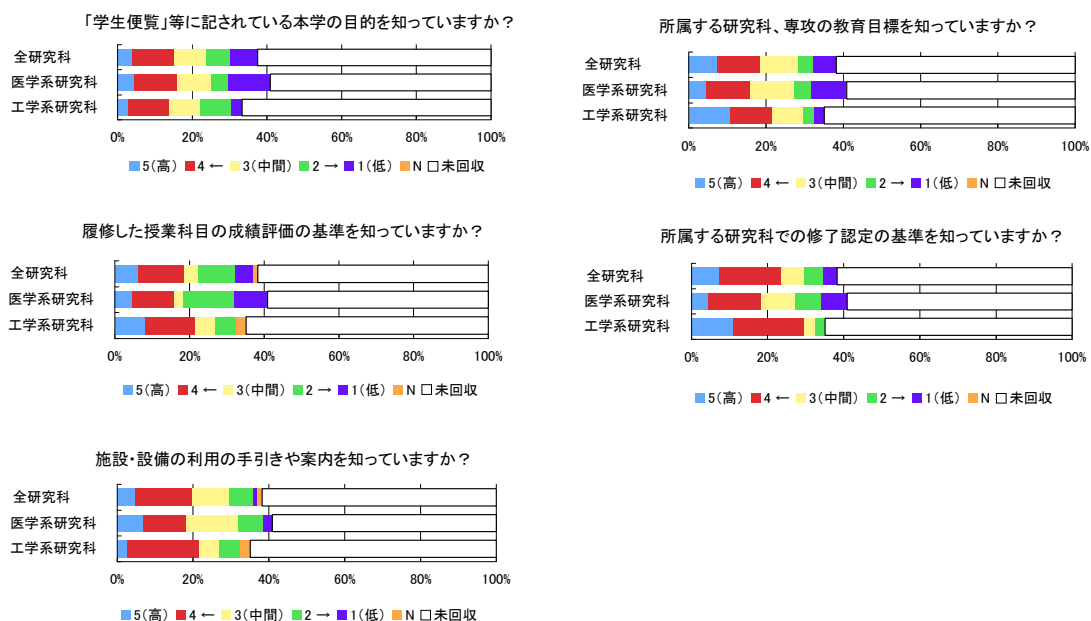


図 30 教育目標, 成績基準, 制度などに関する周知度

「履修した授業科目の成績評価の基準を知っていますか？」

成績評価の基準については周知度の高い群が 20%弱であり, 周知度の低い群の割合とほぼ同じである. 医学研究科は周知度の低い群が周知度の高い群を上回っている. 工学系研究科は周知度が高い群が 20%を超えており, 周知度の低い群は 10%弱であった.

成績評価基準についても周知度が高いとは言えない状況である. シラバスや授業で繰り返し説明を行うなどして成績基準の周知度を上昇させることが必要であろう.

「所属する研究科での修了認定の基準について知っていますか？」

この項目については他の項目に比して周知していると回答する割合がやや高い. 両研究科の 25%ほどが修了認定基準を知っていると答えている. 特に工学系研究科で修了認定の基準についての周知度が高く, 30%近くの院生が周知している. 医学系研究科では周知していると回答した院生の割合は 20%を下回る結果となっている.

対象が博士後期課程であることから, 学位取得や修了認定基準への関心は高いと考えられる. しかし, 認知度の低い院生も 10%ほど認められるために, 各研究科での継続した取り組みが必要であろう.

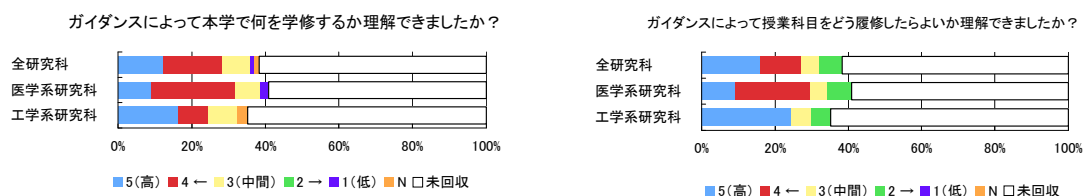


図 31 入学時、進学時のガイダンスによる学習目標・履修方法の理解度

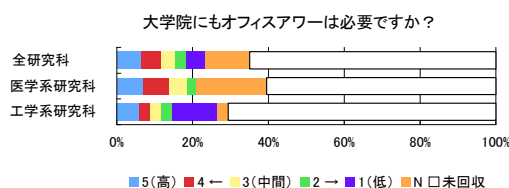


図 32 大学院でのオフィスアワーの必要性

「施設・設備の利用の手引きや案内を知っていますか？」

学内にある各種の施設・設備の案内に関する周知度を尋ねた項目であるが、両研究科を通して周知していると回答した院生は 20%弱であった。一方、周知できていない院生は 10%弱にとどまっている。「分からない・該当しない」とした回答数が極めて少なく、工学系研究科で認められるだけであった。

博士後期課程の大学院生は利用する施設も限られており、また在籍年数が多いために「分からない・該当しない」との回答が少なかったと考えられる。しかし、他大学から本学に入学してきた院生も少なからずいると思われるので、手引きや案内の充実に力を入れるべきであろう。

2) 入学時、進学時のガイダンスによる学習目標・履修方法の理解度

図 31 に入学時、進学時のガイダンス時に説明した内容についての理解度を示した。この項目では本学で何を学修するかと授業科目をどう履修したらよいかの 2 点についての理解度を尋ねており、前述の周知度と同様に、3 を中間的回答とみなし、5 もしくは 4 の回答は理解できている群、2 もしくは 1 の回答は理解できていない群として回答傾向を解釈する。

「入学時、進学時のガイダンスによって本学で何を学修するか理解できましたか？」

この項目では本学での学修目標について理解できたか否かを尋ねたものである。両

研究科を通して、理解できている群が 30%に達している。一方、理解できていない群の回答は極めて少なく 3%以下である。これらのデータから入学時・進学時のガイダンスにおいて院生の多くは学修目標をある程度理解できていると推定される。医学系研究科では肯定的な意見が 30%を超えており、否定的な意見はごく僅かであった。工学系研究科でも 25%の院生は理解を示しており、理解できていないとする院生は認められなかった。

博士後期課程の大学院生は学修目標を理解している割合が多いようである。今後、大学の学修目標を全院生に理解させるためにより一層の努力が必要であろう。

「入学時、進学時のガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいか理解できましたか？」

両研究科でみると履修方法について理解できている群の割合は 30%に達している。医学系研究科では 30%以上の院生が理解していると回答した。工学系研究科でも 25%の院生が理解を示している。

各研究科では高い専門性をもった様々な授業科目が開講されているが、博士後期課程の院生は履修方法について理解している場合が多いようである。しかし、中間的な意見や理解できていないとする意見が僅かではあるが認められることから、さらなる取り組みが必要であろう。

3) 大学院でのオフィスアワーの必要性

本学では学部学生のためにオフィスアワー制度を設けているが、大学院ではこの制度はない。しかしながら、指導教員以外に相談したい場合も想定されることから、実際に必要性を博士後期課程の院生にも尋ねてみた。ここでも 3 を中間的として、5 もしくは 4 を必要だと思っている群、2 もしくは 1 を必要とっていない群として解析を進める。

「大学院にもオフィスアワーは必要ですか？」

図 32 を見ると、全研究科の 10%強の院生が必要であるとしている。しかし、必要とっていない群も同程度認められる。「分からない・該当しない」と回答した院生の割合が最も多く、15%以上になっている。医学系研究科は肯定的意見が 15%を超えているものの、「分からない・該当しない」とする意見が最も多く 20%弱に達している。工学系研究科では必要と思っている割合は 10%程度である

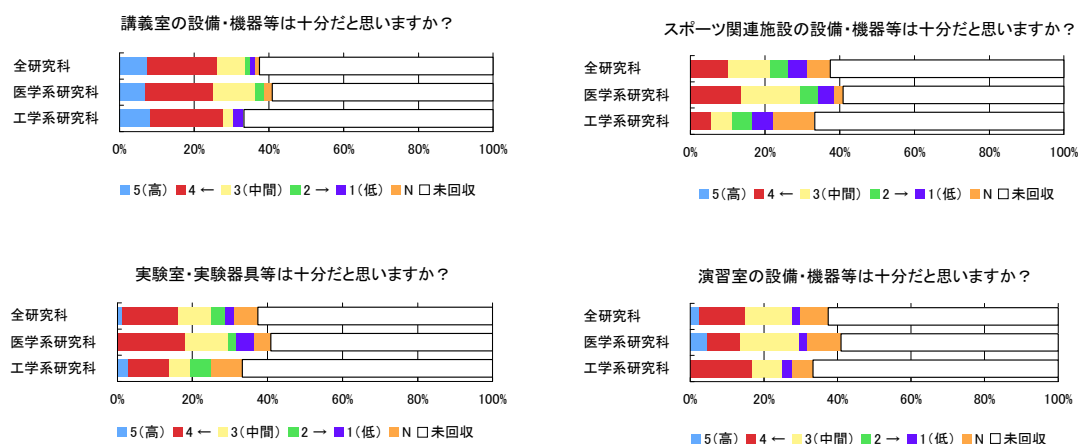


図 33 教育施設, 設備, 機器等の充足度

が, 必要に思っていない群の割合が 15%を超えている。

研究室配属後であるのでオフィスアワーの必要性はないと考えていたが, 予想外に必要なと考えている院生が多い。ただし, 研究科毎に状況が異なるので, 今後さらなる調査を実施して検討する必要があるだろう。

4)教育施設, 設備, 機器等の充足度

図 33 に教育施設, 設備, 機器等についての充足度を示した。ここでは講義室の設備, スポーツ関連施設, 実験室・実験器具および演習室の設備について質問した。ここでもやはり, 3の回答を中間とし, 5もしくは4を十分だと思っている群, 2もしくは1を十分だと思っていない群とみなして回答傾向を解釈する。

「講義室の設備・機器等は十分だと思いますか？」

両研究科を通して 30%近くの院生が講義室の設備・機器等は十分だと回答している。十分だと思っていない群は 5%以下で僅かであった。医学系研究科では中間的な意見がやや多いものの, 否定的な意見は 5%以下である。工学系研究科では十分だと思っている院生の割合が 30%ほどであり, 中間的意見や否定的意見よりもかなり多い。

十分だとの意見は多いが, 学士課程・修士課程の事も考え合わせると, 設備のさらなる充実が必要であろう。

「スポーツ関連の設備・機器等は十分だと思いますか？」

この項目では体育館やプールなどスポーツ関連設備について尋ねたものである。両

研究科を通して十分だと思っている群は10%程度であり、十分だと思っていない群と同程度である。理工学部では十分だと思っている割合が7%ほどであり、十分だと思っていない群の割合より下回っている。また、「分からない・該当しない」と回答している院生も多い。医学研究科では十分だと思っている院生の割合は10%を超えており、否定的な意見よりも多い。

博士後期課程になるとスポーツ関連の施設・設備を利用する機会が少なくなり、関心も低くなっている可能性がある。しかしながら、学部教育での需要が大きいことに間違いなく、今後の整備が待たれる。

「実験室・実験器具等は十分だと思いますか？」

両研究科の15%強の院生が十分だと思っている。医学系研究科では18%が実験室・実験器具等を十分だと思っており、否定的な意見よりも多い。工学系研究科では15%弱の院生が十分だと考えている。「分からない・該当しない」と回答する院生も10%ほど認められる。

実験室・実験器具等については両研究科を通して十分だと感じている院生は少ない、今後早急な対応が必要である。

「演習室の施設・設備等は十分だと思いますか？」

両研究科では15%の院生が十分だと思っている。工学系研究科では18%の院生が十分に感じている。医学系研究科では十分だと思っている群が15%ほどである。この項目では否定的な意見をもつ院生は少ない傾向がある。

演習室についても十分だと思っている院生の割合は多くはない。今後はそれぞれの専門性を十分考慮した上で対処すべきであろう。

5) 教育体制全般に対する満足度

図34に教育体制全般に対する満足度を示した。この項目では相談体制、パソコンの数量、自習スペース、図書・視聴覚資料、事務職員の対応等について尋ねている。なお、回答傾向の解釈は3を中間と見なして行う。

「学修相談の体制について満足していますか？」

両研究科で見ると満足している群は15%弱であった。満足していない群は5%以下であり、「分からない・該当しない」との意見が10%ほど認められる。医学系研究科では満

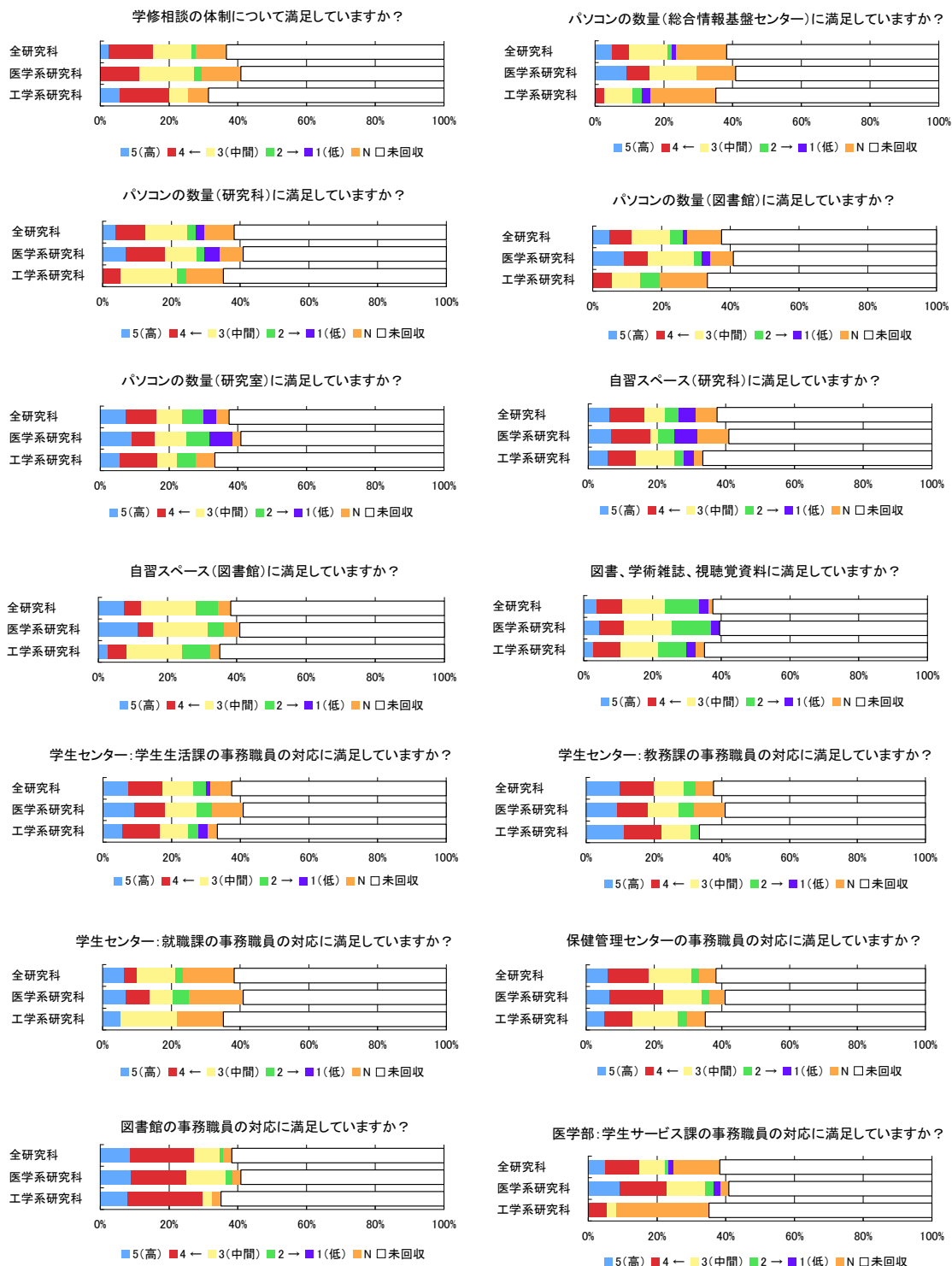


図 34 教育体制全般に対する満足度

足を示している院生の割合が 10%強であり、工学系研究科では 20%に達している。

研究科においては指導教員が学修相談を行うものと考えられるが、それに満足している院生は決して多くはないようである。

「パソコンの数量(総合情報基盤センター)に満足していますか？」

両研究科を通してみると、満足しているとする群が 10%強を占め、満足していないとする群は 5%以下である。その一方で「分からない・該当しない」とする回答が多く、15%を超えている。このことは博士後期課程の院生が総合情報センターをあまり利用していないことを物語っているのであろう。特に工学系研究科では満足しているとする院生の割合は 5%以下であり、「分からない・該当しない」とする回答は 20%近くに及んでいる。医学系研究科では 15%強が満足していると回答しており、否定的な意見は認められない。

博士後期課程の院生の場合、総合情報処理センターに赴いてパソコンを使用することは希なのであろう。しかし、若干ではあるが満足していない群が認められるためにパソコンの整備が必要である。

「パソコンの数量(研究科)に満足していますか？」

この項目は研究科におけるパソコン数の満足度に関するものである。両研究科では 10%強の院生が満足を示している。医学系研究科では 18%が満足していると回答し、工学系研究科では 8%がそのように回答している。

博士後期課程の院生は修士課程・博士前期課程の院生に比してパソコンの数に満足している群が少なく、むしろ学士課程の傾向に近い。どうしてこのような結果に至ったのか、パソコンの設置状況などの再調査が必要であらう。。

「パソコンの数量(図書館)に満足していますか？」

両研究科では満足している群が 10%強を占めており、満足していない群の割合よりも多い。医学系研究科では満足している群は 15%を超えており、満足していない群は 10%弱である。工学系研究科では満足を示す群は 10%弱で満足していない群と同程度である。しかし、「分からない・該当しない」とする回答が 15%以上有り図書館のパソコンを利用していない実態も考えられる。

図書館は全学的に利用される施設であるが、学士課程や修士課程・博士前期課程に比べて、博士後期課程の院生の利用は少ないのであろう。したがって、図書館のパ

ソコン設置数に対しても中間的意見や「分からない・該当しない」とする意見が多いものと推定される。

「パソコンの数量(研究室)に満足していますか？」

本項目では各研究室のパソコンの数を尋ねたものである。満足している群の割合が15%強であり、満足していないとする意見と同程度である。医学系研究科は不満とする意見も15%程認められる。工学系研究科では「分からない・該当しない」とする回答が5%強認められる。

自分が所属する研究室でありながら設置されているパソコン数に「分からない・該当しない」と回答があったことから、院生が自らのパソコンを持ち込んで研究を進めている事が推定される。いずれにせよ、満足度は決して高くないので今後の改善が必要であろう。

「自習スペース(研究科)に満足していますか？」

両研究科では15%強の院生が満足していると回答しており、満足していないとする意見を上回っている。大学院ではすでに研究室に配属されているため、満足していない院生が少ない傾向にある。しかし、医学系研究科では満足していない群の割合が大きく10%を超えている。

研究室の配属が決まっているはずであるが、自習スペースに対しては満足しているとする意見がやや少ないようである。

「自習スペース(図書館)に満足していますか？」

両研究科を通して15%強が満足を示しており、不満とする学生は10%弱である。医学系研究科では18%が満足と感じており、不満とする意見は10%に満たない。工学系研究科では10%弱が満足しているに過ぎず、満足に思っていない院生が僅かに多い。

図書館の利用率は少ないと考えられるが、自習スペースについては不満とする院生も少なくない。各研究科の自習スペースとのバランスを考慮して整備を進める必要があるだろう。

「図書、学術雑誌、視聴覚資料に満足していますか？」

両研究科を通して10%程度が満足していると回答しており、15%ほどが不満と回答している。医学系研究科は満足していない群が15%以上おり、満足しているとする群を

上回っている。工学系研究科では全体の傾向と同じであるが、「分からない・該当しない」とする意見が認められる。

各専門分野によって具体的にどのような図書・学術雑誌・視聴覚資料が必要であるのかを調査して検討を進める必要があろう。

「学生センター：学生生活課の事務職員の対応に満足していますか？」

この項目は本学の事務職員の対応について大学院生が満足しているか否かについて尋ねたものである。両研究科では18%の院生が満足していると回答している。不満を感じている院生は5%以下である。医学系研究科では「分からない・該当しない」とする意見が多い。

この項目については具体的にどのような対応に不満を抱いているのか明らかにはできない。事務職員へのアンケートを実施する必要があるかもしれない。

「学生センター：教務課の事務職員の対応に満足していますか？」

両研究科を通して20%強の院生が肯定的な意見をもっている。否定的な意見は5%以下であった。医学系研究科では「分からない・該当しない」の割合も10%弱認められる。工学系研究科では満足を示す院生が20%を越えている。

医学系研究科では教務課の事務職員と接する機会は少ないと考えられる。そのため、「分からない・該当しない」と回答した院生が多いのであろう。さらに調査を進めて改善する必要があるだろう。

「学生センター：就職課の事務職員の対応に満足していますか？」

両研究科を通して10%強の院生が肯定的な意見をもっている。この項目では「分からない・該当しない」との回答の比率が大きい特徴がある。医学系研究科では「分からない・該当しない」の割合が15%弱認められる。工学系研究科では満足を示す院生が10%であるが、不満と考えている院生は認められない。

両研究科を通して就職課の事務職員と接する機会は少ないと推定される。そのため、「分からない・該当しない」と回答した院生が多いのであろう。対応に不満をもっている院生の割合は無視できるものではないので、さらに調査を進めて改善する必要があるだろう。

「保健管理センターの事務職員の対応に満足していますか？」

保健管理センターの事務職員の対応については肯定的意見の割合が多く、両研究科の18%が満足しているようである。満足していない群の割合は5%以下であり、中間的な意見は15%程度を示している。医学系研究科では満足している群の割合が20%を越えている。

保健管理センターの事務職員に対する満足度では、学部学生と同様に大学院生も相対的に高い満足度を示しており、不満度はかなり低いと判断される。

「図書館の事務職員の対応に満足していますか？」

図書館の事務職員については満足している群の割合が30%近くに達している。不満度は5%を下回っており中間的意見が10%を占める。工学系研究科では満足とする院生が30%を越え、不満を示す院生は認められない。医学系研究科でも満足を示す割合が高く、25%に達している。

「分からない・該当しない」の割合は比較的少ない。不満を示す院生が僅かに認められることから、対応について考える必要があるかもしれない。

「医学部：学生サービス課の事務職員の対応に満足していますか？」

この項目は医学部にある学生サービス課の事務職員の対応について尋ねたものである。そのため、工学系研究科では「分からない・該当しない」が大半を占めており、両研究科を通しての傾向にはあまり意義を見いだせない。医学系研究科では20%強の院生が満足を示しているが、不満に感じている院生も5%程度存在する。

具体的にどのような対応が不満度を上げているのかを調査して改善に結びつける努力が必要に思われる。

6) 授業科目に対する満足度

図35に授業科目に対する満足度を示した。この項目では専門教育科目について満足度を尋ねている。前項と同じく、3を中間的回答とみなし、5もしくは4の回答は満足してる群、2もしくは1の回答は満足していない群として解析を進める。

「専門必修科目の授業について満足していますか？」

両研究科を通して20%強の院生が満足であると回答しているが、不満足は5%以下であった。必修科目であるのですべての院生が履修しているためか、「分からない・該当

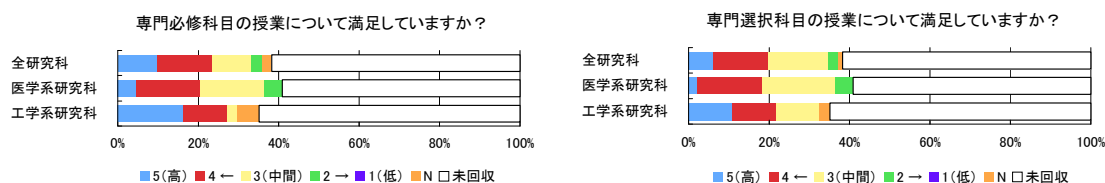


図 35 授業科目に対する満足度

しない」との意見が極めて少ないという特徴がある。工学系研究科では 30%が満足していると回答し、医学系研究科では 20%強の院生が満足を示している。

専門必修科目は大学院教育でも重要な位置を占める。アンケート結果を見ると期待するほど高い満足度を示しておらず、カリキュラム全体の見直しを検討する必要がある。

「専門選択科目の授業について満足していますか？」

専門必修科目と同じく、両研究科を通して 20%程度の院生が満足であると回答している。工学系研究科は 22%の院生が満足度を示しており、医学系研究科では満足している群の割合は 20%以下であった。

専門選択科目は専門必修科目に準じた重要な科目であり、本来高い満足度を得られるはずであるが、実際には満足度は高くない。今後の課題として考えねばならない問題である。

7) シラバスの有効性について

図 36 にシラバスが大学院専門科目選択の参考になったか否かというシラバスの有効性について得られた結果を示す。前項と同様に3を中間的回答、5および4を参考にした群、2および1を参考にしなかった群とみなしてデータを解釈した。

「シラバスは科目選択の参考になりましたか？」

両研究科を通して、参考にした群の割合は 18%にとどまり、参考にしていない群は 8%前後である。工学系研究科では 20%弱の院生が参考にしたと答えている。医学系研究科では 15%の院生が参考にしたと回答しており、参考にしていなかったとする意見は 8%ほどであった。

博士後期課程でもオンラインシラバスの整備が遅れている。まず、教員側がきちんと準備する必要があり、それによってこの項目の回答も大きく改善されることが考えられる。

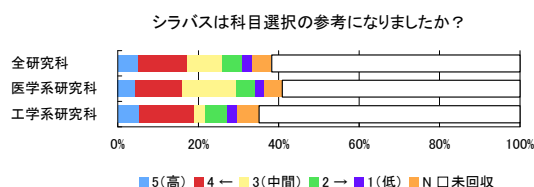


図 36 シラバスの有効性

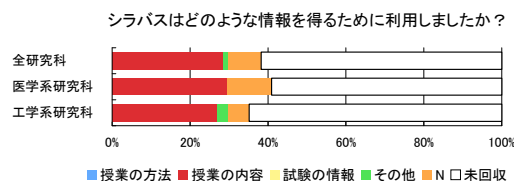


図 37 シラバスからの情報

8) シラバスからの情報

シラバスを充実させる目的で具体的にどのような情報源としてシラバスを利用したのかを尋ねた。結果を図 37 に示す。

「シラバスはどのような情報を得るために利用しましたか？」

両研究科を通して最も多い回答は授業内容についてであり、その割合は 30%に達する。工学系研究科にはその他という意見があるがその内容については不明である。

結果を見る限り、博士後期課程の院生は、授業の内容を確認するためにシラバスを参考にしていることが明らかである。今回得られた結果を参考にオンラインシラバスの改善を行うべきであろう。

9) 授業内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか

シラバスの利用内容については把握できたが、実際に必要な情報がシラバスに記載されているかどうかを尋ねてみた。結果を図 38 に示す。データの解釈に当たり、やはり 3 を中間とし、5 および 4 を即している群、2 および 1 を即していない群と見なして行った。

「専門必修科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」

両研究科を通して見ると、即していたとする群が 20%弱であり、即していないとする群は 5%以下であった。医学系研究科では 20%の院生が即していたと回答し、即していなかったとする回答は 5%強であった。工学系研究科では即していたとする意見が 15%程度であり、即していなかったとする意見は認められなかった。

5人にひとりとは肯定的な考えを示していることから、専門必修科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していたと考えられる。

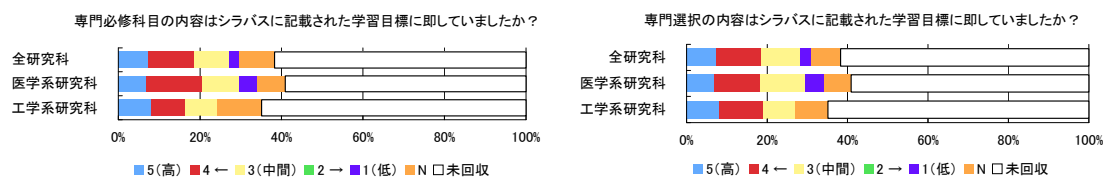


図 38 授業内容はシラバスに記載された学習目標に即しているか

「専門選択科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？」

両研究科を通して即していたとする学生の割合は 18%に達しており，即していないとする群は 5%以下であった．この項目も専門必修科目とほぼ同じ傾向を示している．工学系研究科では肯定的な意見が 19%に達し，否定的な意見は認められない．

全体的にシラバスの内容が学修目標に即していたと判断される．

10) 大学院での基礎学力

この項目で大学院での研究活動に際して基礎学力が十分であるかどうかを尋ねたものである．結果を図 39 に示す．ここでも 3 を中間的な値とし，5 もしくは 4 を基礎学力が不足であると感じる群，2 もしくは 1 は感じていない群として解析している．

「大学院で学修や研究する上で、基礎学力が不足していると感じることがありますか？」

両研究科を通して，自分の基礎学力が不足していると感じたことがあるとする意見は 17%程度であり，感じていないとする意見は 5%程度であった．医学系研究科では不足していると感じた群は 20%で，感じていない群の 5%を大きく上回っている．工学系研究科では 10%を超える院生が基礎学力の不足を感じており，感じていないと回答した院生は 8%であった．

両研究科を通して自分の学力不足を感じている学生は少なくない．どのような分野で学力不足を感じるのか，さらに調査を進めるべきであろう．

11) 教員の指導について

博士後期課程では指導教員と共に研究計画を立てるため，教員は適切な研究指導を行っていることが当然と考えられる．本項目では院生に教員の研究指導

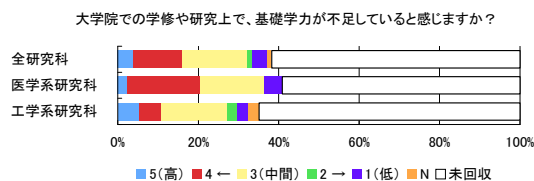


図 39 大学院での基礎学力

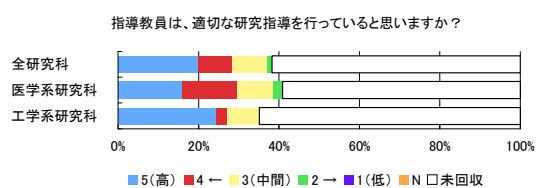


図 40 教員の指導について

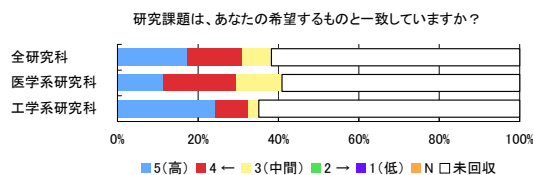


図 41 研究課題について

が適切であるかどうかを尋ねたものである。結果を図 40 に示す。ここでも 3 を中間として、5 もしくは 4 を行っていると思っている群、2 もしくは 1 を思っていない群を表している。

「指導教員は、適切な研究指導を行っていると思いますか？」

結果を見ると 20%の院生が教員の研究指導が適切であると回答している。医学系研究科では 17%，工学系研究科では 25%が肯定的な意見を寄せており、否定的な意見はごく僅かであった。

全体的に教員は適切な指導を行っていると考えられるが、適切と思っていない院生も若干認められる。今後は複数教員での指導など新しい取り組みが必要に思われる。

12)研究課題について

本項目では研究課題について尋ねたものである。本来、研究を希望して進学を決めたはずであるので、研究課題についての意識は高いはずである。結果を図 41 に示す。ここでも 3 を中間として、5 もしくは 4 を希望するものと一致している群、2 もしくは 1 を一致していない群として解析する。

「研究課題は、あなたの希望するものと一致していますか？」

両研究科を通して研究課題が希望するものと一致するとの意見は 30%を超え

る。また、一致していなかったとする意見は全く認められない。ただし、中間的な意見を持つ院生は10%弱いるようである。

研究課題は大学院入学時に決めておく場合が多いので、希望したものと一致するとの回答が多い。特に博士後期課程になると専門性が高くなるのでこの傾向が強くなる。中間意見をもつ院生もいるので指導教員との十分な話し合いが重要となるだろう。

VII. 総 括

1. 学部学生(3年次)

本学の目標や学部の教育目標、成績評価基準、各制度、案内などは従来学生に周知させておかねばならない事柄である。結果を見ると学生は直接自分に関わる事柄についてはよく知っているが、知らなくても損をしない情報については関心を示さないことがよく分かる。一方で、学部、課程・学科の教育目標を定めていない場合もあるために今後は早急に整備を進めると共に広く学生に周知させる必要がある。

オフィスアワーについては制度そのものを知らない学生も多く、また、実際に利用している学生も極めて少ない。さらに、現行の利用形態は学生が望む随時面接と異なり時間指定の面接である。このような状態ではオフィスアワーを設定していること自体に意味が無く抜本的な改革に取り組まねばならない。

各施設・設備の手引きや案内については早急に整備を進めると共に学生への周知が必要であろう。

ガイダンスについてはある程度の効果が上がっていることは認められるが、さらに理解を深める為にもパンフレット等の配付資料の活用が考えられる。

施設・設備についての学生の満足度は学部の特性によって異なっているが、スポーツ関連施設の充実が急務であろう。

教育体制に関しては学修相談体制の充実が必要である。先に述べたオフィスアワーの改善を急ぐと共に各学部に学修相談窓口を設置するなどの改善策を講じねばならない。

情報機器の整備については学部毎に格差が生じており学生の満足度が極めて低い項目のひとつと言えよう。特に学部設置の情報機器の数に満足していない学生が多い。学部に情報機器の整備・管理を司る組織を設ける必要があるかもしれない。

自習スペースについては各学部の改修工事が進められるにつれて徐々に解消していくことが期待される。

図書や学術雑誌，視聴覚資料についての整備も考えねばならない。本学の利用形態では必要な書籍は各研究室が保管している場合が多いので，利用の際に障害になっているのかもしれない。図書館のスペースには限りがあるので資料のオンライン化などを進めて利用環境を整える必要がある。

事務職員の対応については具体的な事例が分からないので明らかに出来ないが，保健管理センターや図書館の事務職員に比べて学生センターの事務職員の対応に対する満足度は低いようである。事務職員対象としたアンケートを実施して実状を把握してから改善に取り組む事が望まれる。

授業に対する満足度については一定の評価が得られているもののそれほど高くなく，カリキュラムの見直しや教育体制の改善などを視野に入れた抜本的な改革が必要である。無論，教員ひとりひとりの授業改善への取り組みも不可欠であることは間違いない。

シラバスについては教員が考えている以上に学生が利用している実態が把握できた。全学的には4人にひとりがシラバスを参考に科目の選択を行っており，主として授業内容や試験情報を得るために利用している。その一方で，教員側のオンラインシラバス入力率は必ずしも高くなく，学生のニーズに応えられていない実態がある。今後，オンラインシラバスの整備を進めると共にシラバスの内容についても検討する必要がある。

各授業内容がシラバスに記載されいた学習目標に即していたかどうかについてはおよそ20%の学生が肯定的な意見を返しており，そう思っていない学生の比率を大きく上回っている。このことから多くの科目は学習目標に沿った内容を展開していることが伺える。ただし，本来は全ての科目が学習目標に沿った内容であるべきものであり，20%の肯定的意見に喜んでばかりは居られない。今後の取り組みが重要であろう。

教養教育科目の開講数については適切と思っている学生の割合が著しく低く，早急な対策を立てねばならない。ただし，開講数を多すぎると感じているのか，少なすぎると感じているのかが定かではないために慎重な対応が望まれる。

主題科目の選択についてはおよそ40%の学生が希望通りになっており，選択がうまくいかなかった場合も別の科目を受講するなどの独自の対応をしていることが判明した。これは登録システムに問題があることはもちろんだが，登録後

に勝手に放棄する学生がいることから本当に受講したい学生の希望が通らないことが多いためである。これらの状況を勘案しながら対応策を立てていくべきであろう。

英語以外の外国語科目で最も望む科目は中国語であることがわかった。また、最も望むリメディアル教育科目は英語であり、リメディアル科目の理科では物理であった。この結果を受けても早急な取り組みに繋がることはないが、各学部の実状を踏まえて学生のニーズにあった改善策を模索すべきであろう。

2. 大学院修士課程・博士前期課程

本学の目標や学部の教育目標、成績評価基準、各制度、案内などは学生はもちろんのこと大学院修士課程・博士前期課程の院生にも周知させておかねばならない事柄である。結果を見ると院生であっても自分に関係の深い事柄についてはよく知っているが、関連の薄い情報については関心を示さないことが明らかである。

大学生生活の長い院生であっても大学の学修目標や履修方法について理解が十分であるとは言い難い。ガイダンスについてはある程度の効果が上がっていると考えられるが、より一層の理解を深める為にはパンフレット等の配付資料用いるべきであろう。

大学院でのオフィスアワーの必要性については予想外に必要と感じている院生が多く、今後導入を検討すべきかもしれない。

施設・設備についての院生の満足度は決して高いとは言えず、整備が必要な場合が多い。特にスポーツ関連施設の充実が急務と考えられる。

研究科においては指導教員が学修相談を行うものと考えられるが、それに満足している院生は少ない。学部学生の場合と同様に教育体制に関しては学修相談体制の充実を進めて行かねばならない。

情報機器の整備については研究科の特徴を十分に理解した上で導入を検討すべきである。自習スペースについても各研究科の実情を調査した上で検討を重ねていく必要がある。

図書や学術雑誌、視聴覚資料についての整備も進めなければならないが、専門分野が多岐にわたっているために十分な検討を要する。

事務職員の対応については具体的な事例が分からないので明らかに出来ない。それでも保健管理センターや図書館の事務職員に比べて学生センターの事

務職員の対応に対する満足度はやや低く、継続的な調査が必要と思われる。

授業に対する満足度については一定の評価が得られている。しかし、カリキュラムの見直しや教育体制の改善などを検討していかなければならない。

シラバスについては主として授業内容や試験情報の獲得に利用されている。しかし、すべての院生が活用してはいない。今後、オンラインシラバスの充実に力を注いでいくべきであろう。

専門教育科目の内容がシラバスに記載されいた学習目標に即していたかどうかについては多くの院生が肯定的な意見を持っている。しかしながら、一部の研究科では低い評価を持っている院生も認められるので学習内容の見直しが必要であろう。

大学院での基礎学力については、自らが不足と感じている院生が意外に多いことに驚かせられる。大学生の学力低下が叫ばれているが、大学院生にもその影響が及んでいることが明らかとなった。この結果を受けて各研究科では専門教育について早急に対策を立てなければならない。

教員の指導については適切と思っている院生が多く、全体的に適切な指導が行われていると考えられる。しかし、適切でないとの回答もあり指導体制の改善を考えていくべきである。

研究課題については希望したものと一致するとの回答が多かった。しかし、僅かではあるが希望したものと一致していないとの回答もあり。研究課題の変更についても柔軟的な対応が必要である。

3. 博士後期課程

本学の目標や学部教育目標、成績評価基準、各制度、案内に関しては、博士後期課程の院生であっても認知度は低いようである。また、大学の学修目標や履修方法についても博士後期課程院生の理解が十分であるとは言い難い。これは他大学からの進学者が含まれているためとも考えられるが、入学時に徹底した指導が欠けていたとも受け取れる。ガイダンスについてはある程度の効果が上がっている。しかし、他大学から進学してきた院生もいると推定されることから理解を深める為の工夫が必要であろう。

研究室配属後であるのでオフィスアワーの必要性はないと思われがちであるが、必要と考えている院生は少なくない。研究科の状況を鑑みて検討していかなければならない。

施設・設備については使用する機会が少ないためか、満足度は決して高いとは言えない。今後、総合的な改修計画を立てるべきである。

教育体制に関しては指導教員が学修相談も行っているのが常である。それにしても満足している院生の数は多くない。学部学生の場合と同様に学修相談体制の充実を計るべきである。

情報機器の整備や自習スペースについては研究科の特徴を十分に理解した上で導入を検討すべきであろう。

図書や学術雑誌、視聴覚資料についての整備は研究科の専門分野によって需要が異なり、充足するのは困難であろう。

事務職員の対応については具体的な事例が分からないので明らかではない。博士後期課程の院生でも保健管理センターや図書館の事務職員に比べて学生センターの事務職員の対応について満足する意見はやや少ない。授業に対する満足度については一定の評価が得られている。

シラバスについては主として授業内容の情報収集に利用されている。学士課程や修士課程のことも勘案してオンラインシラバスの完成を目指すべきである。

専門教育科目の内容がシラバスに記載されいた学習目標に即していたかどうかについては多くの院生が肯定的な意見を持っている。

博士後期課程での基礎学力については、修士課程の院生と同じく、自らが不足と感じている院生の数は少なくない。各研究科での早急な取り組みを切望する。

教員の指導については適切と思っている院生が多い。しかし、適切でないとする院生も若干認められ、指導体制を再検討しなければならない。

研究課題は大学院入学時に決めておく場合が多い。博士後期課程になると専門性が高くなるので希望したものと一致するとの回答が多くなる傾向が認められる。しかし、中間的意見をもつ院生も若干名いることから指導教員との協議の場を設定する必要があるだろう。

今回、佐賀大学に在籍する3年次学生、修士課程・博士前期課程および博士後期課程の2年次を抽出して全学的なアンケートを行った。その結果前述のような実態が明らかになり、取り組むべき課題も浮かび上がってきたように思われる。今後は改善に務めると共に継続したアンケートを行い、学生の意見がどのように推移していくのかを見定め、さらなる改革の礎として蓄積していくべきであろう。

付表 各アンケート項目の回答結果(学部学生3年次)

「学生便覧」等に記されている本学の目的を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	17	53	217	181	451	35	83	1.916
文化教育学部	2	7	36	49	123	7	61	1.691
経済学部	2	9	34	25	76	6	160	1.877
医学部	2	8	35	22	50	6	36	2.060
理工学部	10	28	96	71	161	10	175	2.057
農学部	1	1	16	14	41	6	83	1.726

所属する学部、課程・学科の教育目標を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	33	122	245	203	332	19	513	2.274
文化教育学部	2	18	48	60	92	3	61	1.991
経済学部	4	10	36	28	69	5	160	1.993
医学部	11	19	48	23	21	2	35	2.803
理工学部	15	68	98	74	117	4	174	2.435
農学部	1	7	15	18	33	5	83	1.986

履修した授業科目の成績評価の基準を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	177	320	262	99	84	8	513	3.432
文化教育学部	23	70	64	33	30	1	61	3.105
経済学部	19	50	46	16	19	0	160	3.227
医学部	41	33	32	10	7	1	35	3.740
理工学部	80	139	101	30	21	5	174	3.612
農学部	14	28	19	10	7	1	83	3.410

所属する学部での卒業認定の基準を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	254	361	208	72	58	3	513	3.715
文化教育学部	68	92	42	12	10	0	61	3.875
経済学部	37	57	33	12	13	0	160	3.612
医学部	33	33	38	9	9	2	35	3.590
理工学部	93	152	81	32	18	1	174	3.718
農学部	23	27	14	7	8	0	83	3.633

オフィスワーカーの制度を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	101	154	158	144	348	50	513	2.465
文化教育学部	24	55	37	29	71	8	61	2.685
経済学部	12	19	27	25	58	11	160	2.305
医学部	4	3	13	12	81	11	35	1.558
理工学部	51	67	72	66	107	13	174	2.694
農学部	10	10	9	12	31	7	83	2.389

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

施設・設備の利用の手引きや案内を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	49	158	349	196	181	20	513	2.676
文化教育学部	10	44	84	42	42	2	61	2.721
経済学部	6	28	50	39	25	3	160	2.669
医学部	7	19	43	24	28	3	35	2.612
理工学部	22	53	149	74	67	10	174	2.696
農学部	4	14	23	17	19	2	83	2.571

ガイダンスによって本学で何を学修するか理解できましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	88	243	351	172	84	15	513	3.084
文化教育学部	16	54	76	49	27	2	61	2.923
経済学部	6	38	61	28	15	3	160	2.946
医学部	28	37	38	10	8	2	35	3.554
理工学部	31	99	142	65	32	7	174	3.087
農学部	7	15	34	20	2	1	83	3.064

ガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいか理解できましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	157	279	267	166	71	10	513	3.303
文化教育学部	28	64	59	54	18	0	61	3.135
経済学部	20	38	45	27	17	4	160	3.116
医学部	24	38	37	17	6	1	35	3.467
理工学部	68	115	104	59	24	4	174	3.389
農学部	17	24	22	9	6	1	83	3.474

教養教育の設備・機器等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	127	262	319	145	65	35	513	3.263
文化教育学部	26	58	69	48	16	7	61	3.138
経済学部	20	52	47	21	10	2	160	3.340
医学部	13	29	43	18	8	11	35	3.189
理工学部	53	103	135	47	26	12	174	3.302
農学部	15	20	25	11	5	3	83	3.382

学部教育の設備・機器等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	137	287	299	146	61	24	513	3.315
文化教育学部	17	49	73	57	22	6	61	2.917
経済学部	20	47	47	24	12	2	160	3.260
医学部	21	46	42	8	4	2	35	3.595
理工学部	56	120	117	51	20	12	174	3.387
農学部	23	25	20	6	3	2	83	3.766

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

外国語教育の設備・機器等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	118	234	291	98	46	165	513	3.356
文化教育学部	24	67	68	28	6	31	61	3.389
経済学部	22	28	46	13	12	31	160	3.289
医学部	19	39	33	15	4	14	35	3.491
理工学部	40	83	118	33	23	77	174	3.283
農学部	13	17	26	9	1	12	83	3.485

スポーツ関連の設備・機器等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	53	142	313	220	142	80	513	2.706
文化教育学部	6	31	64	54	46	23	61	2.488
経済学部	10	25	55	32	22	8	160	2.785
医学部	6	18	50	28	8	13	35	2.873
理工学部	24	61	119	85	54	30	174	2.755
農学部	7	7	25	21	12	6	83	2.667

実験室・実験器具等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	51	162	277	130	71	259	513	2.988
文化教育学部	5	16	55	39	12	96	61	2.709
経済学部	3	11	22	7	7	102	160	2.920
医学部	10	31	56	9	3	14	35	3.330
理工学部	28	90	127	53	29	47	174	3.107
農学部	5	14	17	22	20	0	83	2.513

演習室の施設・設備等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	81	179	357	141	66	131	513	3.083
文化教育学部	9	23	79	50	15	48	61	2.778
経済学部	17	38	54	22	11	10	160	3.197
医学部	18	33	51	8	5	9	35	3.443
理工学部	31	72	151	48	27	47	174	3.097
農学部	6	13	22	13	8	17	83	2.935

学期毎の履修単位数の制限に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	71	125	247	205	270	25	513	2.479
文化教育学部	19	39	81	42	36	6	61	2.829
経済学部	12	23	30	49	38	0	160	2.487
医学部	14	25	57	6	2	17	35	3.413
理工学部	16	27	62	88	175	2	174	1.970
農学部	10	11	17	20	19	0	83	2.649

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

学修相談の体制について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	19	79	349	190	124	178	513	2.578
文化教育学部	4	8	65	54	42	49	61	2.295
経済学部	3	13	64	31	13	27	160	2.694
医学部	5	18	60	13	9	18	35	2.971
理工学部	3	33	135	76	50	70	174	2.539
農学部	4	7	25	16	10	14	83	2.661

パソコンの数量(総合情報基盤センター)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	100	181	251	246	148	18	513	2.826
文化教育学部	25	36	49	69	40	5	61	2.712
経済学部	15	28	44	36	28	1	160	2.775
医学部	18	27	36	22	12	7	35	3.148
理工学部	33	75	95	101	60	4	174	2.780
農学部	9	15	27	18	8	1	83	2.987

パソコンの数量(学部・学科等)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	60	108	245	221	193	119	513	2.542
文化教育学部	13	11	37	64	60	39	61	2.205
経済学部	7	22	42	42	37	2	160	2.467
医学部	18	26	39	20	12	8	35	3.157
理工学部	17	40	104	75	72	61	174	2.529
農学部	5	9	23	20	12	9	83	2.638

パソコンの数量(図書館)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	75	148	263	272	162	24	513	2.676
文化教育学部	14	35	59	60	47	8	61	2.577
経済学部	10	26	46	44	23	1	160	2.705
医学部	11	17	32	40	24	0	35	2.605
理工学部	30	57	105	109	55	13	174	2.713
農学部	10	13	21	19	13	2	83	2.842

パソコンの数量(研究室)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	28	64	197	107	105	438	513	2.607
文化教育学部	5	13	34	44	32	94	61	2.336
経済学部	4	11	40	11	25	60	160	2.538
医学部	1	13	36	6	7	58	35	2.921
理工学部	10	20	72	39	33	193	174	2.626
農学部	8	7	15	7	8	33	83	3.000

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

自習スペース(学部・学科)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	36	92	247	240	226	106	513	2.372
文化教育学部	3	17	57	59	60	27	61	2.204
経済学部	2	10	37	40	38	25	160	2.197
医学部	7	14	36	35	28	4	35	2.475
理工学部	18	45	98	88	88	33	174	2.457
農学部	6	6	19	18	12	17	83	2.607

自習スペース(図書館)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	73	152	299	212	170	39	513	2.720
文化教育学部	10	42	72	50	43	6	61	2.659
経済学部	11	27	57	29	20	8	160	2.861
医学部	7	15	39	34	26	1	35	2.529
理工学部	34	50	105	87	72	22	174	2.675
農学部	11	18	26	12	9	2	83	3.132

図書、学術雑誌、視聴覚資料に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	56	138	385	181	82	93	513	2.887
文化教育学部	7	28	84	59	24	20	61	2.678
経済学部	11	23	60	23	13	19	160	2.969
医学部	4	23	59	24	9	2	35	2.908
理工学部	23	57	154	58	30	45	174	2.953
農学部	11	7	28	17	6	7	83	3.000

学生センター: 学生生活課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	52	152	299	179	224	34	513	2.591
文化教育学部	13	20	56	51	80	4	61	2.250
経済学部	9	18	58	31	34	0	160	2.580
医学部	10	33	38	13	14	15	35	3.111
理工学部	16	69	118	68	82	12	174	2.629
農学部	4	12	29	16	14	3	83	2.680

学生センター: 教務課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	45	142	308	173	221	56	513	2.569
文化教育学部	8	16	52	56	88	4	61	2.091
経済学部	10	20	52	32	35	2	160	2.584
医学部	8	31	40	11	7	27	35	3.227
理工学部	15	63	132	61	77	21	174	2.649
農学部	4	12	32	13	14	2	83	2.720

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

学生センター:就職課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	33	94	257	96	119	342	513	2.710
文化教育学部	4	17	50	21	39	91	61	2.435
経済学部	7	16	38	20	19	50	160	2.720
医学部	9	19	34	10	6	46	35	3.192
理工学部	9	36	114	37	45	127	174	2.697
農学部	4	6	21	8	10	28	83	2.714

保健管理センターの事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	149	258	339	76	44	77	513	3.453
文化教育学部	35	60	72	27	18	12	61	3.316
経済学部	27	40	56	11	6	11	160	3.507
医学部	26	39	44	9	2	2	35	3.650
理工学部	47	98	138	26	15	44	174	3.420
農学部	14	21	29	3	3	8	83	3.571

図書館の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	108	263	396	60	34	83	513	3.408
文化教育学部	23	70	85	16	7	22	61	3.428
経済学部	22	39	60	11	5	15	160	3.453
医学部	14	33	60	12	3	2	35	3.352
理工学部	35	103	155	21	16	38	174	3.364
農学部	14	18	36	0	3	6	83	3.563

医学部:学生サービス課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	33	68	192	34	32	571	513	3.100
文化教育学部	1	8	25	4	7	173	61	2.822
経済学部	3	7	27	4	4	104	160	3.022
医学部	18	35	46	15	8	1	35	3.328
理工学部	7	16	83	11	10	237	174	2.992
農学部	4	2	11	0	3	56	83	3.200

英語の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	69	182	405	172	86	29	513	2.974
文化教育学部	9	46	83	62	18	5	61	2.844
経済学部	14	29	75	22	8	4	160	3.128
医学部	11	27	50	21	3	10	35	3.196
理工学部	28	57	171	54	48	9	174	2.897
農学部	7	23	26	13	9	1	83	3.077

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

英語以外の外国語の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	90	177	304	93	65	215	513	3.184
文化教育学部	7	18	40	22	13	123	61	2.840
経済学部	14	38	72	18	6	4	160	3.243
医学部	19	27	47	15	6	8	35	3.333
理工学部	32	68	121	35	34	78	174	3.100
農学部	18	26	24	3	6	2	83	3.610

健康スポーツ科目の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	134	248	344	70	38	107	513	3.444
文化教育学部	28	63	87	24	6	12	61	3.399
経済学部	28	48	61	8	6	1	160	3.556
医学部	3	3	21	9	5	80	35	2.756
理工学部	65	114	139	22	17	12	174	3.527
農学部	10	20	36	7	4	2	83	3.325

情報処理科目の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	89	215	400	135	64	39	513	3.144
文化教育学部	17	50	91	40	15	10	61	3.066
経済学部	21	40	64	22	4	1	160	3.344
医学部	7	12	51	27	14	9	35	2.739
理工学部	36	97	155	41	24	16	174	3.227
農学部	8	16	39	5	7	3	83	3.173

大学入門科目の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	108	227	411	85	53	52	513	3.285
文化教育学部	30	56	91	25	12	9	61	3.313
経済学部	20	44	63	14	6	3	160	3.395
医学部	7	17	59	13	5	19	35	3.079
理工学部	43	96	155	26	25	19	174	3.307
農学部	8	14	43	7	5	2	83	3.169

主題科目(第1分野)の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	59	162	329	61	30	302	513	3.248
文化教育学部	13	49	77	15	5	65	61	3.314
経済学部	11	34	54	12	3	37	160	3.333
医学部	4	17	54	9	4	33	35	3.091
理工学部	25	52	124	22	14	132	174	3.219
農学部	6	10	20	3	4	35	83	3.256

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

主題科目(第2分野)の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	39	138	380	64	30	288	513	3.141
文化教育学部	9	34	97	11	5	66	61	3.199
経済学部	6	23	49	14	3	54	160	3.158
医学部	0	15	55	10	2	39	35	3.012
理工学部	19	55	148	26	16	105	174	3.133
農学部	5	11	31	3	4	24	83	3.185

主題科目(第3分野)の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	36	137	424	71	35	237	513	3.097
文化教育学部	8	24	122	20	5	43	61	3.056
経済学部	6	27	60	6	4	47	160	3.243
医学部	2	16	55	12	2	35	35	3.046
理工学部	17	62	159	26	19	85	174	3.113
農学部	3	8	28	7	5	27	83	2.941

主題科目(第4分野)の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	54	217	377	58	29	208	513	3.284
文化教育学部	14	52	87	16	4	50	61	3.324
経済学部	11	51	60	4	6	18	160	3.432
医学部	2	18	57	12	2	31	35	3.066
理工学部	19	76	144	23	14	93	174	3.228
農学部	8	20	29	3	3	16	83	3.429

主題科目(第5分野)の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	40	163	376	66	37	259	513	3.151
文化教育学部	8	24	69	16	7	100	61	3.081
経済学部	4	26	50	9	8	53	160	3.093
医学部	2	14	59	9	2	36	35	3.058
理工学部	20	75	170	29	18	56	174	3.160
農学部	6	24	28	3	2	14	83	3.460

主題科目(第6分野)の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	48	160	371	58	37	267	513	3.184
文化教育学部	7	28	74	14	8	93	61	3.092
経済学部	8	36	45	10	5	46	160	3.308
医学部	3	15	53	9	2	38	35	3.098
理工学部	23	64	174	22	19	67	174	3.166
農学部	7	17	25	3	3	23	83	3.400

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

主題科目(共通分野)の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	26	66	263	44	29	513	513	3.037
文化教育学部	2	5	49	11	6	150	61	2.808
経済学部	5	11	37	4	4	88	160	3.148
医学部	1	12	55	8	2	43	35	3.026
理工学部	14	34	105	20	14	183	174	3.075
農学部	4	4	17	1	3	49	83	3.172

留学生対象の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	10	16	77	14	12	795	513	2.984
文化教育学部	1	1	12	5	2	199	61	2.714
経済学部	2	0	14	5	2	125	160	2.783
医学部	0	3	12	2	1	99	35	2.944
理工学部	5	11	35	2	6	303	174	3.119
農学部	2	1	4	0	1	69	83	3.375

専門基礎科目の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	56	241	471	100	49	25	513	3.169
文化教育学部	10	48	114	29	13	8	61	3.061
経済学部	9	37	81	18	5	2	160	3.180
医学部	9	45	48	6	2	11	35	3.482
理工学部	20	87	192	41	25	3	174	3.099
農学部	8	24	36	6	4	1	83	3.333

専門必修科目の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	55	243	458	124	51	15	513	3.136
文化教育学部	10	53	105	41	10	5	61	3.055
経済学部	7	33	81	21	7	2	160	3.081
医学部	10	46	52	5	2	7	35	3.496
理工学部	22	83	184	51	29	1	174	3.049
農学部	6	28	36	6	3	0	83	3.354

専門選択科目の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	58	243	429	120	52	41	513	3.150
文化教育学部	11	59	101	39	7	6	61	3.129
経済学部	7	34	82	19	8	2	160	3.087
医学部	10	35	48	8	2	18	35	3.417
理工学部	24	86	162	51	31	15	174	3.059
農学部	6	29	36	3	4	0	83	3.385

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

教職に関する科目の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	29	85	233	99	49	447	513	2.891
文化教育学部	6	40	91	38	16	32	61	2.906
経済学部	2	6	29	12	5	98	160	2.778
医学部	2	8	21	6	1	83	35	3.105
理工学部	17	26	82	35	18	189	174	2.938
農学部	2	5	10	8	9	45	83	2.500

どの程度の頻度でオフィスアワーを利用していますか？

	8～	4～7	2～3	1	0	N	未回収	平均
全学	18	22	77	88	483	251	513	1.552
文化教育学部	3	2	13	18	143	45	61	1.346
経済学部	2	4	10	13	85	37	160	1.465
医学部	1	1	5	8	37	71	35	1.481
理工学部	12	15	46	42	177	72	174	1.777
農学部	0	0	3	7	41	26	83	1.255

オフィスアワーを利用した目的で最も多かったものは？

	学修相談	生活相談	進路指導	その他	N	未回収
全学	145	14	22	39	265	513
文化教育学部	20	2	3	10	64	61
経済学部	20	2	5	4	41	160
医学部	5	3	5	3	55	35
理工学部	92	6	7	20	73	174
農学部	8	1	2	2	32	83

教員との相談方法で最も適しているのは？

	電子メール	面接随時	面接時間指定	その他	N	未回収
全学	102	423	155	21	170	513
文化教育学部	19	107	42	7	25	61
経済学部	13	71	22	1	30	160
医学部	12	43	12	1	40	35
理工学部	47	163	69	11	62	174
農学部	11	39	10	1	13	83

シラバスは科目選択の参考になりましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	118	251	219	136	92	79	513	3.205
文化教育学部	13	52	50	39	39	16	61	2.798
経済学部	25	46	30	20	10	11	160	3.427
医学部	24	28	31	10	5	15	35	3.571
理工学部	41	100	90	60	34	32	174	3.166
農学部	15	25	18	7	4	5	83	3.580

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

シラバスはどのような情報を得るために利用しましたか？

	授業の方法	授業の内容	試験の情報	その他	N	未回収
全学	56	405	319	28	76	513
文化教育学部	13	102	58	7	23	61
経済学部	10	72	46	2	11	160
医学部	4	66	23	4	14	35
理工学部	23	127	168	13	25	174
農学部	6	38	24	2	3	83

外国語科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	66	218	351	67	27	212	513	3.314
文化教育学部	14	41	64	21	7	75	61	3.231
経済学部	17	43	57	10	5	20	160	3.432
医学部	8	36	43	8	2	24	35	3.412
理工学部	20	77	161	23	11	76	174	3.247
農学部	7	21	26	5	2	17	83	3.426

健康・スポーツ科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	76	227	310	32	23	272	513	3.451
文化教育学部	16	55	67	6	6	72	61	3.460
経済学部	21	49	51	7	4	20	160	3.576
医学部	3	9	26	1	1	80	35	3.300
理工学部	28	92	138	15	10	85	174	3.399
農学部	8	22	28	3	2	15	83	3.492

情報処理科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	73	217	360	55	22	213	513	3.363
文化教育学部	15	48	71	11	4	73	61	3.396
経済学部	20	44	51	9	2	25	160	3.563
医学部	5	21	52	12	6	25	35	3.073
理工学部	25	86	154	20	9	74	174	3.333
農学部	8	18	32	3	1	16	83	3.468

主題科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	84	243	383	63	31	136	513	3.356
文化教育学部	20	63	76	15	5	43	61	3.436
経済学部	19	46	61	8	4	14	160	3.493
医学部	11	22	54	12	6	16	35	3.190
理工学部	25	88	163	23	13	55	174	3.285
農学部	9	24	29	5	3	8	83	3.443

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

専門必修科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	80	288	364	52	16	142	513	3.455
文化教育学部	12	50	82	17	3	58	61	3.311
経済学部	16	47	63	7	1	18	160	3.522
医学部	18	36	50	4	1	13	35	3.606
理工学部	26	122	144	20	11	45	174	3.409
農学部	8	33	25	4	0	8	83	3.643

専門選択科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	78	265	380	48	15	155	513	3.436
文化教育学部	14	49	81	17	4	57	61	3.315
経済学部	16	45	68	4	1	18	160	3.530
医学部	16	27	51	5	1	21	35	3.520
理工学部	25	113	152	18	9	51	174	3.401
農学部	7	31	28	4	0	8	83	3.586

教職に関する科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	30	111	251	39	14	494	513	3.234
文化教育学部	7	45	77	12	5	76	61	3.253
経済学部	4	13	31	6	1	97	160	3.236
医学部	1	13	25	4	1	76	35	3.205
理工学部	14	36	95	13	7	202	174	3.224
農学部	4	4	23	4	0	43	83	3.229

外国語科目(教養教育科目)の開講数は適切だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	54	78	613	96	54	34	513	2.980
文化教育学部	10	14	132	32	16	9	61	2.853
経済学部	10	12	108	13	4	1	160	3.075
医学部	5	11	71	11	7	17	35	2.962
理工学部	25	35	250	36	18	4	174	3.036
農学部	4	6	52	4	9	3	83	2.893

健康・スポーツ科目(教養教育科目)の開講数は適切だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	13	36	504	146	134	97	513	2.577
文化教育学部	2	8	127	35	32	10	61	2.574
経済学部	3	4	92	29	19	1	160	2.612
医学部	1	3	28	6	10	74	35	2.563
理工学部	5	16	213	64	60	10	174	2.559
農学部	2	5	44	12	13	2	83	2.618

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

情報処理科目(教養教育科目)の開講数は適切だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	18	67	571	157	64	52	513	2.792
文化教育学部	1	7	121	56	16	12	61	2.607
経済学部	4	5	90	37	10	2	160	2.699
医学部	5	19	67	7	5	19	35	3.117
理工学部	8	30	244	46	25	15	174	2.858
農学部	0	6	49	11	8	4	83	2.716

主題科目(教養教育科目)の開講数は適切だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	91	146	539	85	47	21	513	3.164
文化教育学部	17	36	123	24	8	5	61	3.144
経済学部	15	21	90	14	7	1	160	3.156
医学部	10	20	73	6	2	11	35	3.270
理工学部	41	59	203	34	27	4	174	3.146
農学部	8	10	50	7	3	0	83	3.167

教養教育科目の内、主題科目の選択は希望通りにいきましたか？

	はい	いいえ	N	未回収
全学	551	351	27	513
文化教育学部	122	85	6	61
経済学部	87	60	1	160
医学部	76	35	12	35
理工学部	214	146	8	174
農学部	52	25	0	83

主題科目の選択が希望通りに行かなかった場合どうしましたか？

	他科目の 受講	空時間に した	その他	N	未回収
全学	497	212	67	120	513
文化教育学部	105	56	22	24	61
経済学部	96	32	9	9	160
医学部	58	2	5	44	35
理工学部	192	111	23	33	174
農学部	46	11	8	10	83

最も望む外国語科目(英語以外)は何ですか？

	独語	仏語	中国語	朝鮮語	その他	N	未回収
全学	176	126	312	67	56	188	513
文化教育学部	29	29	57	17	21	61	61
経済学部	20	18	70	15	10	15	160
医学部	42	16	36	5	4	17	35
理工学部	73	52	110	26	18	86	174
農学部	12	11	39	4	3	9	83

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部局の真の平均を表していない。

リメディアル教育を最も望む科目は何ですか？

	国語	数学	英語	理科	その他	N	未回収
全学	69	142	304	99	15	284	513
文化教育学部	27	20	75	16	6	67	61
経済学部	9	32	61	2	4	39	160
医学部	1	7	19	15	0	77	35
理工学部	22	74	115	52	5	92	174
農学部	10	9	34	14	0	9	83

リメディアル教育を最も望む理科の科目は何ですか？

	物理	化学	生物	地学	その他	N	未回収
全学	48	39	27	4	4	122	513
文化教育学部	9	5	1	0	3	24	61
経済学部	1	3	2	0	0	17	160
医学部	3	2	12	2	0	47	35
理工学部	33	21	9	2	1	32	174
農学部	2	8	3	0	0	2	83

注) 平均値は有効回答の平均であり、各部署の真の平均を表していない。

付表 各アンケート項目の回答結果(修士課程・博士前期課程)

「学生便覧」等に記されている本学の目的を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	12	12	45	36	65	6	188	2.235
教育学研究科	3	0	3	2	6	0	38	2.429
経済学研究科	1	1	3	0	1	1	5	3.167
医学系研究科	0	3	4	1	0	0	19	3.250
工学系研究科	7	8	31	27	46	5	83	2.185
農学研究科	1	0	4	6	12	0	43	1.783

所属する研究科、専攻の教育目標を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	14	33	51	23	51	5	188	2.628
教育学研究科	4	1	3	1	5	0	38	2.857
経済学研究科	1	1	4	0	0	1	5	3.500
医学系研究科	0	6	2	0	0	0	19	3.750
工学系研究科	8	23	37	19	33	4	83	2.617
農学研究科	1	2	5	3	13	0	43	1.958

履修した授業科目の成績評価の基準を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	36	45	48	15	27	7	188	3.281
教育学研究科	2	2	6	0	3	1	38	3.000
経済学研究科	2	3	1	1	0	0	5	3.857
医学系研究科	0	2	4	0	2	0	19	2.750
工学系研究科	29	35	33	10	12	5	83	3.496
農学研究科	2	3	4	4	10	1	43	2.261

所属する研究科での修了認定の基準を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	77	50	28	9	11	1	188	3.989
教育学研究科	6	3	2	0	3	0	38	3.643
経済学研究科	2	4	1	0	0	0	5	4.143
医学系研究科	0	3	4	0	1	0	19	3.125
工学系研究科	57	39	19	5	3	1	83	4.154
農学研究科	12	1	2	4	4	0	43	3.565

施設・設備の利用の手引きや案内を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	21	36	55	38	25	1	188	2.943
教育学研究科	1	4	4	1	4	0	38	2.786
経済学研究科	2	1	3	1	0	0	5	3.571
医学系研究科	0	3	3	2	0	0	19	3.125
工学系研究科	15	24	39	29	16	1	83	2.943
農学研究科	3	4	6	5	5	0	43	2.783

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

ガイダンスによって本学で何を学修するか理解できましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	49	61	39	14	10	3	188	3.723
教育学研究科	7	3	3	1	0	0	38	4.143
経済学研究科	2	3	2	0	0	0	5	4.000
医学系研究科	3	4	1	0	0	0	19	4.250
工学系研究科	32	45	26	11	6	3	83	3.717
農学研究科	5	6	7	2	4	0	43	3.250

ガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいか理解できましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	82	60	22	7	5	1	188	4.176
教育学研究科	8	4	2	0	0	0	38	4.429
経済学研究科	2	5	0	0	0	0	5	4.286
医学系研究科	1	5	1	0	0	1	19	4.000
工学系研究科	57	40	16	7	4	0	83	4.121
農学研究科	14	6	3	0	1	0	43	4.333

大学院にもオフィスアワーは必要ですか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	23	20	44	17	27	43	188	2.962
教育学研究科	3	1	6	1	1	2	38	3.333
経済学研究科	2	1	4	0	0	0	5	3.714
医学系研究科	4	2	0	0	1	1	19	4.143
工学系研究科	10	10	32	14	21	34	83	2.701
農学研究科	4	6	2	2	4	6	43	3.222

講義室の設備・機器等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	51	49	45	18	13	1	188	3.608
教育学研究科	2	3	4	3	2	0	38	3.000
経済学研究科	1	2	2	1	0	1	5	3.500
医学系研究科	0	5	2	0	1	0	19	3.375
工学系研究科	37	32	32	14	9	0	83	3.597
農学研究科	11	7	5	0	1	0	43	4.125

スポーツ関連の設備・機器等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	13	12	38	52	41	21	188	2.385
教育学研究科	0	0	2	6	3	3	38	1.909
経済学研究科	2	1	2	1	0	1	5	3.667
医学系研究科	0	2	2	1	2	1	19	2.571
工学系研究科	8	9	28	39	29	11	83	2.363
農学研究科	3	0	4	5	7	5	43	2.316

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

実験室・実験器具等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	15	32	45	35	27	23	188	2.825
教育学研究科	0	0	3	2	1	8	38	2.333
経済学研究科	0	1	0	1	0	5	5	3.000
医学系研究科	1	2	2	2	1	0	19	3.000
工学系研究科	11	24	37	26	19	7	83	2.846
農学研究科	3	5	3	4	6	3	43	2.762

演習室の施設・設備等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	26	43	56	27	17	8	188	3.201
教育学研究科	1	2	2	5	3	1	38	2.462
経済学研究科	1	3	2	0	0	1	5	3.833
医学系研究科	1	2	3	0	2	0	19	3.000
工学系研究科	19	32	42	19	8	4	83	3.292
農学研究科	4	4	7	3	4	2	43	3.045

学修相談の体制について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	13	27	70	17	15	33	188	3.042
教育学研究科	1	4	3	4	1	1	38	3.000
経済学研究科	1	4	2	0	0	0	5	3.857
医学系研究科	0	2	3	0	2	1	19	2.714
工学系研究科	10	14	58	9	9	22	83	3.070
農学研究科	1	3	4	4	3	9	43	2.667

パソコンの数量(総合情報基盤センター)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	37	45	48	24	13	9	188	3.413
教育学研究科	3	5	4	2	0	0	38	3.643
経済学研究科	4	1	2	0	0	0	5	4.286
医学系研究科	1	4	1	1	0	1	19	3.714
工学系研究科	24	25	39	20	8	7	83	3.319
農学研究科	5	10	2	1	5	1	43	3.391

パソコンの数量(研究科)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	44	35	28	25	21	24	188	3.366
教育学研究科	3	4	2	2	2	1	38	3.308
経済学研究科	4	0	3	0	0	0	5	4.143
医学系研究科	0	2	1	2	1	2	19	2.667
工学系研究科	32	25	19	20	14	14	83	3.373
農学研究科	5	4	3	1	4	7	43	3.294

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

パソコンの数量(図書館)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	30	24	50	37	23	13	188	3.006
教育学研究科	1	1	3	8	1	0	38	2.500
経済学研究科	4	1	2	0	0	0	5	4.286
医学系研究科	0	3	1	2	1	1	19	2.857
工学系研究科	21	16	41	23	13	10	83	3.079
農学研究科	4	3	3	4	8	2	43	2.591

パソコンの数量(研究室)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	71	31	20	27	25	3	188	3.552
教育学研究科	3	2	3	3	3	0	38	2.929
経済学研究科	4	1	2	0	0	0	5	4.286
医学系研究科	0	1	1	3	2	1	19	2.143
工学系研究科	53	24	13	17	15	2	83	3.680
農学研究科	11	3	1	4	5	0	43	3.458

自習スペース(研究科)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	51	23	47	22	19	15	188	3.401
教育学研究科	4	3	1	1	4	1	38	3.154
経済学研究科	4	2	1	0	0	0	5	4.429
医学系研究科	1	1	2	2	2	0	19	2.625
工学系研究科	35	15	39	17	8	10	83	3.456
農学研究科	7	2	4	2	5	4	43	3.200

自習スペース(図書館)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	37	35	49	29	14	11	188	3.317
教育学研究科	2	1	3	6	2	0	38	2.643
経済学研究科	5	0	2	0	0	0	5	4.429
医学系研究科	0	2	2	2	1	0	19	2.714
工学系研究科	23	27	40	18	5	10	83	3.398
農学研究科	7	5	2	3	6	1	43	3.174

図書、学術雑誌、視聴覚資料に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	16	34	54	46	16	9	188	2.928
教育学研究科	1	3	3	4	3	0	38	2.643
経済学研究科	1	3	2	1	0	0	5	3.571
医学系研究科	0	1	2	5	0	0	19	2.500
工学系研究科	11	21	44	27	10	9	83	2.965
農学研究科	3	6	3	9	3	0	43	2.875

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

学生センター：学生生活課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	19	31	46	36	43	2	188	2.697
教育学研究科	1	3	3	5	2	0	38	2.714
経済学研究科	5	1	0	1	0	0	5	4.429
医学系研究科	1	5	0	0	1	1	19	3.714
工学系研究科	9	18	38	27	31	1	83	2.569
農学研究科	3	4	5	3	9	0	43	2.542

学生センター：教務課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	25	48	49	21	29	5	188	3.110
教育学研究科	2	6	3	1	2	0	38	3.357
経済学研究科	5	1	0	1	0	0	5	4.429
医学系研究科	0	5	1	0	1	1	19	3.429
工学系研究科	14	27	41	16	22	4	83	2.958
農学研究科	4	9	4	3	4	0	43	3.250

学生センター：就職課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	18	25	56	27	21	30	188	2.946
教育学研究科	2	2	1	4	3	2	38	2.667
経済学研究科	4	1	0	1	0	1	5	4.333
医学系研究科	0	4	0	1	1	2	19	3.167
工学系研究科	11	16	51	15	11	20	83	3.010
農学研究科	1	2	4	6	6	5	43	2.263

保健管理センターの事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	48	52	54	10	2	11	188	3.807
教育学研究科	4	3	4	2	0	1	38	3.692
経済学研究科	5	2	0	0	0	0	5	4.714
医学系研究科	0	6	0	0	0	2	19	4.000
工学系研究科	30	36	42	6	2	8	83	3.741
農学研究科	9	5	8	2	0	0	43	3.875

図書館の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	46	53	57	8	6	6	188	3.735
教育学研究科	5	4	3	1	0	1	38	4.000
経済学研究科	5	2	0	0	0	0	5	4.714
医学系研究科	1	5	2	0	0	0	19	3.875
工学系研究科	27	34	47	6	4	5	83	3.627
農学研究科	8	8	5	1	2	0	43	3.792

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

医学部:学生サービス課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	5	9	17	2	2	139	188	3.371
教育学研究科	0	0	0	0	0	14	38	---
経済学研究科	1	0	0	0	0	6	5	5.000
医学系研究科	1	6	0	0	1	0	19	3.750
工学系研究科	3	3	17	2	0	96	83	3.280
農学研究科	0	0	0	0	1	23	43	1.000

専門必修科目の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	32	57	59	19	7	3	188	3.506
教育学研究科	3	2	5	2	1	1	38	3.308
経済学研究科	3	4	0	0	0	0	5	4.429
医学系研究科	0	1	3	3	1	0	19	2.500
工学系研究科	19	44	45	12	2	2	83	3.541
農学研究科	7	6	6	2	3	0	43	3.500

専門選択科目の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	28	55	66	19	7	2	188	3.446
教育学研究科	4	3	5	1	0	1	38	3.769
経済学研究科	3	4	0	0	0	0	5	4.429
医学系研究科	0	3	4	1	0	0	19	3.250
工学系研究科	16	40	49	13	5	1	83	3.398
農学研究科	5	5	8	4	2	0	43	3.292

シラバスは科目選択の参考になりましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	30	57	39	24	16	10	188	3.367
教育学研究科	3	3	1	3	2	2	38	3.167
経済学研究科	4	0	2	0	0	1	5	4.333
医学系研究科	0	3	2	2	1	0	19	2.875
工学系研究科	20	47	28	14	9	5	83	3.466
農学研究科	3	4	6	5	4	2	43	2.864

シラバスはどのような情報を得るために利用しましたか？

	授業の方法	授業の内容	試験の情報	その他	N	未回収
全研究科	11	133	11	6	15	188
教育学研究科	1	11	0	0	2	38
経済学研究科	0	6	0	1	0	5
医学系研究科	0	5	0	1	1	19
工学系研究科	8	91	11	4	10	83
農学研究科	2	20	0	0	2	43

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

専門必修科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	21	60	60	11	3	22	188	3.548
教育学研究科	2	4	3	1	1	3	38	3.455
経済学研究科	2	3	2	0	0	0	5	4.000
医学系研究科	0	3	3	1	1	0	19	3.000
工学系研究科	12	43	47	7	0	15	83	3.550
農学研究科	5	7	5	2	1	4	43	3.650

専門選択科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	17	57	67	12	3	21	188	3.468
教育学研究科	2	3	4	1	1	3	38	3.364
経済学研究科	2	3	2	0	0	0	5	4.000
医学系研究科	0	3	3	1	1	0	19	3.000
工学系研究科	10	41	52	7	0	14	83	3.491
農学研究科	3	7	6	3	1	4	43	3.400

大学院で学修や研究する上で、基礎学力が不足していると感じることがありますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	54	86	27	10	0	0	188	4.040
教育学研究科	3	10	1	0	0	0	38	4.143
経済学研究科	0	4	2	1	0	0	5	3.429
医学系研究科	2	3	2	1	0	0	19	3.750
工学系研究科	39	58	20	7	0	0	83	4.040
農学研究科	10	11	2	1	0	0	43	4.250

指導教員は、適切な研究指導を行っていると思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	67	62	23	14	8	2	188	3.954
教育学研究科	6	4	2	1	0	0	38	4.154
経済学研究科	5	2	0	0	0	0	5	4.714
医学系研究科	0	2	2	1	3	0	19	2.375
工学系研究科	44	47	18	10	3	2	83	3.975
農学研究科	12	7	1	2	2	0	43	4.042

研究課題は、あなたの希望するものと一致していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	67	58	34	11	4	3	188	3.994
教育学研究科	6	5	2	1	0	0	38	4.143
経済学研究科	3	4	0	0	0	0	5	4.429
医学系研究科	2	3	0	1	1	1	19	3.571
工学系研究科	43	39	30	7	3	2	83	3.918
農学研究科	13	7	2	2	0	0	43	4.292

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

付表 各アンケート項目の回答結果(博士後期課程)

「学生便覧」等に記されている本学の目的を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	3	9	7	5	6	0	50	2.933
医学系研究科	2	5	4	2	5	0	26	2.833
工学系研究科	1	4	3	3	1	0	24	3.083

所属する研究科、専攻の教育目標を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	6	9	8	3	5	0	50	3.258
医学系研究科	2	5	5	2	4	0	26	2.944
工学系研究科	4	4	3	1	1	0	24	3.692

履修した授業科目の成績評価の基準を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	5	10	3	8	4	1	50	3.133
医学系研究科	2	5	1	6	4	0	26	2.722
工学系研究科	3	5	2	2	0	1	24	3.750

所属する研究科での修了認定の基準を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	6	13	5	4	3	0	50	3.484
医学系研究科	2	6	4	3	3	0	26	3.056
工学系研究科	4	7	1	1	0	0	24	4.077

施設・設備の利用の手引きや案内を知っていますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	4	12	8	5	1	1	50	3.433
医学系研究科	3	5	6	3	1	0	26	3.333
工学系研究科	1	7	2	2	0	1	24	3.583

ガイダンスによって本学で何を学修するか理解できましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	10	13	6	0	1	1	50	4.033
医学系研究科	4	10	3	0	1	0	26	3.889
工学系研究科	6	3	3	0	0	1	24	4.250

ガイダンスによって授業科目をどう履修したらよいか理解できましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	13	9	4	5	0	0	50	3.968
医学系研究科	4	9	2	3	0	0	26	3.778
工学系研究科	9	0	2	2	0	0	24	4.231

大学院にもオフィスアワーは必要ですか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	5	4	3	2	4	9	50	3.222
医学系研究科	3	3	2	1	0	8	26	3.889
工学系研究科	2	1	1	1	4	1	24	2.556

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

講義室の設備・機器等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	6	15	6	1	1	1	50	3.828
医学系研究科	3	8	5	1	0	1	26	3.765
工学系研究科	3	7	1	0	1	0	24	3.917

スポーツ関連の設備・機器等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	0	8	9	4	4	5	50	2.840
医学系研究科	0	6	7	2	2	1	26	3.000
工学系研究科	0	2	2	2	2	4	24	2.500

実験室・実験器具等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	1	12	7	3	2	5	50	3.280
医学系研究科	0	8	5	1	2	2	26	3.188
工学系研究科	1	4	2	2	0	3	24	3.444

演習室の施設・設備等は十分だと思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	2	10	10	0	2	6	50	3.417
医学系研究科	2	4	7	0	1	4	26	3.429
工学系研究科	0	6	3	0	1	2	24	3.400

学修相談の体制について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	2	10	9	1	0	7	50	3.591
医学系研究科	0	5	7	1	0	5	26	3.308
工学系研究科	2	5	2	0	0	2	24	4.000

パソコンの数量(総合情報基盤センター)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	4	4	9	1	1	12	50	3.474
医学系研究科	4	3	6	0	0	5	26	3.846
工学系研究科	0	1	3	1	1	7	24	2.667

パソコンの数量(研究科)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	3	7	10	2	2	7	50	3.292
医学系研究科	3	5	4	1	2	3	26	3.400
工学系研究科	0	2	6	1	0	4	24	3.111

パソコンの数量(図書館)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	4	5	9	3	1	8	50	3.364
医学系研究科	4	3	6	1	1	3	26	3.533
工学系研究科	0	2	3	2	0	5	24	3.000

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

パソコンの数量(研究室)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	6	7	6	5	3	3	50	3.296
医学系研究科	4	3	4	3	3	1	26	3.118
工学系研究科	2	4	2	2	0	2	24	3.600

自習スペース(研究科)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	5	8	5	3	4	5	50	3.280
医学系研究科	3	5	1	2	3	4	26	3.214
工学系研究科	2	3	4	1	1	1	24	3.364

自習スペース(図書館)に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	6	4	13	5	0	3	50	3.393
医学系研究科	5	2	7	2	0	2	26	3.625
工学系研究科	1	2	6	3	0	1	24	3.083

図書、学術雑誌、視聴覚資料に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	3	6	10	8	2	1	50	3.000
医学系研究科	2	3	6	5	1	0	26	3.000
工学系研究科	1	3	4	3	1	1	24	3.000

学生センター:学生生活課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	6	8	7	3	1	5	50	3.600
医学系研究科	4	4	4	2	0	4	26	3.714
工学系研究科	2	4	3	1	1	1	24	3.455

学生センター:教務課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	8	8	7	3	0	4	50	3.808
医学系研究科	4	4	4	2	0	4	26	3.714
工学系研究科	4	4	3	1	0	0	24	3.917

学生センター:就職課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	5	3	9	2	0	12	50	3.579
医学系研究科	3	3	3	2	0	7	26	3.636
工学系研究科	2	0	6	0	0	5	24	3.500

保健管理センターの事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	5	10	10	2	0	4	50	3.667
医学系研究科	3	7	5	1	0	2	26	3.750
工学系研究科	2	3	5	1	0	2	24	3.545

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

図書館の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	7	15	6	1	0	2	50	3.966
医学系研究科	4	7	5	1	0	1	26	3.824
工学系研究科	3	8	1	0	0	1	24	4.167

医学部:学生サービス課の事務職員の対応に満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	4	8	6	1	1	11	50	3.650
医学系研究科	4	6	5	1	1	1	26	3.647
工学系研究科	0	2	1	0	0	10	24	3.667

専門必修科目の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	8	11	8	2	0	2	50	3.862
医学系研究科	2	7	7	2	0	0	26	3.500
工学系研究科	6	4	1	0	0	2	24	4.455

専門選択科目の授業について満足していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	5	11	12	2	0	1	50	3.633
医学系研究科	1	7	8	2	0	0	26	3.389
工学系研究科	4	4	4	0	0	1	24	4.000

シラバスは科目選択の参考になりましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	4	10	7	4	2	4	50	3.370
医学系研究科	2	5	6	2	1	2	26	3.313
工学系研究科	2	5	1	2	1	2	24	3.455

シラバスはどのような情報を得るために利用しましたか？

	授業の方法	授業の内容	試験の情報	その他	N	未回収
全研究科	0	23	0	1	7	50
医学系研究科	0	13	0	0	5	26
工学系研究科	0	10	0	1	2	24

専門必修科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	6	9	7	0	2	7	50	3.708
医学系研究科	3	6	4	0	2	3	26	3.533
工学系研究科	3	3	3	0	0	4	24	4.000

専門選択科目の内容はシラバスに記載された学習目標に即していましたか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	6	9	8	0	2	6	50	3.680
医学系研究科	3	5	5	0	2	3	26	3.467
工学系研究科	3	4	3	0	0	3	24	4.000

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

大学院で学修や研究する上で、基礎学力が不足していると感じることがありますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	3	10	13	1	3	1	50	3.300
医学系研究科	1	8	7	0	2	0	26	3.333
工学系研究科	2	2	6	1	1	1	24	3.250

指導教員は、適切な研究指導を行っていると思いますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	16	7	7	1	0	0	50	4.226
医学系研究科	7	6	4	1	0	0	26	4.056
工学系研究科	9	1	3	0	0	0	24	4.462

研究課題は、あなたの希望するものと一致していますか？

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全研究科	14	11	6	0	0	0	50	4.258
医学系研究科	5	8	5	0	0	0	26	4.000
工学系研究科	9	3	1	0	0	0	24	4.615

注) 平均値は有効回答の平均であり、各研究科の真の平均を表していない。

平成 18 年度

佐賀大学 教員対象アンケート報告書

国立大学法人 佐賀大学

大学教育委員会・高等教育開発センター

2007 年 1 月

目 次

概 要	2
I . はじめに	3
II . 実施期間	3
III . 実施対象	3
IV . 実施方法	3
V . 回収率	3
VI . アンケート結果の解析	4
VII . 総括	13

付録

各アンケート項目の回答結果	
---------------------	--

15

記述式回答結果	20
---------------	----

概 要

本報告書は、平成 18 年度に佐賀大学教員を対象に実施したアンケート結果及び解析結果を記載したものである。11 のアンケート項目は、大学機関別認証評価の基準の中から、佐賀大学における教育の実態を明らかにするものを選択し設定した。項目の選択にあたっては、大学教育委員会の 3 専門委員会の委員長が提案し、各専門委員会で決定した。それら項目は、本学の目的、シラバスの利用状況、学習相談・助言、オフィスアワーの活用促進案、オフィスアワーの設置意義、オフィスアワーの代替措置、施設・設備の運用、FD 講演会・研修会への参加状況、FD 講演会・研修会の有効性、授業評価アンケートの活用、授業改善事例である。アンケートは 7 月に実施され、全学で約半数の教員から回答を得た。

大学の目的は、3割程度の教員が把握しているにすぎず、所属が大きくなるほど、また、

学部よりも大学院で把握度が低下した。シラバスは、授業内容を学生に知らせるために利用されているが、大学院ではその実施率が低下する。教員は、年に10回から20回の頻度で、1回当り30分から1時間の相談・助言を学生に行っている。その対象は絶対数としては一般学生が圧倒的多数だが、学生数当りでは留学生や社会人の方が多かった。学部別では、文化教育学部で留学生の相談が多く、理工学部と医学部では一般学生の相談が多かった。相談・助言の内容は全学的には学修に関することが主であり、文化教育学部と医学部では生活や進路に関する相談が比較的多く、その方法はオフィスアワーを含む面談形式が主であった。オフィスアワーに関しては、その価値が必ずしも認められているわけではなく、オフィスアワー時に在室できない場合には不在連絡をするに留まっており十分な対処はなされていない。教育課程に必要として学内施設・設備が整備されているにも関わらず、それらを使用できない教員が多かった。ファカルティ・ディベロップメントに関しては、全学平均で講演会には2年に1回、研修会には0.5回の割合で参加していて、また、それらの会は役に立つと考えている教員の割合が多かった。授業評価アンケートに基づいて様々な方法で授業改善がなされており、学生による授業評価アンケートが多くの教員に有効活用されていることが明らかとなった。

Ⅰ．はじめに

大学は、学生教育という大きな使命を担っている。それを果たすために、すなわち、より良い教育を施すためには、不断の教育改善が必要となる。さらに、平成16年度からは学校教育法に基づいて大学機関別認証評価制度が施行され、これにより大学での教育活動状況が社会から評価され、その評価を踏まえて大学が自ら改善を図る仕組みが構築された。いずれにしろ、組織的に教育体制が整備され実施されていることが、現在、大学には求められている。その達成の一手段として、教育の実施状況を調査・解析することが重要となる。

今回は、佐賀大学における教育活動の現状を明らかにし、その結果を改善に結びつけることを目的に、教員を対象にアンケート調査を行った。本報告書は、その調査結果と解析結果をまとめたものである。なお、本報告書と同様の目的で、学生を対象にしたアンケート

調査解析も並行して行われ、佐賀大学学生対象アンケート報告書としてまとめられている。
両アンケート結果が佐賀大学の教育改善に役立つことを望むものである。

II . 実施期間

平成 18 年 7 月 1 日～31 日

III . 実施対象

佐賀大学の常勤教員で、教授、助教授、講師とした。

IV . 実施方法

教務課教育支援係からアンケート用紙を各部局に配布し、部局において各教員に配布した。回収は、部局で集めた後、教務課教育支援係に送り、データ入力教務課で行った。

V . 回収率

表 1 に、各部局での本アンケートの回収率を示す。回収率は、全学 54 %、文化教育学部 34 %、経済学部 62 %、医学部 67 %、理工学部 50 %、農学部 35 %、センター53 %であった。全体像を把握するためにはせめて過半数の回答が必要であり、その点からは経済学部と医学部が何とか適合するが、文化教育学部と農学部のデータはそれぞれの学部の状況を反映しているとは言い難く、偏った結果に基づく解析に成らざるを得なかった。アンケートを実のあるものとするためには、アンケートの意義、さらに、認証評価をはじめとした評価により大学における教育活動が社会に晒され、社会により大学が評価されることを教員に理解させる必要がある。

表 1 教員対象アンケート回収率

	教員数	回収枚数	回収率(%)
全学	692	372	53.8
文化教育学部	119	41	34.5
経済学部	50	31	62.0

医学部	266	178	66.9
理工学部	147	74	50.3
農学部	57	20	35.1
センター	53	28	52.8

教員数は平成 18 年 5 月 1 日時点でのデータ

VI. アンケート結果の解析

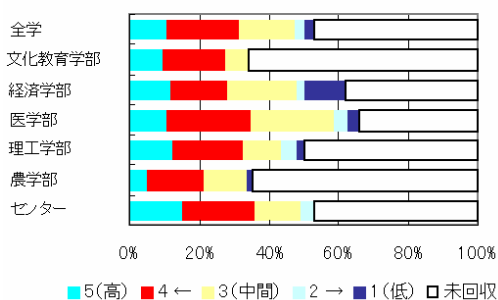
1) 大学の目的について

大学の構成員(ここでは教員)に大学の目的が周知されているかを、大学、教養教育(全体)、教養教育(所属分野)、学部、学科・課程、修士(博士前期)課程、博士後期課程毎に調査したものである。

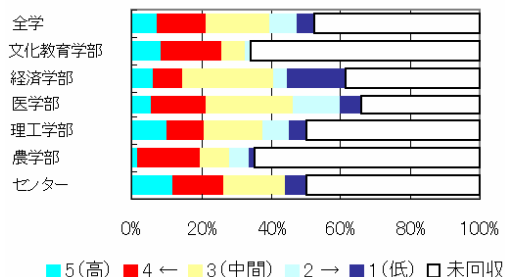
「本学の目的を把握していますか。」

図 1-1、1-2、1-3、1-4、1-5、1-6、1-7 はそれぞれ、大学、教養教育(全体)、教養教育(所属分野)、学部、学科・課程、修士(博士前期)課程、博士後期課程の目的を教員がどれだけ把握しているかを示した結果である。全学平均では、把握しているという 5 と 4 を合わせた回答は大学の目的では 31%、教養教育(全体)の目的では 21%、教養教育(所属分野)の目的では 27%、学部の目的では 38%、学科・課程の目的では 40%、修士(博士前期)課程の目的では 31%、博士後期課程では 23% であった。これは、所属領域が狭くなるに伴って教員にとって身近になるためか目的の認知度は高くなり、また、教育よりも研究を重視し、教育意識が下がるためか学部 に比べて大学院の目的の認知度は低くなる。部局別に見ると、文化教育学部は博士後期課程を例外として、目的の認知度が非常に高い。

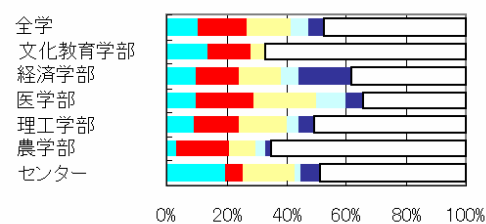
1-1. 本学の目的を把握していますか。(大学)



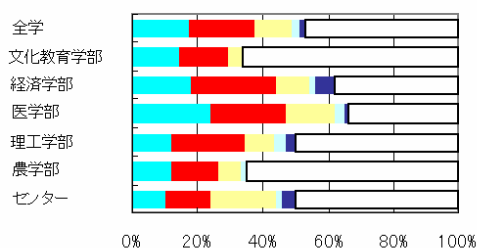
1-2. 本学の目的を把握していますか。
(教養教育(全体))



1-3. 本学の目的を把握していますか。
(教養教育(所属))



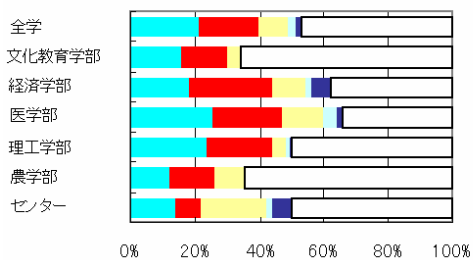
1-4. 本学の目的を把握していますか。(学部)



5(高) 4 3(中間) 2 1(低) 未回収

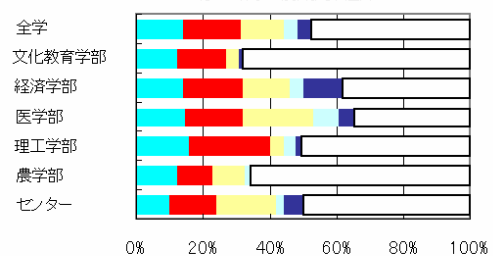
5(高) 4 3(中間) 2 1(低) 未回収

1-5. 本学の目的を把握していますか。(学科・課程)



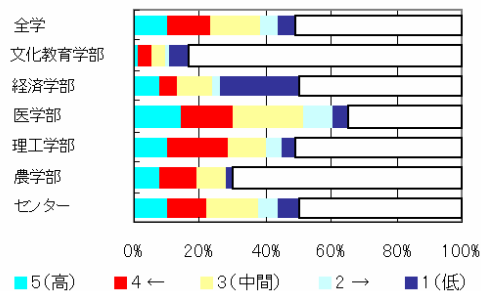
5(高) 4 3(中間) 2 1(低) 未回収

1-6. 本学の目的を把握していますか。
(修士(博士前期)課程)



5(高) 4 3(中間) 2 1(低) 未回収

1-7. 本学の目的を把握していますか。
(博士後期課程)



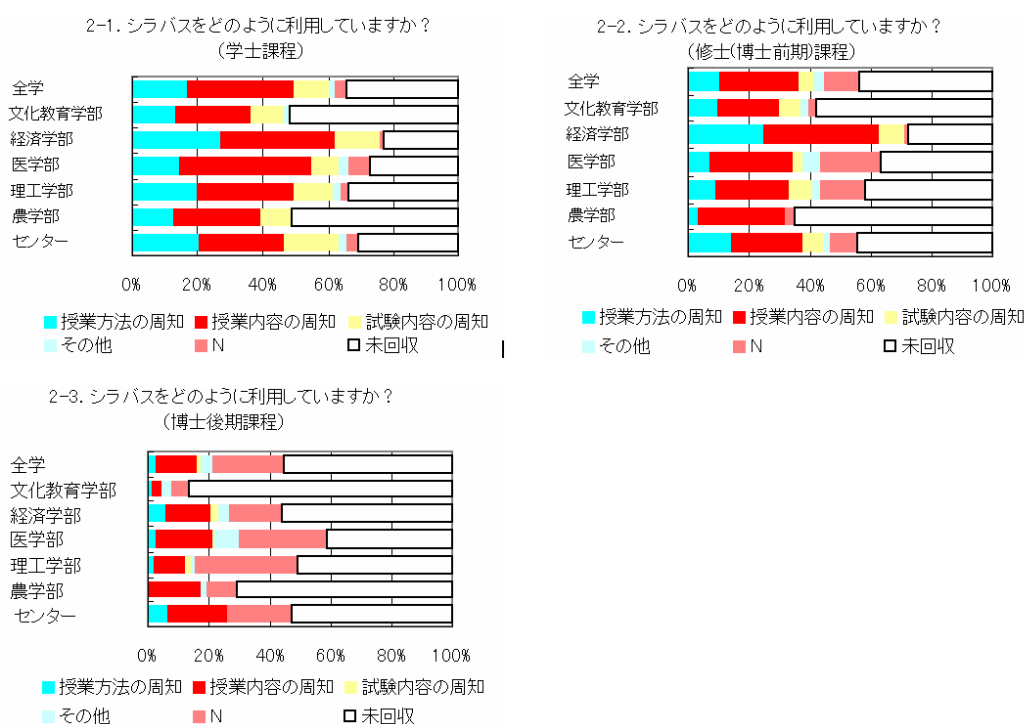
5(高) 4 3(中間) 2 1(低) 未回収

2) 教育方法について

授業を行う上で、その目標、内容、評価方法を学生に周知させることは、学生が学習するための動機づけとして極めて重要である。シラバスの利用は、その一手段である。ここでは、学士課程、修士(博士前期)課程、博士後期課程の各課程において、教員によるシラバス活用状況を調査した。

「シラバスをどのように利用していますか。」

図 2-1、2-2、2-3 にそれぞれ、学士課程、修士(博士前期)課程、博士後期課程におけるシラバスの利用方法を示した。利用方法の中では、いずれの部局、課程においても「授業内容の周知」の割合が最も多く、その割合は全学平均で学士課程 32%、修士(博士前期)課程 26%、博士後期課程 14%であり、シラバスが主に授業内容を知らせるために利用されていることが分かる。なお、大学院でその割合が減少するのは、以下に述べる「利用していない」割合が増えるために、相対的に減少するためである。方法の中で「全く利用していない」という回答が、全学平均で学士課程 3%、修士(博士前期)課程 12%、博士後期課程 23%であり、大学院、特に、博士後期課程になるとシラバスの利用率が減少しており、これは各部局とも同様の傾向である。大学院では、授業による教育が軽視されていることを反映する結果と考えられる。

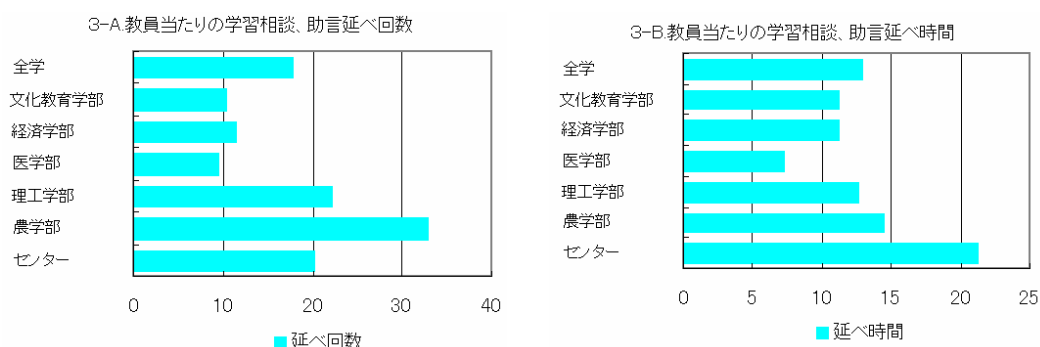


3) 学生支援について

学生が大学生活の中で直面する問題を解決するために、大学が備えている支援状況を調査したものである。

「学習相談、助言等に関する、平成 17 年度実績（おおよその延べ回数と延べ時間）を回答して下さい。」

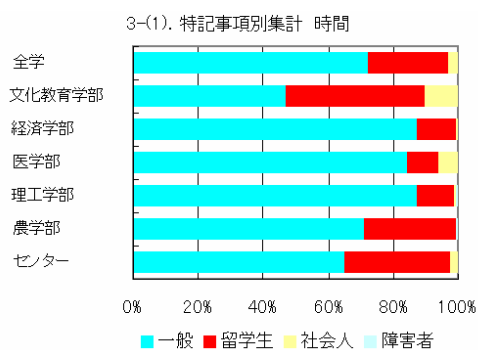
先ず、教員が学習に関して相談、助言を行った延べ回数と延べ時間をそれぞれ、図 3-A、3-B に示す。平成 17 年度における教員当たりの延べ回数は、全学平均で 18 回、理工学部、農学部、センターが平均を上回って 20 回以上、文化教育学部、経済学部、医学部が平均を下回り約 10 回であった。一方、延べ時間は、医学部だけが全学平均の 13 時間を下回る 7 時間であったが、他の部局は十数時間で平均並、センターのみが 21 時間と長時間であった。これらから、1 回当たりの時間を考えてみると、文化教育学部、経済学部、センターが 1 時間、他の部局はその半分程度である。従って、文化教育学部、経済学部は相談助言の回数は多くないものの時間をかけている、医学部は回数、時間とも比較的小さい、という結果となった。



次に、相談や助言を対象者、内容、方法別に集計した結果を示す。

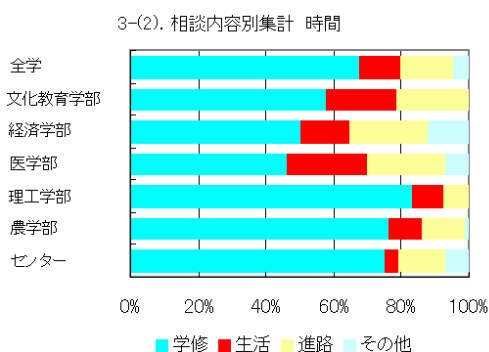
(1)特記事項別集計

図 3-(1)は、相談助言の対象者を比較した結果である。全学平均では、一般学生 72%、留学生 25%、社会人 3%であり、一般学生の割合が非常に高い。しかし、学生数当たりで見ると、留学生や社会人の割合が高くなるであろう。学部別では、文化教育学部では留学生の相談が 43%と多く、逆に理工学部(88%)と医学部(85%)では一般学生の相談が多い。なお、理工学部と農学部には障害者が在籍しているために、彼らの相談・助言が結果に含まれている。



(2) 相談内容別集計

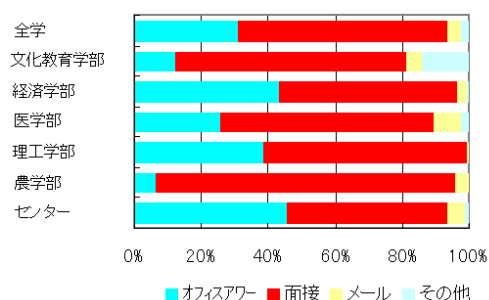
図 3-(2)は、内容別に集計した結果である。全学平均では、学修 67%、生活 12%、進路 16%、その他 5%であった。全学的には相談・助言の内容は学修に関することが主であるが、文化教育学部と医学部では、学修に加えて生活や進路に関する相談も比較的多いことが分かる。



(3) 方法別集計

図 3-(3)は、方法別に集計した結果である。全学平均で 93%がオフィスアワーと面接といった面談形式であり、学部別でも文化教育学部の 82%から理工学部の 99%と、面談の占める割合が非常に高い。なお、全ての部局において面談に占めるオフィスアワーの割合はさほど大きくなく、文化教育学部と農学部はその傾向が顕著である。この結果は、この後のオフィスアワーに関するアンケート結果でも示されるように、オフィスアワーの定義を理解していない教員が多いことに起因していると思われる。

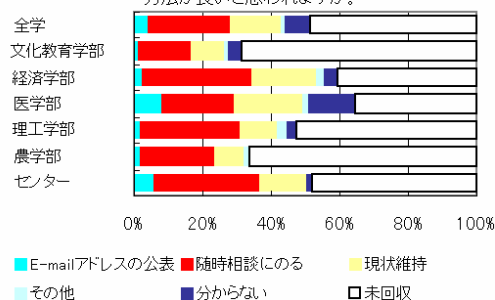
3-(3). 相談内容別集計 時間



「オフィスアワーの活用を促進するためには、どのような方法が良いと思われますか。」

図 4 は、オフィスアワーを活用するための促進方法は何が良いかの回答結果である。「E-mail アドレスの公表」が 4%、「随時相談にのる」24%、「現状維持」15%、「その他」2%、「分からない」7%であり、随時相談が多数意見であったが、現状維持という意見も比較的多かった。ただし、この設問に対する回答の選択肢は不適切であったと思われる。つまり、学生の相談は随時対応することが基本であり、その特別措置としてオフィスアワーが位置付けられるので、オフィスアワーの活用を促進する方法の選択肢として随時相談が設定されるのは不適切である。選択肢としては、「随時相談にのる」ではなくて、「学生に周知徹底する」であろう。

4. オフィスアワーの活用を促進するには、どのような方法が良いと思われますか。

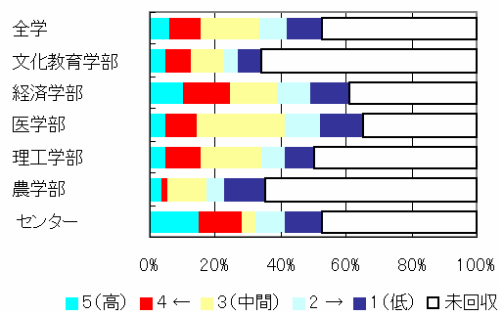


「オフィスアワーの設置意義はあると思われますか。」

図 5 は、オフィスアワーそのものの賛否を問うた結果である。ある方が良いという5と4の回

答は15%、ない方が良いという2と1の回答は19%であり、特に差はないと考えられる。ただし、オフィスアワーの賛否に関する本質問は、次の設問とも関係するが、その定義が理解されていないという現状を含んだ結果であることに留意する必要がある。

5. オフィスアワーの設置意義はあると思われますか。



「オフィスアワー時に在室できない場合（出張等）には、どんな措置をとっていますか。」

本項目は、記述式回答である。不適切な回答も含めて、すべての回答を巻末に記載した。措置としては、不在連絡が非常に多く、その他には、メールによる応答、時間帯の変更、が多かった。不在を伝えることは学生に無駄な足労をさせないために必要ではあるが、十分な対処とは言えず、その代替措置が必要であろう。また、メールは単なる連絡手段としては有効であるが、相談と言うような、相互の考えに基づき解決策を見出す作業には必ずしも適切な手段ではない。従って、不在を連絡した上で他の日時を指定すること、ただし、緊急であればメールを利用することが妥当な措置と考えられる。なお、回答内容から、オフィスアワー制度を理解していない教員が少なからずいることが明らかとなった。教員は随時学生の相談に応じる姿勢が基本であり、その上に、会える可能性が高い時間帯を指定して学生に知らせる、すなわち、学生の時間を無駄にさせない措置がオフィスアワーである。教員にオフィスアワー制度を理解させた上で、教員が第1回目の授業でシラバスを説明する際に学生に正しく伝えることが必要である。

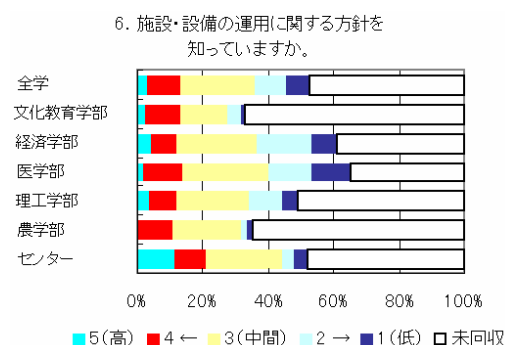
4) 施設・設備について

教育課程に必要とされ、学内に設置されている施設・設備、例えば、講義室のマイク、ア

ンプ、プロジェクターが有効に機能しているかを、教員の周知に基づいて調査した。

「日頃から良く使用・利用している施設・設備の運用に関する方針（利用の手引き、規程、案内等）を知っていますか。」

図 6 は、施設・設備の運用に関する教員の認知度である。全学平均では、知っているという 5 と 4 の回答は 13%、知らないという 2 と 1 の回答は 16% でほぼ同程度であるが、経済学部と医学部では知らない割合が知っている割合の 2 倍であった。本項目の結果から、利用すべき施設・設備の運用方法を知らない、すなわち、使用できない教員が多いことが明らかになり、早急な対応が必要と思われる。



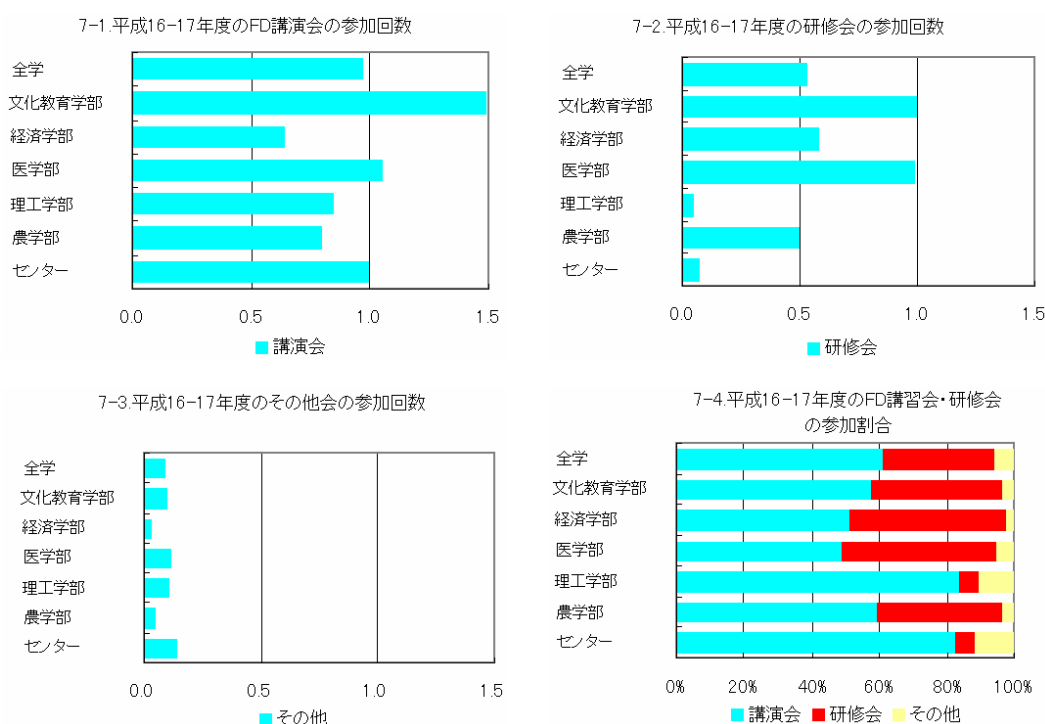
5) 教育の質の向上及び改善のためのシステムについて

点検・評価及び改善・向上を図るための体制が整備されていて、実施され、機能しているかを調査したものである。

「平成 16-17 年度に、FD 講演会・研修会等に参加しましたか。」

図 7-1、7-2、7-3、7-4 にそれぞれ、平成 16 と 17 年度において FD 講演会に参加した回数、FD 研修会に参加した回数、その他の会に参加した回数、それらの割合を示す。全学平均では、FD 講演会には 2 年に 1 回、FD 研修会には 0.5 回、その他の会には 0.05 回の割合で参加しているという結果であり、参加回数は少ないと見なすべきであろう。その原因は、FD 活動に無関心か、あるいは、このような会が FD に必ずしも寄与しないと考えている教員が

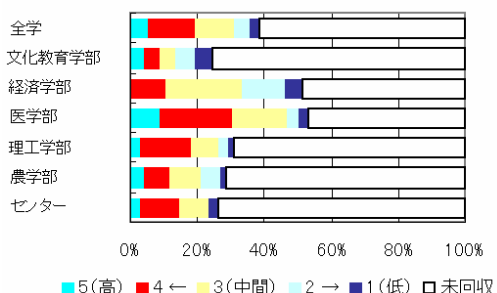
多いかであろう。FD 講演会への参加は文化教育学部が多く経済学部が少なく、FD 研修会は文化教育学部と医学部が多く理工学部とセンターが少なかった。これから、文化教育学部の教員はこれらの活動に良く参加していることを示している。また、理工学部とセンターの教員は、研修会よりも講演会への参加が圧倒的に多く、他の部局ではどちらにも均等に参加しているという結果であった。



「参加者におたずねします。FD 講演会・研修会等は役に立ちましたか。」

図8は、教員が考えるFD 講演会・研修会等の有用性を示している。全学平均では、役に立つという5と4の回答は19%、役に立たないという2と1の回答は8%で、役に立つと考えている教員の割合が多く、部局別では理工学部と医学部がその傾向が顕著である。しかし、文化教育学部と経済学部は役に立たないと考えている教員の割合が比較的高く、これらの活動に懐疑的であることがうかがえる。

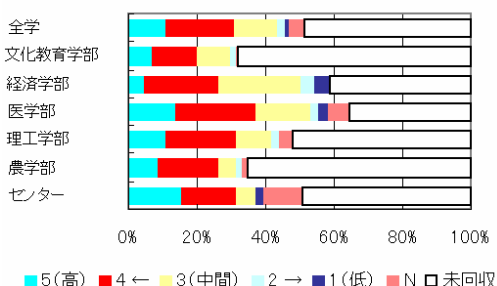
8.FD講演会・研修会等は役に立ちましたか。



「学生による授業評価アンケートを自分の授業に役立てていますか。」

図9は、授業評価アンケートの利用状況である。全学平均では、役立てているという5と4の回答は31%、役立てていないという2と1の回答は4%で、部局別でも同様の結果であることから、多くの教員が有効活用していることが分かり、授業改善がアンケートの目的であることが理解されているように思われる。

9.学生による授業評価アンケートを自分の授業改善に役立てていますか。



「学生による授業評価アンケートの結果、授業が改善された事例があれば答え
て下さい。」

本項目は、記述式回答である。不適切な回答も含めて、すべての回答を巻末に記載した。授業評価アンケートの学生の意見に基づき、板書方法や話し方を改善した、授業進度、OHPの取り替え速度や内容を再検討したという例が数多くあげられており、学生による授業評価アンケートに基づいて授業改善がなされていることがうかがえる。また、学生に課題を提出したり、小テストを行うことで学生の理解度を把握するようになった事例も幾つかあり、学生による授業評価アンケートが教員の授業への取り組みを活性化させていると考えられ

る。

VII．総括

アンケート調査の有効性は、回収率の高さが一要件である。しかし、今回のアンケート回収率は全体で5割、学部によっては3割と非常に低かった。その大きな原因は、アンケートの目的が教員に理解されていないことと考えられる。次回は、実施目的の周知徹底だけでなく、認証評価をはじめとした評価の重大性も教員に理解される必要があり、教授会等においてアンケート全体的及び項目ごとの事前説明を徹底すべきであろう。

今回のアンケート調査・解析により、今後、様々な教育に関する取り組みが必要と考えられる。1)大学の目的、特に、所属学科・課程のみならず大学全体の目的、さらに、大学院の目的を全教員が理解すること。2)教養教育や大学院科目を例外とせず、全開講科目のシラバスを教員が作成し学生に周知すること。3)大学の施設・設備の運用方法は教員が理解しておくこと。4)教員にオフィスアワー制度を理解させ、その適切な活用を含む学生相談の体制を確立する。5)FD 活動に積極的に参加する。6)学生による授業評価アンケートを授業改善に結びつけるさらなる方策を検討し実施する。

教育整備はまさにこれからであり、佐賀大学教員のなご一層の奮起が望まれる。

付録 各アンケート項目の回答結果

1. 本学の目的を把握していますか。

大学

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	未回収	平均
全学	73	141	111	19	18	320	3.6
文化教育学部	11	21	8	0	0	78	4.1
経済学部	6	8	10	1	6	19	3.2
医学部	27	63	62	10	8	88	3.5
理工学部	18	29	17	6	3	73	3.7
農学部	3	9	7	0	1	37	3.7
センター	8	11	7	2	0	25	3.9

教養教育 (全体)

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	未回収	平均
全学	49	96	125	52	35	320	3.2
文化教育学部	10	20	8	2	0	78	4.0
経済学部	3	4	13	2	8	19	2.7
医学部	14	40	65	34	16	88	3.0
理工学部	15	15	25	11	7	73	3.3
農学部	1	10	5	3	1	37	3.4
センター	6	7	9	0	3	25	3.5

教養教育 (所属分野)

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	未回収	平均
全学	71	108	103	38	35	320	3.4

文化教育学部	16	17	6	0	0	78	4.3
経済学部	5	7	7	3	9	19	2.9
医学部	25	49	53	26	14	88	3.3
理工学部	13	22	23	6	8	73	3.4
農学部	2	10	5	2	1	37	3.5
センター	10	3	9	1	3	25	3.6

学部

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	未回収	平均
全学	118	138	75	18	11	320	3.9
文化教育学部	17	18	5	0	0	78	4.3
経済学部	9	13	5	1	3	19	3.8
医学部	62	60	38	9	2	88	4.0
理工学部	18	32	13	6	4	73	3.7
農学部	7	8	4	1	0	37	4.1
センター	5	7	10	1	2	25	3.5

学科・課程

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	未回収	平均
全学	143	125	64	15	11	320	4.0
文化教育学部	19	16	5	0	0	78	4.4
経済学部	9	13	5	1	3	19	3.8
医学部	66	55	33	11	4	88	4.0
理工学部	35	29	6	2	1	73	4.3
農学部	7	8	5	0	0	37	4.1
センター	7	4	10	1	3	25	3.4

修士（博士前期）課程

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	未回収	平均
全学	93	117	85	28	25	320	3.6
文化教育学部	14	17	4	0	1	78	4.2
経済学部	7	9	7	2	6	19	3.3
医学部	37	43	54	19	12	88	3.4
理工学部	23	35	6	5	3	73	4.0
農学部	7	6	5	1	0	37	4.0
センター	5	7	9	1	3	25	3.4

博士後期課程

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	未回収	平均
全学	64	84	92	34	37	320	3.3
文化教育学部	1	4	4	1	6	78	2.6
経済学部	3	2	4	1	9	19	2.4
医学部	36	40	54	22	12	88	3.4

理工学部	15	26	17	7	6	73	3.5
農学部	4	6	5	0	1	37	3.8
センター	5	6	8	3	3	25	3.3

2. シラバスをどのように利用していますか。(複数回答可)

学士課程

	授業方法の 周知	授業内容の 周知	試験内容の 周知	その他	N	未回収
全学	158	299	100	20	32	320
文化教育学部	20	35	15	3	0	78
経済学部	22	29	11	0	1	19
医学部	47	132	27	10	23	88
理工学部	43	63	26	5	5	73
農学部	9	19	7	0	0	37
センター	17	21	14	2	3	25

修士（博士前期）課程

	授業方法の 周知	授業内容の 周知	試験内容の 周知	その他	N	未回収
全学	73	189	39	25	84	320
文化教育学部	13	27	9	4	3	78
経済学部	17	26	6	0	1	19
医学部	17	65	7	15	47	88
理工学部	16	42	13	5	26	73
農学部	2	16	0	0	2	37
センター	8	13	4	1	5	25

博士後期課程

	授業方法の 周知	授業内容の 周知	試験内容の 周知	その他	N	未回収
全学	14	81	5	23	136	320
文化教育学部	1	3	0	3	5	78
経済学部	2	5	1	1	6	19
医学部	5	40	2	16	61	88
理工学部	3	15	2	2	49	73
農学部	0	9	0	1	5	37
センター	3	9	0	0	10	25

3. 学習相談、助言等に関する、平成 17 年度実績（おおよその延べ回数と延べ時間）を回答して下さい。（ここで言うオフィスアワーは、予め週 1 回程度の頻度で相談に応じる日時を指定しているものを言います。）

延べ回数、延べ時間

	延べ回数	延べ時間
全学	18	13
文化教育学部	11	11
経済学部	12	11
医学部	10	7
理工学部	22	13
農学部	33	15
センター	20	21

(1) 特記事項別集計

	一般	留学生	社会人	障害者	平均
全学	9.4	3.2	0.4	0.0	3.3
文化教育学部	5.2	4.8	1.2	0.0	2.8
経済学部	9.9	1.4	0.1	0.0	2.8
医学部	6.2	0.7	0.4	0.0	1.8
理工学部	11.1	1.4	0.1	0.1	3.2
農学部	10.4	4.1	0.0	0.1	3.6
センター	13.9	6.9	0.5	0.0	5.3

(2) 相談内容別集計

	学修	生活	進路	その他	平均
全学	8.9	1.6	2.1	0.6	3.3
文化教育学部	6.6	2.4	2.4	0.0	2.9
経済学部	5.6	1.6	2.6	1.4	2.8
医学部	3.7	1.9	1.9	0.5	2.0
理工学部	11.9	1.3	1.0	0.0	3.6
農学部	11.1	1.5	1.8	0.2	3.6
センター	14.7	0.7	2.8	1.3	4.9

(3) 方法別集計

	オフィスアワー	面接	メール	その他	平均
全学	22	44	3	2	17.7
文化教育学部	1.1	6.0	0.4	1.2	2.2
経済学部	4.9	6.0	0.4	0.1	2.8
医学部	1.8	4.5	0.6	0.2	1.8
理工学部	4.6	7.2	0.1	0.0	3.0
農学部	0.8	11.1	0.5	0.0	3.1
センター	8.9	9.3	1.1	0.2	4.8

4. オフィスアワーの活用を促進するために、どのような方法が良いと思われますか。

	E-mailアドレスの公	随時相談にのる	現状維持	その他	分からない	未回収
--	--------------	---------	------	-----	-------	-----

	表					
全学	28	154	97	11	45	320
文化教育学部	1	18	11	1	5	78
経済学部	1	15	9	1	2	19
医学部	20	52	50	4	33	88
理工学部	2	41	15	4	4	73
農学部	1	12	5	1	0	37
センター	3	16	7	0	1	25

5. オフィスアワーの設置意義はありますか。

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	未回収	平均
全学	40	65	123	57	73	320	2.8
文化教育学部	6	9	12	5	8	78	3.0
経済学部	5	7	7	5	6	19	3.0
医学部	12	25	68	28	33	88	2.7
理工学部	7	16	27	11	13	73	2.9
農学部	2	1	7	3	7	37	2.4
センター	8	7	2	5	6	25	3.2

7. 日頃から良く使用・利用している施設・設備の運用に関する方針(利用の手引き、規程、案内等)を知っていますか。

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	未回収	平均
全学	20	70	153	64	46	320	2.9
文化教育学部	3	12	17	5	1	78	3.3
経済学部	2	4	12	8	4	19	2.7
医学部	4	31	68	33	31	88	2.7
理工学部	5	12	32	15	7	73	2.9
農学部	0	6	12	1	1	37	3.2
センター	6	5	12	2	2	25	3.4

8. 平成 16-17 年度に、FD 講演会・研修会等に参加しましたか。

	講演会	研修会	その他	平均
全学	1.0	0.5	0.1	0.5
文化教育部	1.5	1.0	0.1	0.9
経済学部	0.6	0.6	0.0	0.4
医学部	1.1	1.0	0.1	0.7
理工学部	0.9	0.1	0.1	0.3
農学部	0.8	0.5	0.1	0.5
センター	1.0	0.1	0.1	0.4

9. 参加者におたずねします。FD 講演会・研修会等は役に立ちましたか。

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	未回収	平均
--	------	-----	-------	-----	------	-----	----

全学	26	74	61	24	16	320	3.3
文化教育学部	4	5	5	6	5	78	2.9
経済学部	0	4	9	5	2	19	2.8
医学部	16	41	30	7	5	88	3.6
理工学部	3	16	9	3	2	73	3.5
農学部	2	4	5	3	1	37	3.2
センター	1	4	3	0	1	25	3.4

10. 学生による授業評価アンケートを自分の授業改善に役立てていますか。

	5(高)	4 ←	3(中間)	2 →	1(低)	N	未回収	平均
全学	72	130	83	14	10	29	320	4.0
文化教育学部	8	15	11	2	0	1	78	4.3
経済学部	2	10	11	2	2	0	19	4.2
医学部	34	58	40	6	7	15	88	3.9
理工学部	15	29	15	3	0	6	73	4.2
農学部	5	10	3	1	0	1	37	4.4
センター	8	8	3	0	1	6	25	3.3

記述回答結果

6. オフィスアワー時に在室できない場合(出張等)には、どんな措置をとっていますか？

文化教育学部

- ・別の時間に来室するように掲示。担当授業時間割も掲示。
- ・オフィスアワーには来ない(ことが多い)
- ・極力空けないようにしている。講義の時に前もって連絡している。
- ・筆談用のメモを用意し、対応している
- ・オフィスアワー時は、学生も授業があり、その時間に相談に来ることはまずない。
- ・随時来るように指導している。
- ・オフィス・アワーの日時であると否とを問わず、事前アポイントメントを取って来ていただくよう電子メールアドレスを公開のうえ、アポ取得を付記している。
- ・メールで面会可能な日時を確認する。
- ・随時相談にのるため、とくに措置はとっていない。
- ・特に行なっていない。卒論生のためには、メールで予め連絡しておいた。
- ・必ず在室した。
- ・ドアにはり紙で掲示
- ・事前に予約してもらい、学生と相談の上、相談の日時を決定している。
- ・メールでアポをとるよう指示。
- ・研究室前に掲示
- ・相互に可能な時間を設定する
- ・常に在室する様に徹底している。在室できない場合、学生に事前にメール等で周知徹底するようにしたい。
- ・出せと云われているので出していますが、ほぼ個人レッスンで毎回問題がある時はその時に話しています
- ・残念ながらこのシステムの周知が不十分なために、利用の前例がなく、出張等のた

- ・めに不在の場合でも特に問題がないと考え、とくに措置をとっていない。
- ・研究室の入口に掲示する等の対応を考えているが、今年度はオフィスアワー時における来室者がゼロなので、特に対応・措置は取らなかった。
- ・携帯の番号を教えている
- ・同室のものに居場所を告げておく。ケイタイ番号を同室のものに告げておく
- ・特に学生の訪問が予想される場合に限り事前に連絡。
- ・連絡用の掲示板を研究室前に設置
- ・所在を示す掲示板を設置している、研究室を学生に開放している

経済学部

- ・連絡方法を記入したメモを入れてもらい、後日、こちらから連絡している。
- ・メール
- ・オフィスアワーは随時なので日を改めさせる
- ・時間設定はしていない
- ・在室時に随時相談にのる。
- ・メール対応
- ・掲示(“会議で居ません”)
- ・随時相談にのる
- ・いつでも門戸を開いているので、特段の措置はとっていない
- ・講義の前後

医学部

- ・同僚教員に代理依頼
- ・電子メール
- ・代理をお願いする
- ・PHS番号を公表してます
- ・メール
- ・メールでのアポを原則
- ・電子メールでお互いの都合を確認。
- ・前もって知らせる
- ・Eメールを使用
- ・医局秘書に対応してもらい、メール等で事後対応する
- ・メール等で事後対応
- ・事務補佐員等による対応
- ・オフィスアワーは随時としている。不在時には、ドアの行先表示で表示している。
- ・オフィスアワーを設置していません。
- ・メール
- ・事前連絡によるアポイントメント
- ・不在日時を伝言する
- ・メールを利用
- ・次回の予約を入れる。
- ・他の教員が伝言を受ける。
- ・伝言をマグネットボックスに入れてもらう。
- ・電話連絡
- ・オフィスアワーのシステムが行なわれていない。学生の指導よりも特に初期研修医の指導に時間をとっている。
- ・E-mail
- ・電話連絡などを学生にお願いする
- ・予め連絡しておく
- ・随時学生が来るので特にオフィスアワーを固定しなくても対応できている
- ・オフィスアワーに従事した事なく判断しかねるが、e-mailなどでの対応はどうか
- ・電子メール
- ・後日都合のよい日程を決める
- ・事務へ伝言してもらい、後日こちらより連絡

- ・学生に連絡しやすい時間を設定
- ・e-メールにて対応
- ・伝言
- ・オフィスパワーは決めていない
- ・医学部にはチューター制度があり、オフィスパワーは不要と思われます
- ・オフィスパワーを知らない学生が多く、オフィスパワー以外の時間に随時学生の相談にのっている。
- ・他の時間帯を約束する。
- ・メールや電話で日程調整できるようにしている
- ・電子メールを開示。
- ・メールで面接日時を決定
- ・面接等の日時は、随時学生と打合せ
- ・ドアの外に居場所と出張先の概略を表示している
- ・表示・事務教務に連絡
- ・メールで受け付ける
- ・学生とメール等で別な日時に調整する。
- ・事前に連絡をしておく
- ・事前に調整しておく／不在時の連絡先を示しておく／他の教員に対応を依頼しておく
- ・事前に連絡するor他の教員へ対応を依頼する
- ・こちらの指定した時間に学生が合わせられない状況が予測できる
- ・メールや電話で対応
- ・事前に掲示
- ・携帯電話を持参している
- ・メール、電話連絡
- ・オフィスパワーで来室した学生はいないので、特に措置はとっていない
- ・オフィスパワーはとくに設置していない
- ・メールで対応する。
- ・メール
- ・時間を設置していないが必要時はメールや携帯TELで連絡する
- ・学生にメールで通知もしくは、研究室ドアにその旨表示する。

理工学部

- ・不在の時は他の先生を訪れる。(大学院を除く)
- ・出張や急な会議、委員会で不在にしなければならないときがあるため、オフィスパワーは設定していない
- ・メモを残させる[次回のアポイントを添える]
- ・今迄そういう機会が無かったが、もしある場合にはその旨を通知して別の時間帯に来てもらうよう促す
- ・特になし。オフィスパワーの設置により学生にその時間しか教員に接することができないと思わせるのはマイナスでは？基本的には、全てがオフィスパワーでは、
- ・部屋の前の行先表示にその旨のメモを貼る
- ・学生はオフィスパワーとは無関係に相談に来るので、特に何もしていない。予め連絡をとってくれる学生には、時間を指定している。
- ・オフィスパワー以外に面談可能な時間帯を部屋のドアに掲示
- ・掲示等を行う
- ・電子メールで24時間365日受けつけている
- ・電子メールで他の時間を決める
- ・電子メールの利用
- ・電子メールによる応談
- ・入口扉に行き先を明示している。メモをマグネットで扉に貼りつけるよう指示し、後日改めて面接できるようにしている。
- ・伝言を受け付けたり、メールをもらっている。随時としているので特に措置はない。
- ・掲示による連絡
- ・オフィスパワーの時間を特に決めていない

- ・メールにて対応(メールは出張先でもアクセス可能)
- ・メール、あるいは日時の指定
- ・専門の近い教員に依頼
- ・国内出張の場合は、出張後対応、国外出張の場合は専門の近い教員に依頼する
- ・学内においては行先を表示、出張は未対応
- ・後日連絡
- ・電子メールによる対応を行っている。オフィスアワーに限らず時間があるときは、対応するようにしている。
- ・電子メールにて相談に乗っている。
- ・行先表に記入
- ・対象学生にはオフィスアワーだけでなく、随時相談にのると伝えてある。
- ・特に、公言はしていない。本人が他の時間に再来室すれば応じている。
- ・オフィスアワー以外にも随時学生の相談にのるようにしている。
- ・できるだけ在室することになっている(特別な措置なし)
- ・居室ドアにはり紙をはる
- ・オフィスアワーにこだわらずに来室するようにと伝えています。
- ・学科事務室に不在の旨を知らせている。
- ・特になし(オフィスアワーに来室する学生はほとんどいない)
- ・出勤しているときは、教員室の入口に当日の予定を記入して掲示している。当然、オフィスアワーの時間帯も記述している。換言すると、出張等で在室しないとき(1日中)は、これを掲示していない。不在のときの措置と問われれば「何もしていない」と回答するしかない。
- ・次週来室するよう貼紙を部屋のドアにしている。
- ・随時受付ているので、次の機会に相談に来る。
- ・メールによる連絡
- ・他の曜日・時間に設定する。
- ・随時学生の相談にのるようにしている。
- ・学生はオフィスアワーに関係せず来室する。
- ・メールでアポを取るよう指導している。

農学部

- ・メールを利用
- ・特にとっていない。予約等のある場合には、別の日を指定する。
- ・時間を特定せず、随時学生の相談にのる
- ・予約制にしているので、該当しない
- ・オフィスアワーを設定せず、常時、受け付けている
- ・随時、学生の相談は受け付けている。
- ・代替時間を告知する
- ・ケイタイに連絡してもらう
- ・原則的に予約制であり、予約の段階で互いの都合を調整するので問題は発生しない
- ・学生と予め、時間等を打ち合わせた後、面談…(オフィスアワーにとられない)
- ・在室している時は必ず対応している。

留学生センター

- ・予め告知＋不在時にはオフィスのドアにその旨を明示
- ・不在理由をドアに表示している
- ・ドアに掲示をし、事務室で事情をたずねるよう指示している。
- ・研究室のドアに掲示する(国際課に問い合わせるように指示する文面を含む)
- ・部屋のドアに「出張中」のはり紙をする
- ・出張から帰る日を研究室のドアに分かるようにしている。教員が帰ったときに会えるだろう。

保健管理センター

- ・メール、事務室で受け取り、など

- ・メールでの相談を受けている。予約をとって、相談に応じている。
- ・他職員に対応してもらい後日、対応する。

総合情報基盤センター

- ・利用されなかったので特になにもしていない。
- ・他の時刻を指定する
- ・電子メールによる対応
- ・他の日に来てもらう
- ・メールによるやりとりをする。

低平地研究センター

- ・予めメールでアポを取ってもらうようにしている(在室の場合で直接来室した場合はアポなし)
- ・別の時間に設定している

シンクロトン光応用研究センター

- ・連絡係(事務補佐員)に伝言する
- ・eメール、eラーニングの談話室(提示板)にて、随時対応していた。
- ・連絡先を明らかにする。

高等教育開発センター

- ・電子メールで連絡を事前に入れるよう推奨している。あまりルールを守ってくれない学生が多いため、H18から随時に変更した。

11. 学生による授業評価アンケートの結果、授業が改善された事例があれば答えて下さい。

文化教育学部

- ・声の大きさ、スピード、板書、講義資料(教科書を含む)、講義内容
- ・1回述べただけでは、理解できないことが多々あるので、くりかえし述べるようにしている。
- ・アンケートを実施すると、その後の授業に取り組む態度がよくなると思う。さらに学生の自己評価項目を増やしたほうがいいと思う。
- ・板書
- ・授業の進度の改善等
- ・自由記述欄への書き込み(数は少ないが)に対応する努力はする。たとえば、説明をより詳しくする、確認のための小テストを行なう、など。
- ・授業内容を平易にした。
- ・声の大きさや速さをもっと大きくゆっくりはなす。板書を消す時に確認をとる。
- ・学生の反応と理解度を確認しながら授業を進めるために、理解度チェックや感想文を書かせたり、Q & Aの時間を設定し質疑応答の討論機会を作ったりしている。
- ・学習指導法の改善、レポートの評価規準・基準の公開等
- ・シラバスの内容の一層の充実や学生の要望をより積極的に汲んだ授業内容の充実化。
- ・学生は意外とシラバスを見ていると思った。
- ・学生の関心を問い、その結果により、授業内容を若干変更したことがある。
- ・いろいろケースバイケースで利活用させて頂いている。例えば、理解度チェックテスト、Q & Aコーナーの設置、グループディスカッション、全体設備、質問紙への次週回答等々
- ・実践的ケースが多いので大いに役立っている。
- ・最も多い意見は声が聞きとり難いこと。既に声を大きくする努力はしており、マイクの使用を考える必要を感じて何度かお願いしたが実現しない。私の意見としては、アンブ+スピーカ…各教室設置。ワイヤレスマイク…教員に配布。のようなシステムを作って欲しい。

- ・ビデオ見たいとのアンケート結果があったためビデオを見せて学生が満足した
- ・平成10年頃から学生に教師役として授業を担当させる方法を導入しているが、最初は希望者だけにしていたが、全員がしたいという希望があり、今は全員に経験させている。

経済学部

- ・話すスピードをゆっくりにしている。パワーポイントのスライド変更に時間をかける。
- ・学生が書き写している時に解説をしない。
- ・問題、練習をふやした結果少し理解がよくなった
- ・全学アンケートはほとんど役に立たない・独自のアンケートをしている→改善点多数
- ・学生のレベルを考えて、教材を工夫する。たとえば、2年生相手なので、新聞の切り抜きなどをコピーして配付することで、関心をもってもらうようにする。
- ・講義の内容は、いくつか基本ポイントを絞る。また、練習問題を講義中にできるだけ取り入れる。
- ・アンケートをとるだけで効果があるとは思われません。アンケートの結果を有効に使いたいのであれば、アメかムチを与えるべきです。
- ・共通アンケートではなく、独自に行った個人アンケートによる学生の声をもとに、「完成」したレジュメではなく、重要な箇所・ポイント等を一部空白にしたレジュメを配付することにより、学生も講義に集中するとともに、要点が分かりやすくなった。
- ・アンケート方法・質問項目が無意味なので、活用することができない。

医学部

- ・シラバスの改良。
- ・アンケートとは別に改善を考えている
- ・利用する英語資料のレベルを少々低くした。
- ・大学によるアンケートは結果が出るのが遅いため、あまり授業改善に役立たない。個人的に、アンケートを別にとるようにしているが、教壇では気づかないコメントや、改善すべき点を直接学生からリアルタイムで収集できるので非常に授業の品質管理に役立つ。
- ・授業時間を増やした。シラバスを一部改定した。次年度に分かりにくい内容を注意して講義した。
- ・声が聞こえにくいという意見があったので大きな声で講義をした。又、板書がわかりにくいという意見があったので、わかりやすい板書をした。
- ・板書・スライドの多用
- ・照明の使い方、資料の作成etc
- ・レジュメを完成度の高いものにしたり、なるべく、視覚に訴える内容をふやした。
- ・学生の理解が困難な点を把握し、スライドに説明を追加した。
- ・スライドが見にくい部分を指摘され改善した。
- ・マイナス意見の中には、こちらの意図と逆のことを考えているためにマイナス意見を書いている学生がおり、今後もマイナス点数になろうとも、その点はつらぬかねばならないと思った。
- ・シラバス内容を最新のものにする。
- ・OHPをパワーポイントによる画像を提示方法にかえて見やすくした。内容を一部変更し興味がわくようにした。
- ・他の教科との重複をさける
- ・H18年より大学勤務ですので従来との比較できず疎な回答ですいません
- ・アンケートをみてカリキュラムを中心に改善をはかっている(医学科全体)
- ・板書の仕方・配布プリントの構成
- ・スライド原稿をプリントして渡すようにした
- ・スライド原稿をプリントして渡すようにした
- ・知らないのですが。(PBLについては前年度初めてアンケート結果をみました。)
- ・講義時間の遵守
- ・学生の注意が、自分の話の方へ向くよう、気を配るようになった。
- ・事例や例題を増やしてほしいとの要望に答えた
- ・PBLシナリオ・作成を参考とした。
- ・字を大きく書いて欲しい、程度のこと。

- ・授業時に配る資料を改善した。
- ・資料作成方法を改善した。プレゼンテーションに動画を多用している。
- ・資料の充実を進めている
- ・全ての授業が終了してから取ったアンケートにどれほどの意味があるのかわからない。
毎年、入ってくる学生は、違うのだから、リアルタイムに情報を集める方が有効である
ことは、自明だと思う。
- ・声が小さい
- ・カリキュラムの編成(3コマ連続同一科目を少なくする。)
- ・出欠のとり方の合意、レポート講師の公開、各回のキーワードの明示、使用程度を考え、
教科書指定からテキスト紹介に変更(高価といわれた)
- ・コメントやチェック項目について、具体的に学生に話を聞く→教科書指定を検討した。
- ・資料の文字を大きくする。シラバスの説明を最初に十分行なう
- ・シラバスの作成方法や配付方法など
- ・授業の方法論を修正した
- ・講義内容の重複などは、講師が複数の場合にどうしても生じやすい課題である。学生に
よる授業評価の結果をみなくても、すでに評価できている内容が多い。
- ・配布資料や実技試験に反映させ、学生に理解されやすくした。
- ・1年生のアーリーエクスポージャーの評価が他の科目と混乱するため日程の組み方を工夫
したところ、混同する学生が減った。

理工学部

- ・「板書を消すのが早い」という指摘があったため、板書の方法を工夫した。
- ・テキストとして用いた配布資料が手書きで読みにくいという回答があったため、数式文
書として作成して読みやすい資料に改善した
- ・板書の仕方・授業の加速の程度調整
- ・マークシート部分の回答では講義のスピードに関するclaimがあったので少し意識
した。筆記部分では講義中に演習問題をもっと解かせて欲しいという要望があったが、
これについては講義内容時間に関わる事であり現在検討中である
- ・授業で使う講義ノートに掲載する演習問題数の増加とその略解、解説の増量を学生の希
望に応じて行った。
- ・学生の授業内容の理解度をよく知るために、課題レポートを課すように努力した。
- ・板書の仕方を工夫するようになった
- ・内容の多様化、出席のとり方、配布資料の改良
- ・話すスピード、板書の大きさ、課題の適切さ
- ・要望により小テストを導入
- ・板書をていねいに行うようになった。授業の進行の程度を学生の理解度にあわせるよう
になった。
- ・進行情況、板書の大きさ、演習の取り入れなど多数。裏面記載の極少数だが好意的な意
見により、モチベーションがとても上がった。
- ・授業が進む速さが速いという指摘があったので、要点を絞ったら、学生の評判が良くな
った
- ・授業のやり方、テクニカルな部分の改善
- ・学生とのコミュニケーション機会を増やした。
- ・学科ではアンケート結果を分析し、それを基に教員が自ら評価を行い、さらに、次年度
の改善策を提示する。これに従い、授業が改善されている。
- ・チョークの色を変更した。
- ・授業改善の意欲は出ているが、目に見える形で成果が上らず地道にやるしかないと感じ
ている。
- ・前年度よりも今年度の方が学生の評価が良くなっていた。講義の進め方(学生の反応を
見て講義の内容とスピードを工夫する)
- ・演習に対する姿勢がかわった。
- ・板書を丁寧に書くようになった。
- ・板書の仕方、話すスピード、学生のノート記入時間
- ・板書方法の改善。

- ・特に大きな改善はない。標準レベルであれば、それをいかに維持するかの方が大事である。
- ・学生の理解を深めるため、演習、レポート課題(宿題)を増やした。・教科書に加えて参考資料を配布した。
- ・黒板の使用方法(広く使うようにした)
- ・字はできるだけ大きく、ゆっくりと複数回しゃべって、理解度を上げるようにしている。
- ・授業の進み具合が変更した。
- ・話す速さ→ゆっくり。・プロゼクターの使い方→ゆっくり。・学生の理解度を知ったこと
→教員が思っている程理解できていないので、ていねいに教えるようにしている。
- ・学生が授業の意義を知りたがっていることが分かったので、講義の冒頭で授業内容の背景について少し詳しく説明するようにした。その結果、学生の理解度が向上したことが実感できた。
- ・板書の内容を電子化して公開し始めた。
- ・話し方、コミュニケーションの改善
- ・板書を消すときの学生への確認、シラバスの内容の説明
- ・マイクを必ず使うようにしている。
- ・理解度が私が考えている程高くなかったので演習時間を増やした
- ・学生との学修上の意志疎通を図るため、質問案を提出させ、全体に周知すべき質問に関しては次回講義の初めに全員に向け回答している。講義の中では質問できなくとも、こういう形をとるとどこが疑問なのか表出してくる可能性がある。
- ・講義プリントの内容を変更した。
- ・授業評価アンケートなどより、宿題や演習の学生による解答が最も役に立つ。

農学部

- ・調査項目、学生のコメントは、有効に利用できる。
- ・授業内容と説明のレベル変更等
- ・視覚にうたえ、学生の興味をひく
- ・板書の仕方を良くした。
- ・板書する内容が適切な量であるように心掛けるようになった
- ・授業での配布資料等がより改善された。パワーポイント等が見やすくなった。授業内容が整理され、時間的に余裕をもてるようになった。
- ・板書法、スピーチの速度などを改善
- ・以前より丁寧に板書するようになった。

留学生センター

- ・NA
- ・ディスカッションテーマの選定方法や授業の進度の調整、ビジター制の積極的な導入など
- ・授業内容の改善
- ・留学生[短期留学プログラム]に教える「日本事情」の授業の内容を、アンケートを反映させて、変更した。日本文化・事情を知らない受講者(全体の60%)には好評だったが、知っている受講者にはすでに知っているとのアンケートがあった。

保健管理センター

- ・講義のスピード、声の大きさ、プリントの使い方、など
- ・学生が知りたいことに焦点を当てた講義内容に毎年変更している。

総合分析実験センター

- ・最新事例の採用

総合情報基盤センター

- ・内容の量の適性を考える材料としている

低平地研究センター

- ・アンケート結果は殆んど役に立たない。毎回の授業で質問と同時に要望などを聞いている(例えば、パワーポイントの文字が小さいなど)ので、そちらの方が有益だし次週に反映できる。
- ・OHPを変えるスピードを遅くし、講義毎のクイズを全て採点・返却し、学生の期末テストの勉強材料とさせた

シンクロtron光応用研究センター

- ・学生のレベルがわかるので、講義姿勢が積極的になる
- ・OHPの利用をなるべく少くした。

高等教育開発センター

- ・授業の進み具合の調整、授業への関心・興味の喚起
- ・話すスピード、講義の進めるスピード、図表の呈示方法などを改善した。

平成18年度第7部会（地域と文明）部会会議

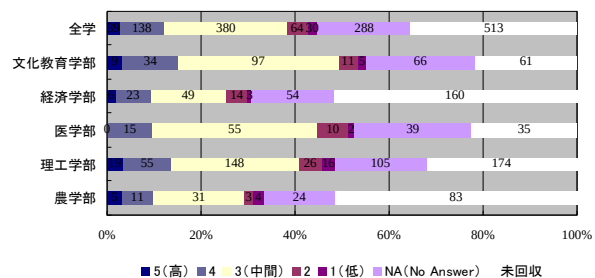
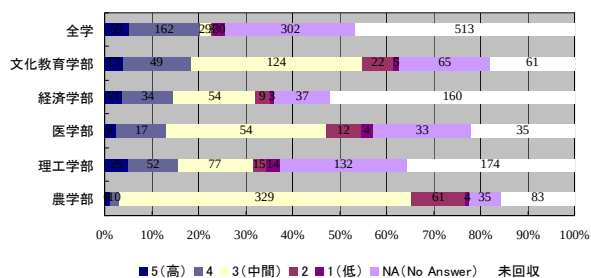
日 時：平成19年1月24日（水）10：20～

場 所：教養教育運営機構会議室

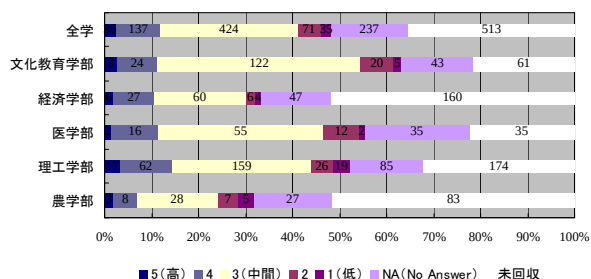
< 議 題 >

1. 当部会における今後の開講予定状況について・・・・・・・・・・資料1
2. 当部会の授業科目に対する学生の評価について・・・・・・・・・・資料2
3. シラバス作成について・・・・・・・・・・資料なし
4. 授業改善案の作成について・・・・・・・・・・資料3
5. その他

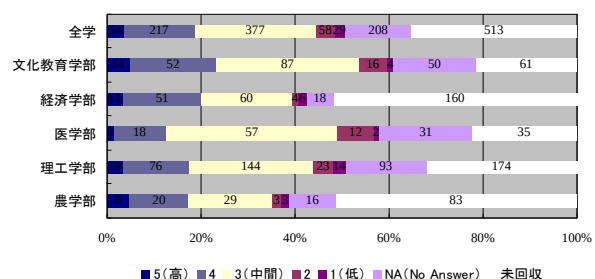
資料 2 出所) 平成 18 年度佐賀大学学生対象アンケート報告書



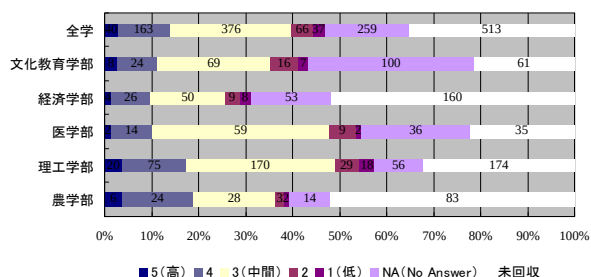
主題科目(第 1 分野)の授業について満足していますか？



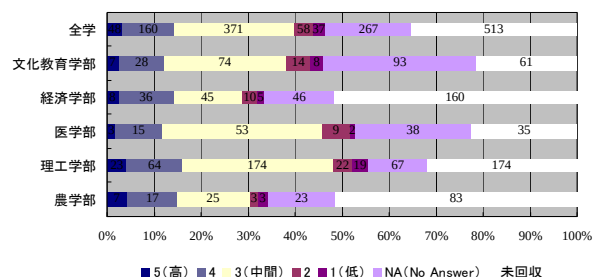
主題科目(第 2 分野)の授業について満足していますか？



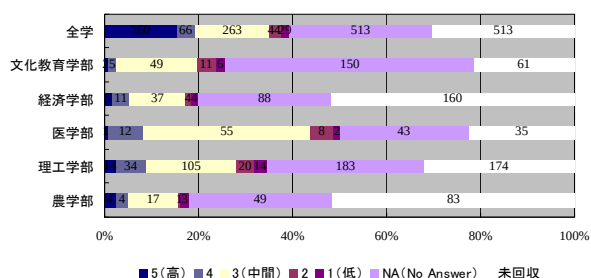
主題科目(第 3 分野)の授業について満足していますか？



主題科目(第 4 分野)の授業について満足していますか？



主題科目(第 5 分野)の授業について満足していますか？



主題科目(第 6 分野)の授業について満足していますか？

※未回収および NA を除外した平均値

第 1 分野=3.2、第 2 分野=3.1

第 3 分野=3.1、第 4 分野=3.3

第 5 分野=3.2、第 6 分野=3.2

第 7 分野=3.0

主題科目(第 7 分野)の授業について満足していますか？

- ・学生は第 7 分野をやや低く評価している。
- 「地域」を題材に問題発見、課題解決の涵養を図る趣旨が理解しにくい？

国立大学法人佐賀大学部局等評価検証結果報告書

部局等の名称 高等教育開発センター

部局等評価の実施時期 平成18年9月

1. 評価手法

当該部局から提出された評価手法に関する資料に基づき部局等評価の評価手法について検証した結果、

○評価手法は適切であった。

・評価手法には改善すべき点があった。（具体的な内容は別紙1）

2. 評価基準

当該部局から提出された評価基準に関する資料に基づき部局等評価の評価基準について検証した結果、

・評価基準は適切であった。

○評価基準には改善すべき点があった。（具体的な内容は別紙2）

3. 評価の妥当性

当該部局から提出された自己点検・評価報告書に基づき部局等評価の妥当性について検証した結果、

・評価は評価基準に照らして妥当である。

○評価は評価基準に照らして妥当でない点があった。（具体的な内容は別紙3）

国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則第3条第2項に定める検証を行い、上記のような結果が得られた。

平成18年12月23日

検証者 氏名

佐々木道印

平成 18 年 12 月 23 日

国立大学法人佐賀大学
高等教育開発センター長殿

18 年度学外検証者

佐古 宣道



18 年度自己点検・評価に係る検証結果について

貴センターの自己点検・評価の検証資料に関して検証者から事前に提出しました照会事項（別紙参照）について、18 年 12 月 18 日（月）17 時 30 分から理工学部学部長室でセンター長始め関係者との訪問調査（質疑応答ならびに追加資料の提出）を実施しました。その結果について、評価の基準あるいは妥当性の項に部分的に関係して点もありますが、次回の貴センターの自己点検・評価までに改善を要望したい事項も合わせて下記のように報告します。ご検討をお願いします。

記

1. p.32 の「2 年任期の専任教員が活動に専任できる体制にない」は改善をすべきです。定員削減による活力低下も懸念されますが、有効な対策が必要でしょう。例えば、研究調査の項目を絶えず見直し、新規項目に集中的研究を実施するような柔軟な組織作りなど。
2. p.55 から記載されているアンケート結果は、回収率が悪いが、多数の意見が出されている。学内関係者と協議してセンターの活動の現状を学内外に周知するよう努めるべきと思います。
3. 2 項に続いて、多数の調査報告書ならびに学生対象アンケート報告書などで浮かび上がった問題点については、学内関係者と協議して、改善のために寄与できるよう努めていただきたい。教育先導大学を標榜する佐賀大学にとり大変貴重な調査資料ですから、死蔵しないでください。

高等教育開発センター運営委員会(第1回)・議事要旨

[日 時] 平成19年4月10日(火)16:50～17:33

[場 所] 学生センター会議室

[出席者] 遠藤、角、高崎、大石、川野、村山、上野、長、中山、埴原、木上、近藤(榮)、瀬口、山下

[欠席者] 吉中、佐長、酒見、渡、奥村

[事 務] 奥村、江崎

[議 題]

1. 高等教育開発センター規則の改正について

センター長から、資料1のとおり平成19年度年度計画に基づく企画開発部門を「企画評価部門」と「教育開発部門」に分割する規則改正案の説明があり、審議の結果、第3条第5項第3号の「高等教育」という表現について、他の条項との整合性などから「大学教育」にあらためる可能性があることも含め、提案どおり承認された。

2. センター人事について

センター長から、資料2のとおり規則改正にともなう人事について説明があり、提案どおり承認された。

なお、併任者の選出方法について質問があり、センター長が該当業務の適任者について選定及び推薦を受け、個別にお願いし内諾が得られれば、正式に学部に依頼をしているとの説明があった。

3. 受託研究の受入について

センター長から、資料3のとおり説明があり、研究担当者について「部門長名」、「センター長名」等に変更する可能性も含め、提案どおり承認された。

[報 告]

1. センターの役割について

センター長から、資料4のとおり報告があった。

これに対して、センターが大学教育委員会の下部組織化しているのではないかと質問があり、センター長から平成18、19年度は大学教育委員会との連携がセンターの課題であるため、それに対応した結果であり、20年度以降の活動については不明であるとの説明があった。

次回の委員会の開催日については、後日調整し、決定することになった。